

(受学管 7 - 9)

笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事

図 面 リ ス ト											
N o	図 面 名 称	SCALE	N o	図 面 名 称	SCALE	N o	図 面 名 称	SCALE	N o	図 面 名 称	SCALE
0 0	表紙・図面リスト	-									
M	【機械設備】		A	【建築】					E	【電気設備】	
0 1	共通特記仕様書	-	0 1	建築改修工事特記仕様書（１）	-	2 1	現況 立面図（１）	1/100	0 1	電気設備工事特記仕様書 1	-
0 2	機械設備工事特記仕様書 1	-	0 2	建築改修工事特記仕様書（２）	-	2 2	現況 立面図（２）	1/100	0 2	電気設備工事特記仕様書 2	-
0 3	機械設備工事特記仕様書 2	-	0 3	建築改修工事特記仕様書（３）	-	2 3	改修 立面図（１）	1/100	0 3	分電盤結線図・機器リスト	-
0 4	付近見取図、配置図、仮設計画図	1/200、1/2500	0 4	建築改修工事特記仕様書（４）	-	2 4	改修 立面図（２）	1/100	0 4	電源設備 1 階平面図 1	1/100
0 5	空調設備機器リスト	-	0 5	建築改修工事特記仕様書（５）	-	2 5	矩計図（１：内部）	1/30	0 5	電源設備 1 階平面図 2	1/100
0 6	空調設備 1 階平面図	1/100	0 6	建築改修工事特記仕様書（６）	-	2 6	矩計図（２：内部）	1/30	0 6	空調計装設備 1 階平面図	1/100
0 7	空調設備 展開図	1/100	0 7	建築改修工事特記仕様書（７）	-	2 7	矩計図（３：外部）	1/30	0 7	電灯設備 改修 1 階平面図	1/100
0 8	空調設備 立面図	1/100	0 8	建築改修工事特記仕様書（８）	-	2 8	建具符号図	1/200	0 8	電灯設備 撤去 1 階平面図	1/100
0 9	施工参考図	-	0 9	建築改修工事特記仕様書（９）	-	2 9	建具リスト	1/50			
			1 0	建築改修工事特記仕様書（10）	-	3 0	部分詳細図（１）	図示			
			1 1	建築工事特記仕様書	-	3 1	部分詳細図（２）	図示			
			1 2	現況 1 階平面図	1/100	3 2	（参考図）仮設計画 1 階平面図（外部）	1/100			
			1 3	現況 2 階平面図	1/100	3 3	（参考図）仮設計画 2 階平面図（外部）	1/100			
			1 4	現況 1 階天井伏図（内部）	1/100	3 4	（参考図）仮設計画 1 階平面図（内部）	1/150			
			1 5	改修 1 階平面図	1/100	3 5	（参考図）仮設計画立面図（１）	1/100			
			1 6	改修 2 階平面図（内部）	1/100	3 6	（参考図）仮設計画立面図（２）	1/100			
			1 7	改修 1 階天井伏図（内部）	1/100						
			1 8	改修 2 階平面図（外部）	1/100						
			1 9	屋根伏図	1/100						
			2 0	改修 天井伏図（外部）	1/100						

A - 2 0 ・ 2 3 ・ 2 4 図に【機械設備】【電気設備】工事内容記載あり

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第 39 号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	N o . - 0 0
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣（ ） 交付番号（ ）	図名 表紙・図面リスト	縮尺 A2: - A3: -

A	工事概要		k その他		- 交通誘導警備員は、現場説明書による。 - 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めに従って、各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げ、所定の様式により監督職員に提出する。 - 受注者は、宇治市が指名停止処置を行っている第三者に対して宇治市の契約についての全て、若しくは一部を下請、受託させてはならない。																				
	1	工事名称	(受管 7・9) 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	l 過積載防止	受注者は本工事における材料等の搬出入に伴う、工事車両の過積載防止について、十分注意を払うと共に、下請負人への指導を徹底する。																				
	2	工事場所	宇治市炭山直谷 3 1 番地	m 官公庁その他への手続き	工事の施工に必要な官公庁その他への手続きは、受注者の責任において速やかに行うものとする。																				
	3	工事期間	入札通知書による。	n 技術者及び現場代理人	なお、これに要する費用は受注者の負担とする。																				
	4	規模構造	鉄骨造 平屋建て	o 工事完了時の整地	受注者は工事完了時に、工事敷地内及び車両通行部分は、必要に応じ砂を搬入し、整地を行う。既設コンクリート舗装、アスファルト舗装等の損傷箇所については、原状復旧する。																				
	5	延床面積	4 8 0 . 7 4 m ²	p 建設発生土の処分	- 建設発生土を搬出する場合は「残土処理計画書（報告書）」を提出する。同計画書には処理場所の位置図及び経路図、受入承諾書を添付する。同報告書には処分したことが判明する資料（受入証明書）及び写真等を添付する。 - その他の建設発生土の取扱いについては、現場説明書による。																				
	6	工事範囲	- 体育館空調設置工事に伴う機械設備工事 一式 空調機器設置工事 換気設備設置工事 - 上記に伴う建築工事 一式 空調機器基礎新設工事 外構工事 塗装改修工事 建具改修工事 - 上記に伴う電気設備工事 一式 空調機器の電源工事 換気設備の電源工事 - 上記に伴う撤去・処分 一式	q 解体等工事の事前調査	- 受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第1項・第4項に基づき、改修工事対象となる全ての部材について、特定建築材料の使用の有無について調査し、その結果を発注者に説明する。 - また、第18条の15第3項・第4項に基づき、事前調査結果の記録を作成し、保存しなければならない。 - 調査方法は、分析による調査、目視、設計図書等による。 - 受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第5項に基づき、事前調査結果を公衆の見やすい場所に掲示する。																				
	B 特記仕様書																								
	1 共通事項	a 施工基準	本工事は契約書及び 質疑回答書 現場説明書 特記仕様書 設計図 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編）及び公共建築工事標準仕様書（建築工事編 機械設備工事編・電気設備工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 4 年版）により施工する。なお、設計図書間に相違がある場合の優先順位は上記記載の順とする。	2 発生材等処分	工事に伴う撤去材	- 撤去材・発生材は、場外搬出し関係法令を遵守し処理するものとし、「廃棄物処理計画書（報告書）」を適時提出する。同計画書には、当該廃棄物の処分業の許可証の写し、受注者と処分業者の契約書の写しに加えて、処分地の位置図及び経路図を添付する。また廃棄物を委託して運搬する場合は、該当する収集運搬業の許可証（搬出地と搬入地）の写しと受注者と運搬業者との契約書の写しを添付する。同報告書には処分したことが判明する資料として、運搬管理表(又はマニフェストの写し)及び写真等を添付する。 - 本工事の施工により発生するアスファルト塊、コンクリート塊及び木材は再資源化施設に搬出する。 - その他の建築副産物の取扱いについては、現場説明書による。 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」による産業廃棄物の収集運搬車に係る表示及び書面添え付けを行う。 - 工事完了時に産業廃棄物の収集運搬車両への表示状況が確認できる写真を提出する。																			
		b 監理基準	本工事は建築改修工事監理指針及び建築・機械設備・電気設備・各工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和 4 年版）により監理する。		産業廃棄物税	「京都府産業廃棄物税条例」に基づき導入される産業廃棄物税（以下「産廃税」という）は京都府内の最終処分施設に搬入される産業廃棄物について課税されるものである。また、中間処理施設に搬入された産業廃棄物においてもリサイクル後の処理残滓（ザンサイ）等が最終処分場に搬入される場合は、最終処分場に搬入される量に対して課税される。																			
	c 提出書類等	契約書及び設計図書に定められた提出書類等を監督職員の指示により、定められた期日までに提出する。受注者は、下請契約を締結する場合には、下請金額に関わらず、施工体制台帳を提出する。また、施工体系図においては、すべての下請負人及び営業者を記載する。なお、施工体制台帳には監督職員が指示する書類を添付して提出する。			なお、本工事においても、産廃税相当額を見込んでいる。（産廃税も本工事に含む）																				
	d 建設業退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度（建退共）に加入の上、掛金収納書を提出する。工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」を掲示し、工事完成時には「建退共運営実績報告書」、「労働者の就労日報」及び「共済証紙受払簿」を提出する。また、下請負人に対しても同共済制度加入を奨励する。																							
	e 工事実績情報	受注者は受注時、変更時及び完成時の各時点において、あらかじめ登録内容について監督職員の確認を受けた上で、それぞれ 1 0 日以内に（一財）日本建築情報総合センターへ工事実績情報サービス入カシステム（C O R I N S）の登録申請を行う。また、登録後、直ちに登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する（作成、登録等に伴う費用は受注者の負担とする）。	3 仮設工事	工事電力・工事用水 工事用電力設備 の保安責任者 設置・維持管理 仮囲い 内外足場・養生等	現場説明書による。 工事用電力設備の保安責任者を定め報告する。当該施設に電気主任技術者が専任されている場合はその指示を仰ぐ。 持込電動機器は整備された機器以外は持込させてはならない。また、仮設分電盤内に漏電遮断器を取り付け事故の防止に努める。 現場説明書による。 施工範囲・資材置場等に対しての侵入防止策を講じる。（フェンスバリケード（シート貼り共）等） 詳細については仮設計画図による。																				
	f 建設工事保険等	受注者は、工事目的物・工事材料等を建設工事保険等（第三者保険を含み、火災による損害が見込まれる場合は火災保険を含む）に付し、その保険証書の写し又はこれに代わるものを提出する。なお、その保険の加入期間は、工事着工の時から、工事完成期日後 1 4 日迄とする。			足場等は、労働安全衛生法・建築基準法・建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い適切な材料および構造のものとし、適切な保守管理を行う。高所作業車使用時含む。また、仮設計画を作成し監督職員と協議を行う。 近接する他の部材や工作物の部分を損傷しないようにメッシュシート又は工事用シート等で養生を行う。外部足場については、手摺先行型枠組本足場（W＝900以上）とする。足場の設置に関しては、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 平成 1 5 年 4 月制定・平成 2 1 年 6 月 1 日改正）」に基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保する。また、外部足場には昇降足場を設置する。																				
	g 労災補償に必要な 法定外の保険契約について	受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年法律第35号）に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険（法定外の労災保険）に付する。			受注者は、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則等の改正（平成31年2月）に伴い、高所作業を行う場合には、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に基づき、墜落、転落による労働災害の防止に努める。																				
	h 工事写真・完成写真	工事写真撮影ガイドブック（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和 5 年版）を参考に、着工前・工事中の各段階の工程の内容が充分把握できるよう撮影する。工事完成時には、完成写真を撮影し、着工前・工事中と共に工事用アルバムに整理の上 1 部提出する（データ共）。																							
	i 不正軽油使用防止の徹底	なお、着工前・完成写真は、着工前・完成を一对（左右または前後）として整理すること。 受注者は建設機械等の燃料としての軽油は J I S 規格軽油以外のものを使用してはならない。 また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。																							
	j 一般事項	- 軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 - 工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 - 騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 - 既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 - 使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 - 工事完成時には、社内検査を実施する。 - 本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 - 使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器・低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。	4 その他	ホルムアルデヒド等の 放散量測定について 電気・機械設備工事	「学校環境衛生基準」により、工事着工前及び工事完成時において、当該居室における空間のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・パラジクロロベンゼン・エチルベンゼン・スチレンの濃度を測定し分析結果を監督職員に提出する（検査方法・判定基準とも「学校環境衛生基準」（平成 2 1 年 4 月 1 日施行）による） 分析機関・測定器具については、国土交通省住宅局「ホルムアルデヒド、トルエン、パラジクロロベンゼン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレン用バッシブ採取機器（サンプラー）一覧表（学校用）」による。（平成 2 1 年 4 月 1 日改訂版） 測定場所：体育館 2 箇所 工事着工に際し、事前に必要な機器（照明機器・放送設備・空調機器・受信設備等）器具の機能確認を行い、その結果を書面に監督職員に報告する。																				
			<table><tr><th>名称</th><th>内容</th><th>サイズ</th><th>部数</th></tr><tr><td>完成図（背張り製本）</td><td>特記仕様書・完成図・施工図</td><td>A 3 版</td><td>1 部</td></tr><tr><td>完成図書</td><td>機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類（写）</td><td>A 4 版</td><td>2 部</td></tr><tr><td>諸官庁提出書類</td><td>副本</td><td></td><td>一式</td></tr><tr><td>完成図データ</td><td>CADデータ（ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する）、PDF</td><td>C D - R</td><td>2 部</td></tr></table>	名称	内容	サイズ	部数	完成図（背張り製本）	特記仕様書・完成図・施工図	A 3 版	1 部	完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類（写）	A 4 版	2 部	諸官庁提出書類	副本		一式	完成図データ	CADデータ（ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する）、PDF	C D - R	2 部		
名称	内容	サイズ	部数																						
完成図（背張り製本）	特記仕様書・完成図・施工図	A 3 版	1 部																						
完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類（写）	A 4 版	2 部																						
諸官庁提出書類	副本		一式																						
完成図データ	CADデータ（ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する）、PDF	C D - R	2 部																						

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第 9 号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. M - 0 1
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣（ ）	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	図名 共通特記仕様書	縮尺 A2: - A3: -

機械設備工事特記仕様書 No 2

章	項 目	特 記 事 項																
空 気 調 和 設 備	○銅板製煙道 (ボイラー)	厚さ ○ 3. 2 mm ○ 4. 5 mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口																
	○ばい煙濃度計 (ボイラー) ○瞬間流量計	送風機付き ○送風機なし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む) ○固定形 個 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)																
	●保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠 べ い 部 ●不要 ○必要 露 出 部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ●ビニル化粧テープ巻き ・屋外 ●ステンレス鋼板 ○アルミ合金製 ●保温化粧ケース (樹脂製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛めっき鋼板製) ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1 / 2 重ね 1 回巻きとする。																
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト																
換 気 設 備	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式																
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 <table><tr><th colspan="2">ダ ク ト の 長 辺</th><th>板 厚</th></tr><tr><td>4 5 0 mm以下</td><td></td><td>0. 6 mm</td></tr><tr><td>4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下</td><td></td><td>0. 8 mm</td></tr><tr><td>1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下</td><td></td><td>1. 0 mm</td></tr><tr><td>1 8 0 0 mmを超えるもの</td><td></td><td>1. 2 mm</td></tr></table>		ダ ク ト の 長 辺		板 厚	4 5 0 mm以下		0. 6 mm	4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下		0. 8 mm	1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下		1. 0 mm	1 8 0 0 mmを超えるもの		1. 2 mm
	ダ ク ト の 長 辺		板 厚															
	4 5 0 mm以下		0. 6 mm															
4 5 0 mmを超え1 2 0 0 mm以下		0. 8 mm																
1 2 0 0 mmを超え1 8 0 0 mm以下		1. 0 mm																
1 8 0 0 mmを超えるもの		1. 2 mm																
○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ステンレス鋼板 (補強共) 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要																	
●保 温	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ●必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。																	
排 煙 設 備	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m52																
	○ダクトの種別	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト																
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法																
	○ダクトの材料	亜鉛鉄板製 ○鋼板製 (1. 5 mm以上)																
設 計 制 御	○排煙口	1) 形 状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。																
	○保温	床下及び暗渠内の保温 不要 ○必要 (図示)																
		図面による。																
衛 生 器 具 設 備	○小便器用節水装置	電気供給方式	○ A C 電源 ○乾電池 ○自己発電															
	○自動水栓	電気供給方式	○ A C 電源 ○乾電池 ○自己発電															
	○大便器用洗浄弁	手動スイッチ	○ 無し ○ 有り															
	○水石けん入れ	操作方式	○手動式 ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)															
給 水 設 備	○車椅子使用者用器具	○手洗器一体型 ○手洗器分離型	○ 1) 大便器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。															
	○給水方式	○水道直結方式 ○高置タンク方式 ○水道直結増圧方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式 (小型給水ポンプユニット)																
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管	○一般配管用ステンレス鋼管 (S U S 3 0 4) (呼び径 6 0 S u 以下は拡管式、呼び径 7 5 S u 以上は溶接接合) ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (H I V P) ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (S G P - P A 、 S G P - F P A) ○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (S G P - V A 、 S G P - F V A) ○ 地中配管 [屋内] ○一般配管用ステンレス鋼管 (S U S 3 1 6) (呼び径 6 0 S u 以下は拡管式、呼び径 7 5 S u 以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (5 0 A 以下) (1 種 ○ 2 種) (接合方法 メカニカル ○電気融着) ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (H I V P) ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (S G P - P D 、 S G P - F P D) ○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (S G P - V D 、 S G P - F V D) ○ 地中配管 [屋外] ○一般配管用ステンレス鋼管 (S U S 3 1 6) (呼び径 6 0 S u 以下は拡管式、呼び径 7 5 S u 以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (5 0 A 以下) (1 種 ○ 2 種) (接合方法 メカニカル ○電気融着) ○水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (H I V P) ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (S G P - P D 、 S G P - F P D) ○硬質塩化ビニルライニング鋼管 (S G P - V D 、 S G P - F V D)															
	○緊急遮断弁装置	○必要 ○不要	駆動方式 ○電気式 ○機械式															
量 水 器	○現地表示式 (直読式)																	
	○遠隔表示式 (パルス式)																	

章	項 目	特 記 事 項
給 水 設 備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm 2) 構内車両通路 ○600mm 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
	○埋戻し及び盛土	○良質土 ○再生コンクリート砂 ○山砂
	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
排 水 設 備	○本管引込工事	○本工事 (○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで) ○別途工事
	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] ●分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ●分流式 ○合流式 ポンプアップ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ○無し
	●放流式	汚水 ○直放流下水管 ○浄化槽 雑排水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ●別途樹・側溝 雨水ポンプアップ排水 ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 湧水ポンプアップ排水 ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○水道用亜鉛めっき鋼管 ○配管用炭素鋼鋼管 (白) (○ねじ接合 ○MDジョイント) ○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ●保温付きビニル管 (VP) ○排水・通気用耐火二層管 (VP)
水 配 管 設 計	屋内汚水管	○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○排水・通気用耐火二層管 (VP)
	通気管	○配管用炭素鋼鋼管 (白) (○ねじ接合 ○MDジョイント) ○硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○排水・通気用耐火二層管 (VP)
	地中配管 [屋内]	○硬質ポリ塩化ビニル管 (VP) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ●ビニル管 (VP)
	地中配管 [屋外]	○硬質ポリ塩化ビニル管 (○VP ○VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ●カラービニル管 (VP)
給 湯 設 備	鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD、SGP-FVD) とし、継手はフランジ接合とする。	
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	○本工事 (○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで) ○別途工事
	○給湯方式	○中央式 ○局部式
消 火 設 備	○配管材料	○水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-HVA) ○一般配管用ステンレス鋼管 ○鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○被覆鋼管
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2、3、5による。
	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連結送水管 ○
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管 ○配管用炭素鋼鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼鋼管 (白 Sch 40) ○一般配管用ステンレス鋼管 地中配管 [屋内] [屋外] ○消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 (SGP-VS) ○消火用ポリエチレン管 (PE)
ガ ス 設 計	○保温	消火用充水タンクの保温を ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ○施工しない ○施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) 屋内露出管の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) トレンチ内の保温を ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる)
	●ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ○45,000kJ/Nm3 ○ kJ/Nm3) ●液化石油ガス (○50kg 18 本立 ○20kg 本立)
	●ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 子メーター ○購入 ○貸与品 計量方式 (○実測式 ○パルス式)
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内配管 ●配管用炭素鋼鋼管 (白) ○ 地中配管 [屋内] [屋外] ●ポリエチレン被覆鋼管 ●ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。
設 計 制 御	●地中配管の接合方法	○SGM工法 ○ネジ工法 ●PE管工法
	○ビット内施工法	○溶接工法
	●負担金	●不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	○本工事 (○舗装本復旧まで ○舗装仮復旧まで) ○別途工事
設 計 制 御	排水井設備	○掘削工法 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマ式 ○回転振動式 深さ () m ○ケーシング材質 配管用炭素鋼鋼管 (黒) ○配管用ステンレス鋼鋼管
	地中熱交換井設備	○掘削工法 ○回転振動式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマ式 ○ロータリーパーカッション式
	○図面による。	
	○図面による。	
設 計 制 御	○図面による。	
	○図面による。	
	○図面による。	
	○図面による。	

章	項 目	特 記 事 項
浄 槽 設 備	○形式	○ユニット形 ○現場施工形
	○処理方法	○小規模合併処理 (図面による) ○合併処理 (図面による)
医 療 ガ ス 設 備		図面による。

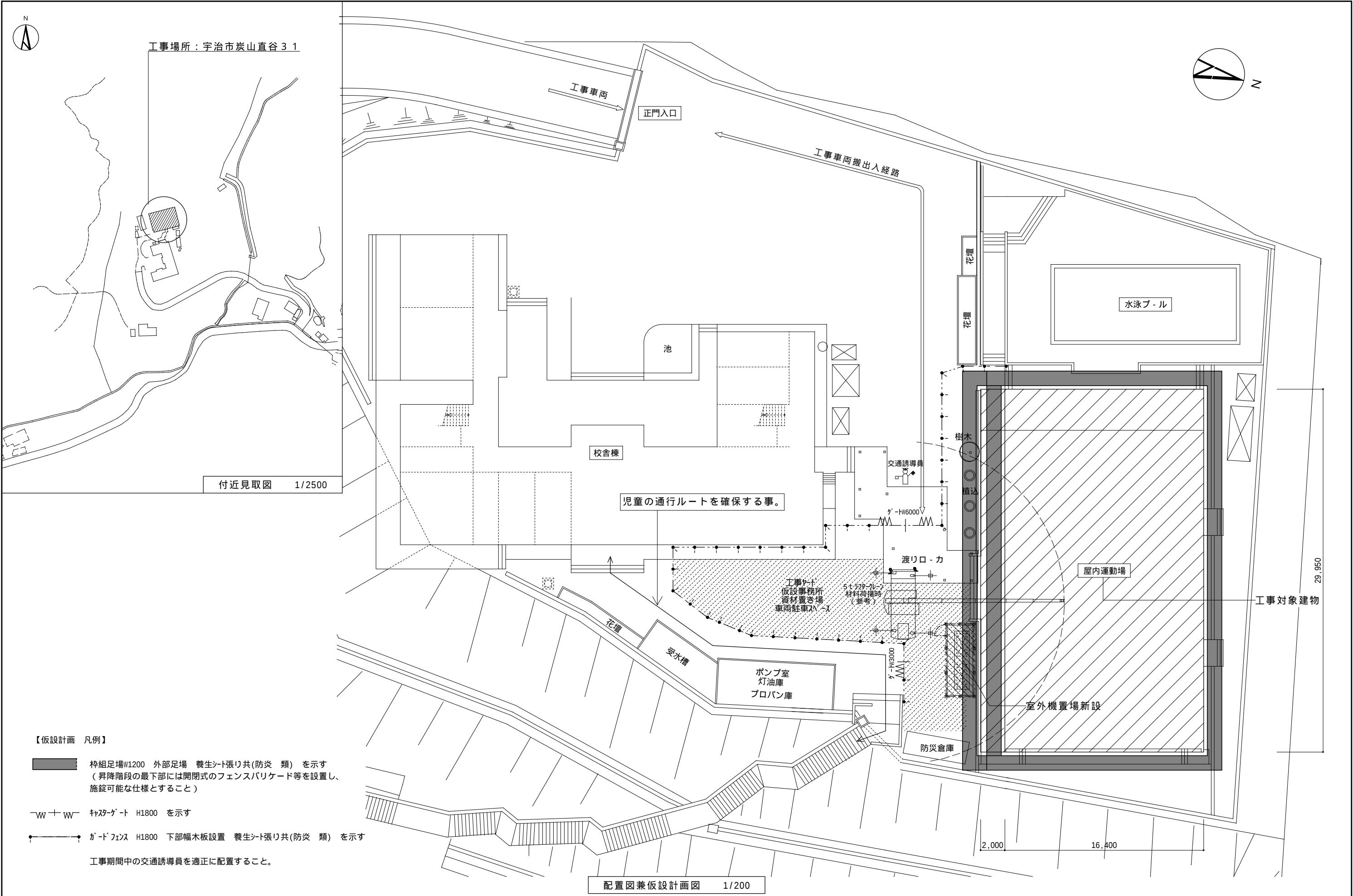
そ の 他	●コア抜き (ダイド 別穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー 日本無機機 ハンディサーチRCレーダー NJJ-85型同等品
	●校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	●交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	●保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	○鉄板敷き	1,524×6,096×厚22mm
そ の 他	●アンカーボルト	

別表 付属品・予備品

○工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー)	○ポンプブライヤー	○ラバーカップ (大、小)
○マンホールフック	○パイプレンチ	○キーボックス
○イーザーキャビネット	箱	○キーボックス
○盤類予備品 (ランプ及びヒューズの100%)		

試験・検査	○水圧試験	○排水満水試験	●排水通水試験	●風量測定	●吹出口温度測定
●気密試験	●点火試験	●機器類動作試験			
●騒音測定	●振動測定	●絶縁試験			
○消防設備試験	○水質検査	○水槽水張り試験	●アンカー引張試験 (有資格者) (室外機)		

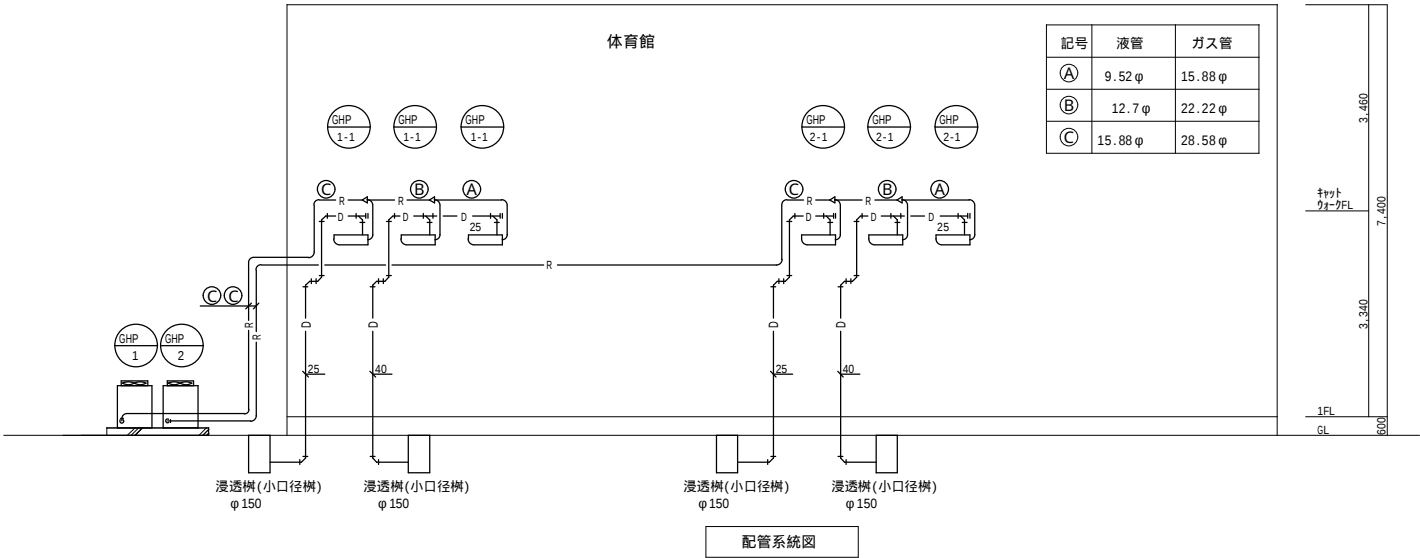
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. M-03
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 () 交付番号 ()	図名 機械設備工事特記仕様書 2	縮尺 A2: - A3: -



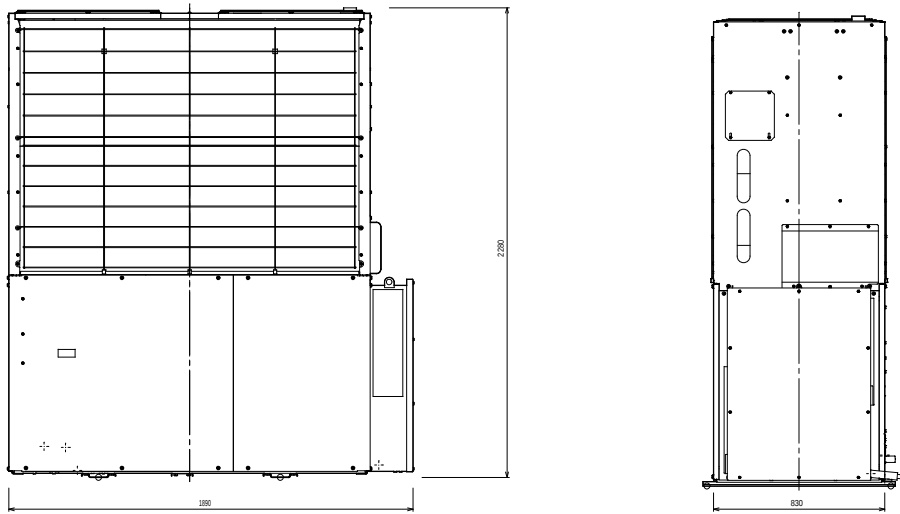
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号		板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. M - 0 4
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 ()	図名 付近見取図、配置図、仮設計画図	縮尺 A2: 1/200、1/2500 A3: -

空調・換気機器リスト（新設）

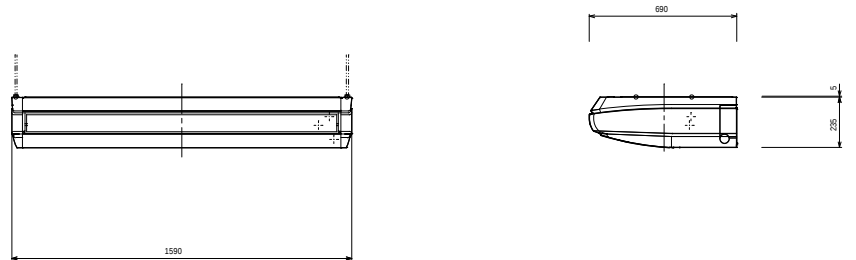
機器番号	機器名称	機器仕様	台数	据付位置	備考（参考メーカー品番）
GHP 1	ガスートポンエアコン（GHP室外機）	定格冷房能力 56.0 kW 定格暖房能力 63.0 kW	2	屋外	ダイトン（同等品） GSHDP560DW
	屋外据置型	室外ファン電動機 750.0W x 2台			
GHP 2		燃料種別 ガソリン			
		燃料消費量冷房 41.9 kW 燃料消費量暖房 39.7 kW			
		電源 単相 200V 1260W			
		外形寸法（W×L×H）・質量 1890×830×2280mm 965kg			
		防振パッド	2	屋外	
		予備ファン	6	屋内運動場	ダイトン（同等品） KAF501B160
		自立運転スイッチ	1	屋外	ダイトン（同等品） KYMACB560J
		スリッパカバー	2	屋内運動場	ダイトン（同等品） AGSC-AD102
		その他附属品一式			
		防護ネット（建築工事）	1	屋外	
GHP 1-1	ガスートポンエアコン（GHP室内機）	定格冷房能力 16.0 kW 定格暖房能力 18.0 kW	6	屋内運動場	ダイトン（同等品） FGXHP160NA
	天井吊形	風量強 31.0 m3/min			
GHP 2-1		ファン電動機 287.0W x 1台			
		電源（単相） 200V60Hz			
		外形寸法（W×L×H）・質量 1590×690×235mm 43.0kg			
		ドレンアップキット	6	屋内運動場	ダイトン（同等品） K-KUP303KV
		REFNETポイント（冷媒分流器）	6	屋内運動場	ダイトン（同等品） KHR26C72T
		運転スイッチ・液晶リポート	2	屋内運動場	ダイトン（同等品） BRC1G4
		その他附属品一式			
		防球ガード（建築工事）	6	屋内運動場	
AF 1	エア搬送ファン（標準タイプ）	消費電力 1φ100V 83.0 kW 騒音 46.5dB	6	屋内運動場	三菱電機（同等品） AH-2009SA2
	天井面取付（端子台接続方式）	風量 1450.0m3/h 平均吹出風速 8.6m/s			
		外形寸法（W×L×H）・質量 900×222×197mm 11.0kg			
		コントロールスイッチ 1φ100V（ON/OFF用）	2	屋内運動場	三菱電機（同等品） FS-08AHS3
		エア搬送ファン用防球ガード	6	屋内運動場	三菱電機（同等品） AH-G30A
		その他附属品一式			



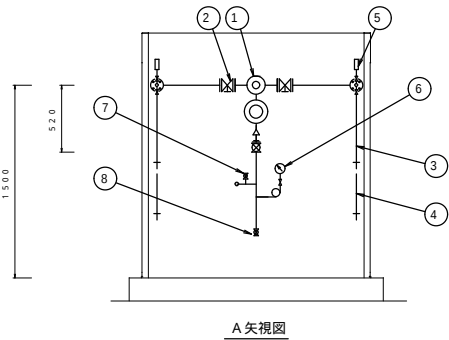
ガスートポンエアコン（GHP室外機） 屋外据置型



ガスートポンエアコン（GHP室内機） 天井吊形



ボンベ庫展開図



機器凡例 ボンベの転倒防止を行うこと

番号	品名	数量	摘 要
1	自動切替式一体型調整器	1	50A（BV付）
2	ストレーナバルブ	2	20A
3	強力式ガス放出防止型高圧ホース	10	600mm
4	強力式ガス放出防止型高圧ホース	8	1000mm
5	3.5MPa圧力計セット	1式	
6	10kPa圧力計セット	1式	
7	検査孔付ボルトバルブ	1	BV・15K
8	ドレン抜バルブ（プラグ付）	1	15A

18本立（9本立2系列） シングル集合(50kg/h)

株式会社 丸山建築事務所
一級建築士事務所登録第139号

板橋 晶一
一級建築士登録 第213806号

構造設計
一級建築士登録
大臣（ ）

構造設計
一級建築士登録
交付番号（ ）

名称 笠取第二小学校体育館空調設置
ほか改修工事

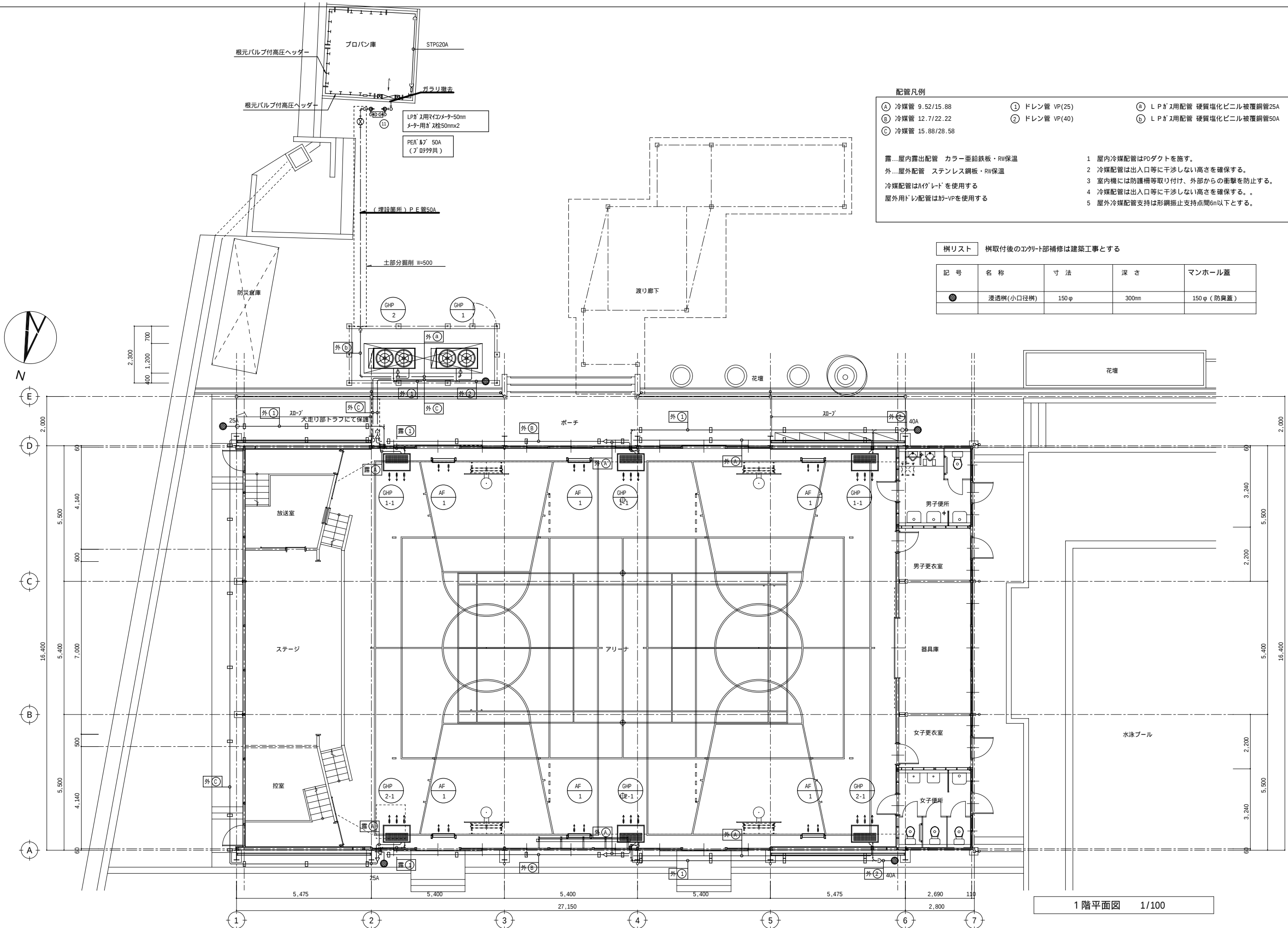
No. M-05

構造/設備関係規定
への法適合を確認した

構造設計/設備設計
一級建築士登録
大臣（ ）

図名 空調設備機器リスト

縮尺
A2: -
A3: -



配管凡例

Ⓐ 冷媒管 9.52/15.88	① ドレン管 VP(25)	Ⓐ L Pガス用配管 硬質塩化ビニル被覆銅管25A
Ⓑ 冷媒管 12.7/22.22	② ドレン管 VP(40)	Ⓑ L Pガス用配管 硬質塩化ビニル被覆銅管50A
Ⓒ 冷媒管 15.88/28.58		

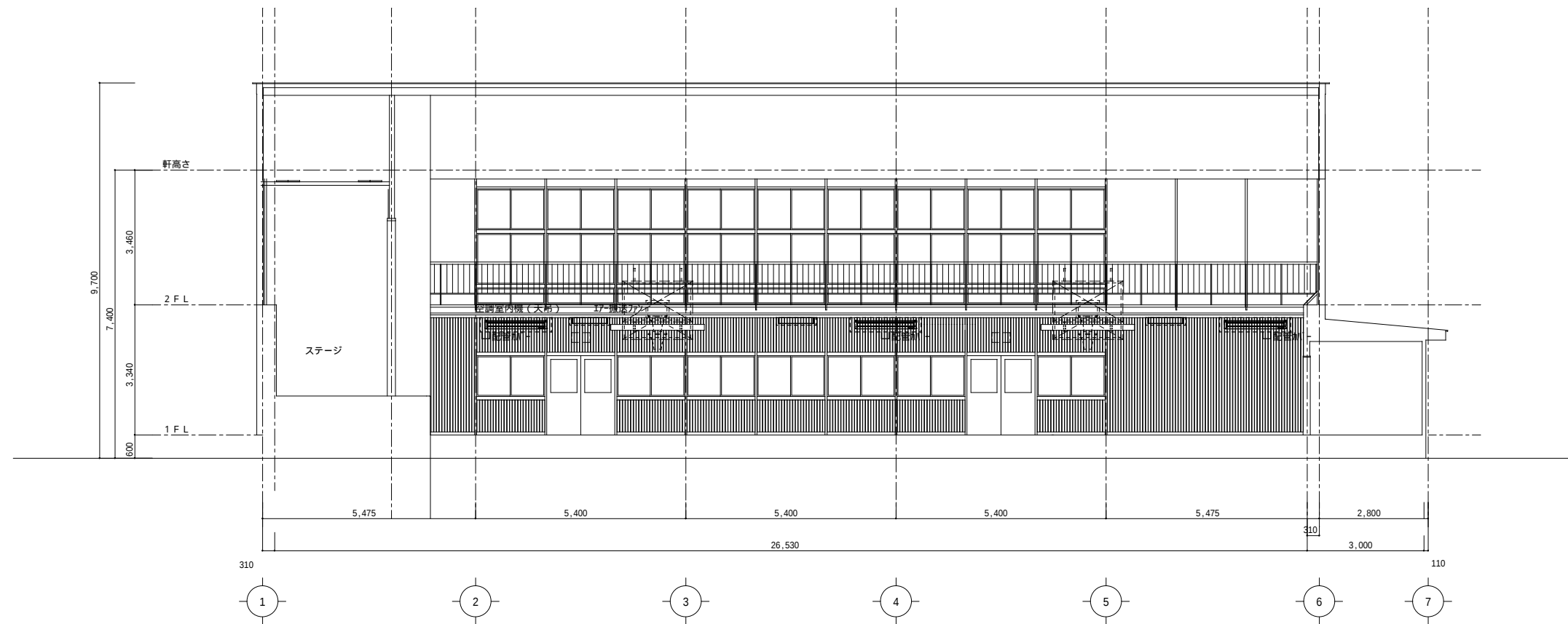
露...屋内露出配管 カラー亜鉛鉄板・RW保温
外...屋外配管 ステンレス鋼板・RW保温
冷媒配管は「レド」を使用する
屋外用ドレン配管は「VP」を使用する

- 1 屋内冷媒配管はPDダクトを施す。
- 2 冷媒配管は出入口等に干渉しない高さを確保する。
- 3 室内機には防護柵等取り付け、外部からの衝撃を防止する。
- 4 冷媒配管は出入口等に干渉しない高さを確保する。。
- 5 屋外冷媒配管支持は形鋼振止支持点間6m以下とする。

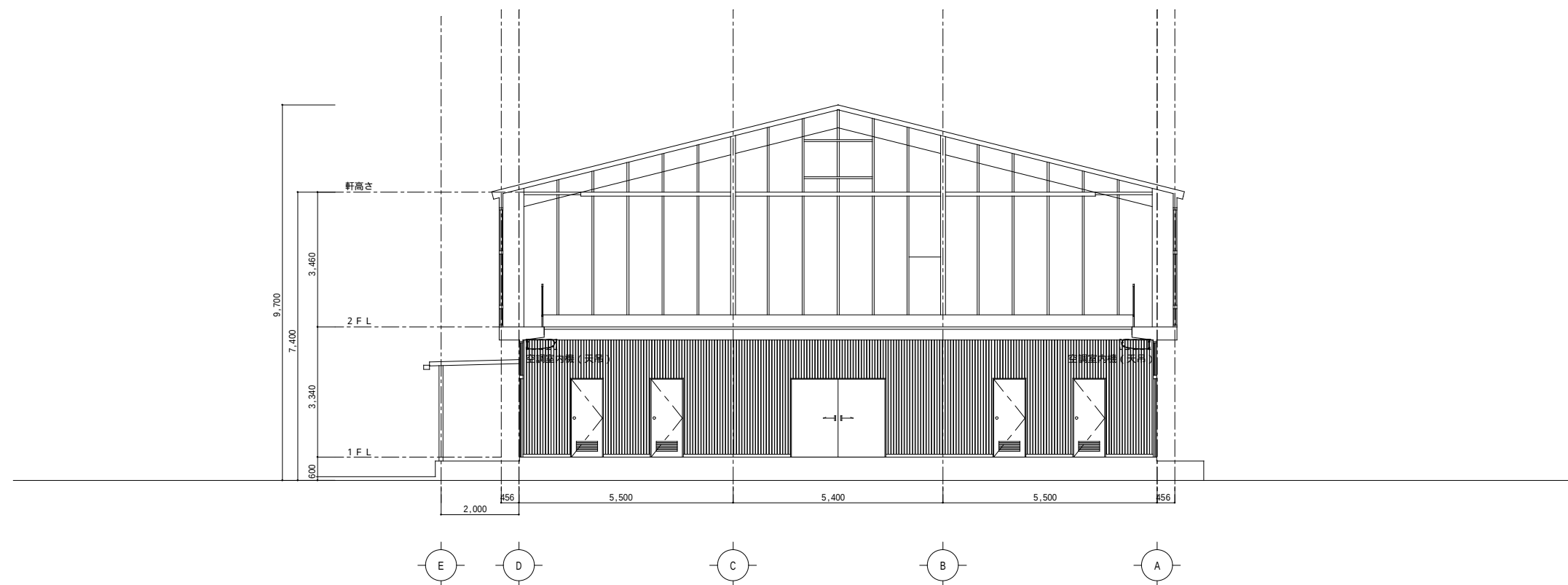
樹リスト 樹取付後のコンクリート部補修は建築工事とする

記号	名称	寸法	深さ	マンホール蓋
●	浸透樹(小口径樹)	150φ	300mm	150φ(防臭蓋)

1 階平面図 1/100

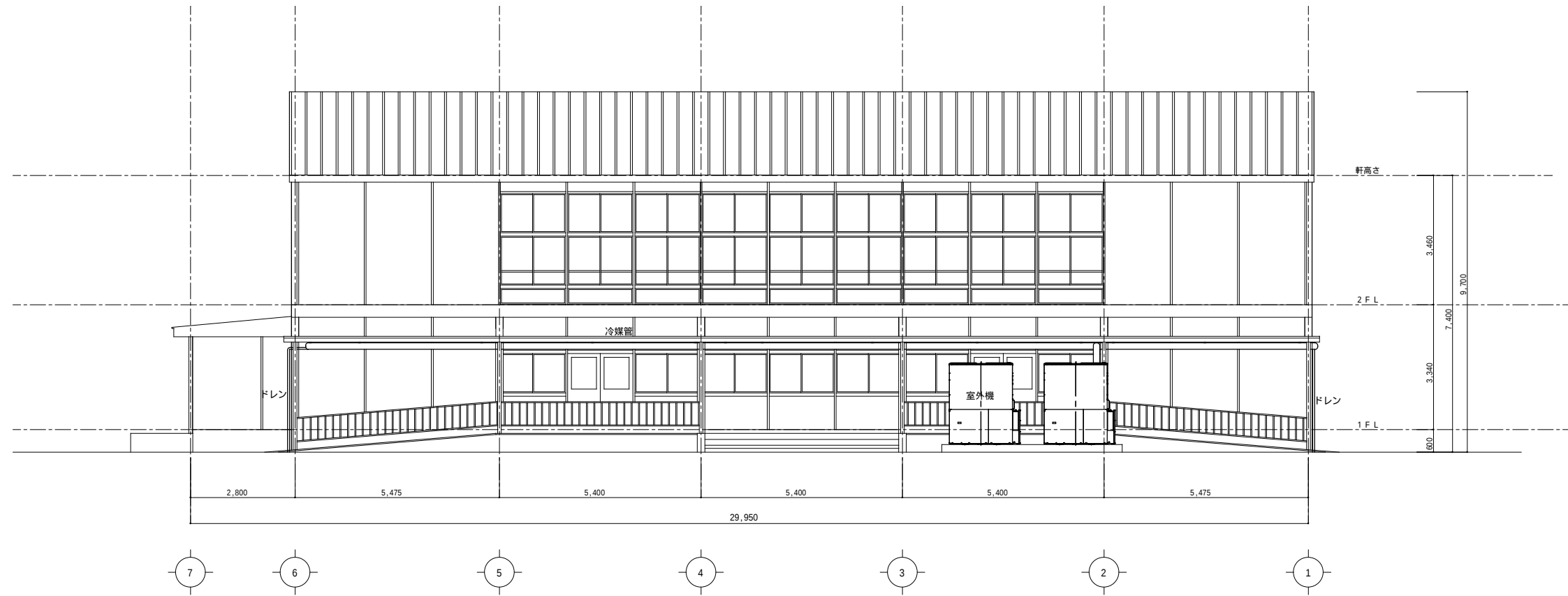


南面展開図 1/100

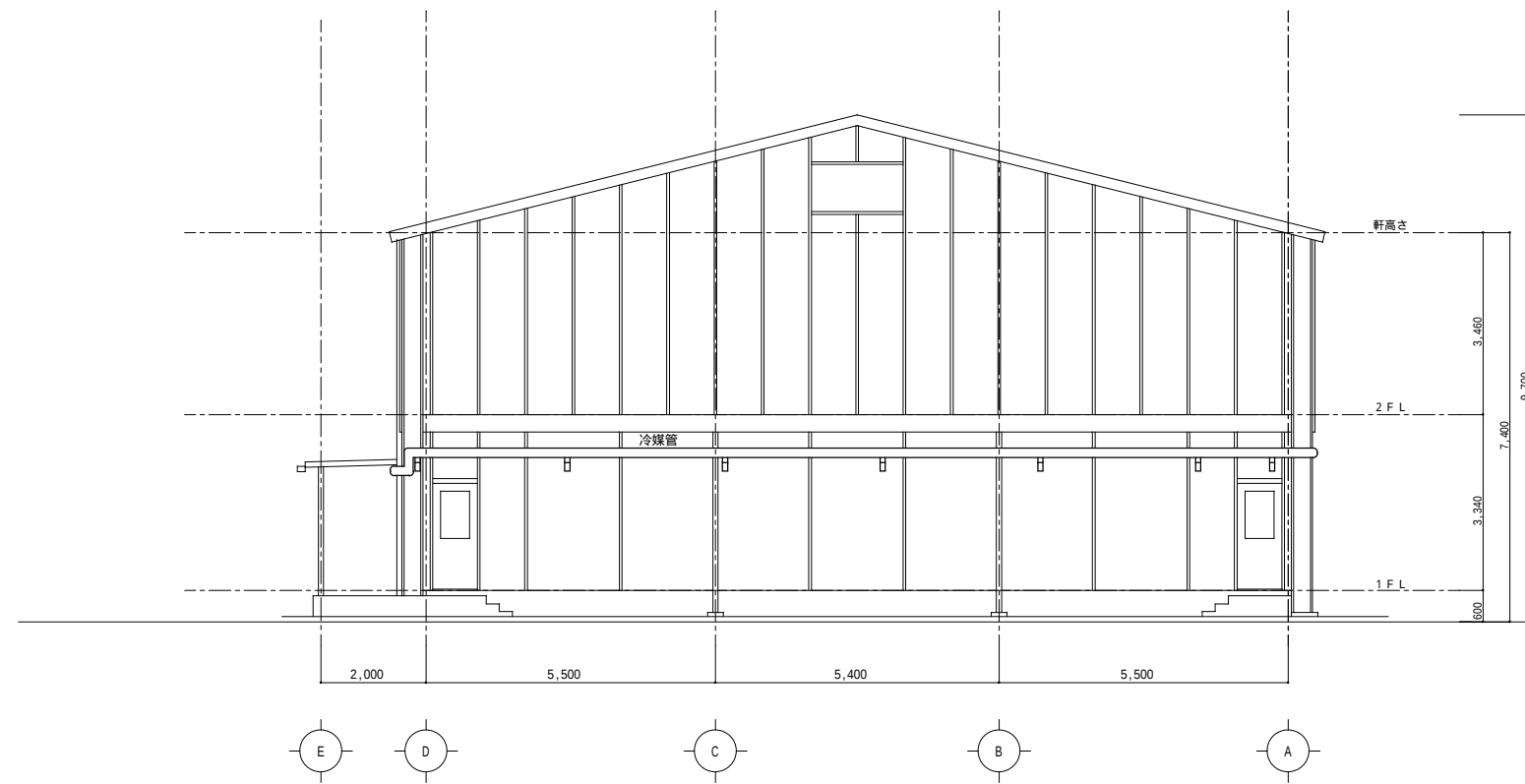


西面展開図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. M - 0 7
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 空調設備展開図	

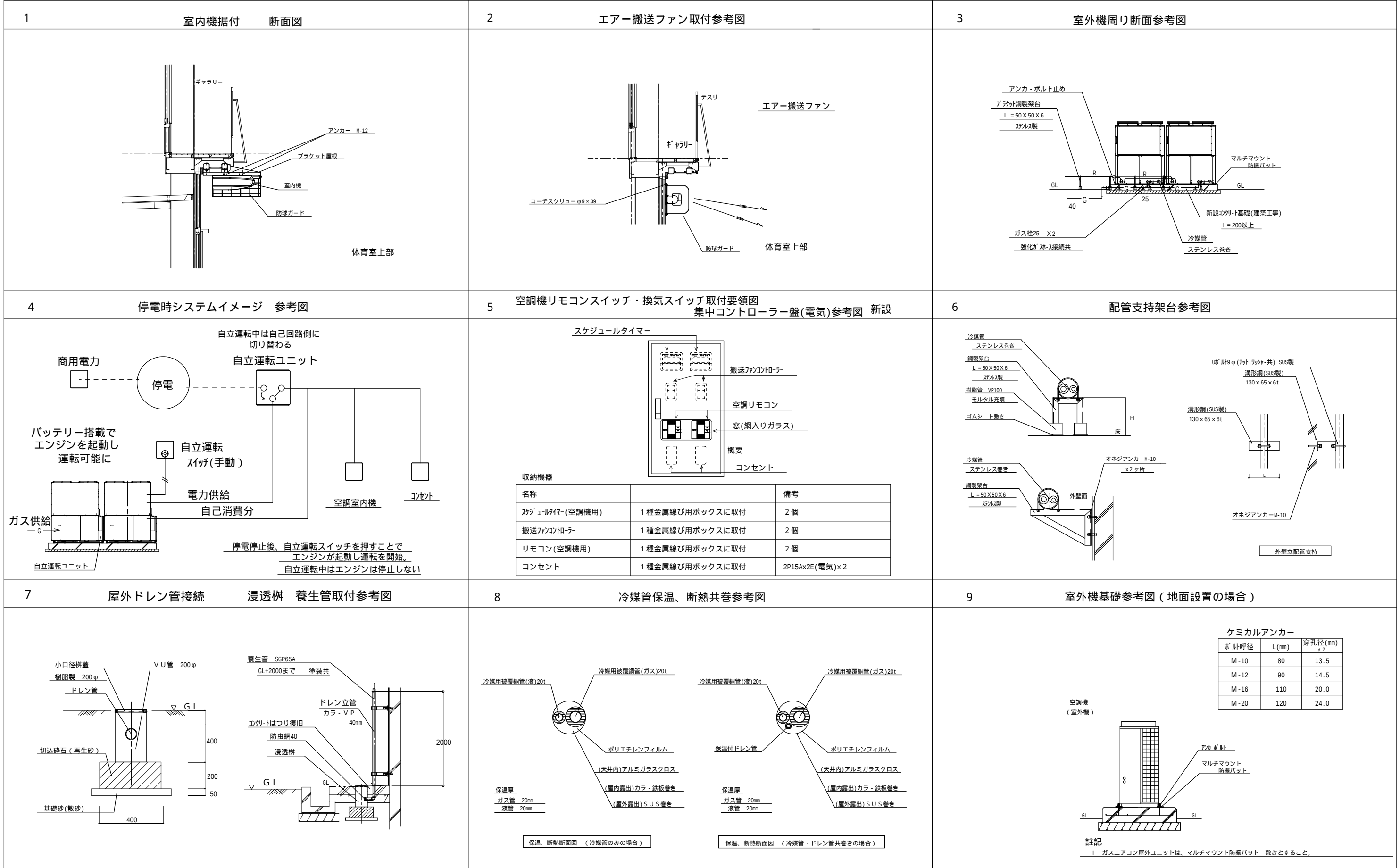


南側立面図 1/100



東側立面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. M - 0 8
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 空調設備立面図	



建築改修工事 特記仕様書			章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項		章 項 目		特 記 事 項																																			
【 1 】 工 事 概 要 1. 工 事 場 所 _____ 2. 敷 地 面 積 _____ m ² 3. 建築物概要 <table><tr><th></th><th>棟 名</th><th>構 造</th><th>階 数</th><th>建築面積 (m²)</th><th>延べ面積 (m²)</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修</td></tr></table> 4. そ の 他 _____ _____ _____ _____ 【 2 】 適 用 範 囲 現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。 すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。 上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和 4 年版）をいう。（以下、これを「改修標仕」という。） 本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。 【 3 】 工 事 区 分 設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。 【 4 】 工 事 仕 様 1.設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。 2.項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3.特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。 印と●印の付いた場合は、共に適用する。○印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4.項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。				棟 名	構 造	階 数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備 考						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修	1 一般共通事項		特別な材料の工法		設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。	1 一般共通事項		P C B 含有シーリング材の分析調査 ○ 行つ（ _____ 箇所） ○ 行わない P C B 含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 ○ 蛍光灯ランプ ○ H I D ランプ ○ 硬質塩化ビニル管・継手 再生資源利用〔促進〕計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書による。 マニフェスト制度 ○ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。		17 施工の検査等（1.7.5） 18 化学物質の濃度測定（1.7.9） 完成図（1.9.2） 保全に関する資料（1.9.3）		見本施工の実施 ○ 適用する（ _____ ） ○ 適用しない									
				棟 名	構 造	階 数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備 考																																							
								○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修																																								
								○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修																																								
					○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修																																											
風圧力及び積雪に対する性能 建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速（V ₀ ） ○ 3 2 ○（平成12年5月31日建設省告示第1454号） 地表面粗度区分 ○ ○ ○ 多雪地域の指定 ○ なし ○ あり		14 石綿含有建材の調査（1.5.1）		調査 ○ 行う 石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。 調査範囲 図示による ○ _____ 調査事項 石綿使用部位の確認 石綿層の厚さの確認 施工範囲と工事管理区分の確認 更衣施設等の仮設計画 廃棄物等の搬出方法 石綿含有分析方法 ○ 行う（分析結果を監督職員に提出する） J I S A 1481に基づくこと <table><tr><th>材 料 名</th><th>定性分析</th><th>定量分析</th></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr></table> サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル ○ 行わない		材 料 名	定性分析	定量分析		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）	1 足場その他（2.1.3）（2.2.1） 2 既存部分の養生（2.3.1） 3 仮設間仕切り（2.3.2） 4 監督職員事務所（2.4.1）		労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ○ 施工箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施工箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施工箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 脚立、足場板等 ○ _____ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ○ ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ A 種 ○ B 種 ○ C 種 ○ D 種 ○ E 種（表2.2.1） 足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中柵及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立・解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、J I S A 8971（屋根工事用足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。																									
材 料 名	定性分析	定量分析																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
現場代理人		本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第 1 0 条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。	15 調査のための破壊部分の補修（1.6.3） 16 技能士（1.7.2）		既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____ 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ○ なし 既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____ 工事種別 適用する技能士の技能検定における選択作業 <table><tr><th>工事種別</th><th>適用する技能士の技能検定における選択作業</th></tr><tr><td>仮設工事</td><td>○ とび作業</td></tr><tr><td>鉄筋工事</td><td>○ 鉄筋組立作業</td></tr><tr><td>コンクリート工事</td><td>○ 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ コンクリート圧送工事作業</td></tr><tr><td>鉄骨工事</td><td>○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業</td></tr><tr><td>ブロー及びALCA[®] 補工事</td><td>○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALCA[®] 補工事作業</td></tr><tr><td>カーテンウォール工事</td><td>○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業</td></tr><tr><td>防水工事</td><td>○ アスファルト防水工事作業 ○ シーリング 防水工事作業 ○ ウレタン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ アクリル系塗膜防水工事作業 ○ FRP 防水工事作業 ○ 合成ゴムシート防水工事作業 ○ 塩化ビニルシート防水工事作業 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事作業</td></tr><tr><td>石工事</td><td>○ 石張り作業</td></tr><tr><td>タイル工事</td><td>○ タイル張り作業</td></tr><tr><td>木工事</td><td>○ 大工工事作業</td></tr><tr><td>屋根及びとい工事</td><td>○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業</td></tr><tr><td>金属工事</td><td>○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業</td></tr><tr><td>左官工事</td><td>○ 左官作業</td></tr><tr><td>塗装工事</td><td>○ 建築塗装作業</td></tr><tr><td>建具工事</td><td>○ ビル用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業</td></tr><tr><td>内装工事</td><td>○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ 石膏[®] 仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業</td></tr><tr><td>排水工事</td><td>○ 建築配管作業</td></tr><tr><td>舗装工事</td><td>○ 溶融バインダーマカ工事作業 ○ 加熱バインダーマカ工事作業</td></tr><tr><td>植栽工事</td><td>○ 造園工事作業</td></tr></table> ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。		工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	○ とび作業	鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業	コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ コンクリート圧送工事作業	鉄骨工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業	ブロー及びALCA [®] 補工事	○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALCA [®] 補工事作業	カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業	防水工事	○ アスファルト防水工事作業 ○ シーリング 防水工事作業 ○ ウレタン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ アクリル系塗膜防水工事作業 ○ FRP 防水工事作業 ○ 合成ゴムシート防水工事作業 ○ 塩化ビニルシート防水工事作業 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事作業	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	○ タイル張り作業	木工事	○ 大工工事作業	屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業	金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業	左官工事	○ 左官作業	塗装工事	○ 建築塗装作業	建具工事	○ ビル用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業	内装工事	○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ 石膏 [®] 仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業	排水工事	○ 建築配管作業	舗装工事	○ 溶融バインダーマカ工事作業 ○ 加熱バインダーマカ工事作業	植栽工事	○ 造園工事作業	適用する（適用事項は、現場説明書による） 作成する（提出部数 ○ 2 部 ○ _____ 部）詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。 作成する（提出部数 ○ 2 部 ○ _____ 部） ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築物保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。	
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																															
仮設工事	○ とび作業																																															
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業																																															
コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ コンクリート圧送工事作業																																															
鉄骨工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業																																															
ブロー及びALCA [®] 補工事	○ コンクリートブロック工事作業 ○ ALCA [®] 補工事作業																																															
カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業																																															
防水工事	○ アスファルト防水工事作業 ○ シーリング 防水工事作業 ○ ウレタン系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業 ○ アクリル系塗膜防水工事作業 ○ FRP 防水工事作業 ○ 合成ゴムシート防水工事作業 ○ 塩化ビニルシート防水工事作業 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事作業																																															
石工事	○ 石張り作業																																															
タイル工事	○ タイル張り作業																																															
木工事	○ 大工工事作業																																															
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業																																															
金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業																																															
左官工事	○ 左官作業																																															
塗装工事	○ 建築塗装作業																																															
建具工事	○ ビル用サッシ工事作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業																																															
内装工事	○ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ 石膏 [®] 仕上げ工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業																																															
排水工事	○ 建築配管作業																																															
舗装工事	○ 溶融バインダーマカ工事作業 ○ 加熱バインダーマカ工事作業																																															
植栽工事	○ 造園工事作業																																															
工事工程報告		月報は毎月末日に於て、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（ _____ ）曜日に提出する。	14 石綿含有建材の調査（1.5.1）		調査 ○ 行う 石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。 調査範囲 図示による ○ _____ 調査事項 石綿使用部位の確認 石綿層の厚さの確認 施工範囲と工事管理区分の確認 更衣施設等の仮設計画 廃棄物等の搬出方法 石綿含有分析方法 ○ 行う（分析結果を監督職員に提出する） J I S A 1481に基づくこと <table><tr><th>材 料 名</th><th>定性分析</th><th>定量分析</th></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr><tr><td></td><td>○（ _____ 箇所数）</td><td>○（ _____ 箇所数）</td></tr></table> サンプル数 1 箇所あたり 3 サンプル ○ 行わない		材 料 名	定性分析	定量分析		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）		○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）	1 足場その他（2.1.3）（2.2.1） 2 既存部分の養生（2.3.1） 3 仮設間仕切り（2.3.2） 4 監督職員事務所（2.4.1）		労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ○ 施工箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施工箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施工箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 脚立、足場板等 ○ _____ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ○ ネット及び養生シート 材料、撤去材等の運搬方法 ○ A 種 ○ B 種 ○ C 種 ○ D 種 ○ E 種（表2.2.1） 足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中柵及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立・解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋組の建方																								
材 料 名	定性分析	定量分析																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														
	○（ _____ 箇所数）	○（ _____ 箇所数）																																														

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項
8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）	5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合（8.20.5）	摩擦面の処理 ○ プラスト処理（表面粗度 5 0 μmRz以上） ○ りん酸塩処理 ○ 図示による（ ） すべり耐力等の確認方法 ○ _____ 試験方法等 ○ 図示による ○ _____ （対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）	8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）	15 耐火被覆（8.18.2） ～（8.18.9）	種別 種 類 材 料 ・ 工 法 適用箇所（部位・部分） ○ 耐火材吹付け ○ 耐火板張り ○ 耐火材巻付け ○ 2張り珪藻塗り ○ 耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 性 能 適用箇所（部位・部分） ○ 3 0 分耐火 ○ 1 時間耐火 ○ 2 時間耐火 ○ 3 時間耐火	8-6 耐震補強工事（現場打ちRC壁の増設工事）	1 補強工法 ○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 （ _____ ）	8-7 耐震補強工事（鉄骨ブレース設置工事）	3 既存部分の処理（8.22.3）	目荒しの程度 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。	
	6 溶接材料（8.2.10）	溶接材料 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による ○ 図示による ○ _____		16 アンカーボルト（7.2.4） （7.10.3） 公共建築工事標準仕様書（R4版）による。	2 既存部分の撤去（8.21.2） 既存仕上げの撤去範囲 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による		4 既存構造体との取合い（8.22.7） 割製補強筋 以下のスバイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による				
	7 スタッド（8.2.11）	種類等 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 ・ 16 ・ 19 ・ 22		適用 ○ 構造用アンカーボルト 材質 ○ SNR400B アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ 建方用アンカーボルト 材質 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法（表7.10.1） 種別 ○ A種 ○ B種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 5 0 mm ○ 3 0 mm	3 既存部分の処理（8.21.3） 目荒しの程度 既存柱・梁 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁（増打ち壁増設の場合） 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の10～15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 割製補強筋 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」、 スバイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 ○ 図示による 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋 ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き ○ 図示による		5 仕上げ（8.22.9） 図示による ○ _____				
	8 工作図（8.13.2）	高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 図示による（図に無い場合は鉄骨設計基準による）		1 グラウト材（8.2.12） グラウト材 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ _____ 無収縮モルタルの調査 製造所で調査されたプレミックスタイプ ○ 現場調査形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度（N/mm ² ） 30以上 ○ _____ 一般部グラウトと同等以上の強度(鉄骨グラウト壁増設工事の壁頭部) コンスタント値(秒) 6～10 ○ _____ 乾燥収縮（10 ⁻⁴ ） 0 ○ _____ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 行う ○ 行わない	4 鉄筋の加工及び組立て（8.21.6） 割製補強筋 「スバイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」、 スバイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 ○ 図示による 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋 ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き ○ 図示による		1 補強工法 ○ 溶接金網巻き工法 ○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 帯板巻き付け工法 ○ 連続繊維補強工法 ○ _____				
	9 ボルト孔（8.13.8）	母屋又は鋼縁の取付けに使用する普通ボルトの孔型 ねじの呼び径 +1.0 mm ○ _____		2 柱底等の均しモルタル（8.2.12） モルタルの種別 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による ○ _____ 工法 A種 ○ B種	5 コンクリートの打込み工法（8.21.8） ○ 流込み工法 ○ 圧入工法 8.19.9の方法による他、以下に注意する 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くⅡ配筋の場合) 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による		2 既存部分の撤去（8.23.2） 既存仕上げの撤去範囲 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。				
	10 仮組	○ 実施する 部位（ ） ○ 実施しない		1 グラウト材（8.2.12） グラウト材 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ _____ 無収縮モルタルの調査 製造所で調査されたプレミックスタイプ ○ 現場調査形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度（N/mm ² ） 30以上 ○ _____ 一般部グラウトと同等以上の強度(鉄骨グラウト壁増設工事の壁頭部) コンスタント値(秒) 6～10 ○ _____ 乾燥収縮（10 ⁻⁴ ） 0 ○ _____ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 行う ○ 行わない	6 既存構造体との取合い（8.21.9） 8.19.9の方法による他、以下に注意する 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くⅡ配筋の場合) 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による		3 既存部分の処理（8.23.3） 目荒し程度 平均深さ2～5mm(max：5mm)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 柱及び梁の成型（連続繊維補強工法） 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。（ 30R ○ _____ ） ○ 図示による				
	11 技能資格者	溶接作業者の技量付加試験 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○ _____		2 柱底等の均しモルタル（8.2.12） モルタルの種別 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による ○ _____ 工法 A種 ○ B種	7 仕上げ（8.21.10） 図示による ○ _____		4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法（8.23.5） 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ _____ mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法				
	12 溶接接合（8.15.4） （8.15.7）	開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ _____ 鋼製エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 切断する箇所及び切断範囲 図示による ○ _____ 切断面の仕上げ グラインダーにより、粗さ 100 μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げる スカラップの形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ 改良型スカラップ		2 柱底等の均しモルタル（8.2.12） モルタルの種別 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による ○ _____ 工法 A種 ○ B種	1 補強工法 ○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類杖付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 （ _____ ） ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 （ _____ ）		5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法（8.23.6） 鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合の外剥剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm				
	13 溶接部の試験（8.15.12）	H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等 ○ 「突合合わせ手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(独立行政法人建築研究所)」3.5.2による受入検査 ○ 抜き取り検査 抜き取り検査 JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付則3「溶接」に関する試験方法等 ○ JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。 外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 ○ 透過探傷試験(JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検査品質限界(AOQL) 全数 ○ _____ 検査水準 第6水準 ○ 第__水準 現場溶接 平均出検査品質限界(AOQL) 全数 ○ _____		2 柱底等の均しモルタル（8.2.12） モルタルの種別 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による ○ _____ 工法 A種 ○ B種	2 既存部分の撤去（8.22.2） 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。		5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法（8.23.6） 鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合の外剥剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm				
	14 錆止め塗料（7.4.2） （8.17.2） （8.17.4）	塗料の種別 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.4.1による ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ _____ ○ D種 ○ E種 ○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.4.2による ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ _____ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） ○ 表7.4.1による ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ _____ ○ D種 ○ E種 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない ○ 行う（塗装範囲 ○ 図示による ○ _____）		2 柱底等の均しモルタル（8.2.12） モルタルの種別 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 厚さ 図示による ○ _____ 工法 A種 ○ B種	2 既存部分の撤去（8.22.2） 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。		5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法（8.23.6） 鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合の外剥剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm				

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 0 8
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	図名 建築改修工事特記仕様書（ 8 ）	縮尺 A2: - A3: -

Ver_R04(R05_Q2)

章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	特 記 事 項																																																																																										
8 ： 8	耐震補強工事（柱補強工事）	6 連続繊維補強 工法（8.2.13） （8.24.6）	工法 ○（一財）日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ 材料 ○炭素繊維 ○アラミド繊維 ○ガラス繊維 性能 引張強度 _____N/mm2 ヤング係数 _____N/mm2 製造所 _____ 製品名 _____ 柱及び梁の隅角部の 面取りの大きさ 炭素繊維シート 20mm以上 ○ _____ アラミド繊維シート 10mm以上 ○ _____ 仕上げモルタルの除去 構造躯体まで除去する ○ 剥離除去は行わない ひび割れ部改修 ○コンクリート打放し仕上げ 樹脂注入工法 ○ 剥離塗り仕上げ 樹脂注入工法 炭素繊維の目付量 図示による ○ _____ 炭素繊維シートの巻数 図示による ○ _____ 引張強度試験 行う 試験数量（ _____ ） ○ 行わない 付着強度試験 行う 試験数量（ _____ ） ○ 行わない 7 仕上げ（8.23.7） （8.24.7）	図示による ○ _____	8 ： 10	耐震補強工事（免震改修）	4 仕上げ（8.26.13）	図示による ○ _____	8 ： 12	耐震補強工事（基礎工事）	1 既存部分の処理等 （8.28.2）	既存杭の撤去等 ○ 撤去範囲及び方法 図示による（ _____ ） ○ 杭頭部の処理 図示による（ _____ ） ○ 既存杭の補強 図示による（ _____ ） ○ 既存杭の健全性を確認する試験 ○ 図示による（ _____ ） 2 埋戻し及び盛土 （8.28.3）	埋戻し及び盛土の種別 改修標準仕様書8.28.1による ○ A種 適用箇所（ _____ ） ○ B種 適用箇所（ _____ ） ○ C種 適用箇所（ _____ ）土質（ _____ ）受渡場所（ _____ ） ○ D種（細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする） 適用箇所（ _____ ） ○ その他（材料 _____ 工法 _____ ） 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 ○ 図示による ○ _____ 山留め壁等の存置箇所（ 図示 ○ _____ ） 3 杭地業（8.2.15） （8.28.4）	支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ○ 図示による（ _____ ） 杭の材料、工法、寸法、施行方法等 ○ 図示による（ _____ ） ○ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法 ○ 図示による（ _____ ） ○ 杭の継手の箇所数、材料、工法等 ○ 図示による（ _____ ） ○ 杭の溶接継手 技能資格者の技量 図示による（ _____ ） 溶接部の確認 図示による（ _____ ） ○ 杭頭の処理 処理する 処理しない 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ○ 図示による（ _____ ） ○ 杭頭の中詰め材料 ○ 基礎のコンクリートと同調合のもの ○ 杭の精度 水平方向の位置ずれ 杭径の1/4かつ100mm以下 ○ 評定等の評価内容による 建込み時の杭の鉛直度 1/100以内 ○ 評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ○ 図示による（ _____ ） 4 砂利地業等 （8.2.15）	材料 再生クラッシャラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石 砂利厚さ 60mm ○ 砂地業 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂 5 捨コンクリート地業 （8.28.4）	捨コンクリートの厚さ 50mm ○ 9 ： 9	ユニット及びその他の工事	3 可動間仕切 （20.2.3）	<table><tr><td colspan="2">種 類</td><td colspan="2">F 以内に取付ける建具</td></tr><tr><td>構造形式</td><td>構成基材</td><td>表面仕上</td><td>遮音性</td></tr><tr><td>○ パネル式</td><td></td><td>○ メラミン樹脂又は</td><td></td></tr><tr><td>○ スタッド式</td><td></td><td>アクリル樹脂焼付</td><td></td></tr><tr><td>○ スタッドパネル式</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table> パネル材料のホルムアルデヒド放数量 F <table><tr><td>パネル操作方法による種類</td><td>パネル表面材・仕上</td><td>パネル圧接装置の操作方法</td><td>遮音性能</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ハンガーレールの取付け下地の補強 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障ない耐力及び変形量となるように補強する。 パネルをランナーに取り付ける部品 ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの ○ _____ ハンガーレール及びランナー パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、体力及び変形量が使用上支障ないもの あと施工アンカー 材質 _____ 寸法 _____ 引抜耐力試験 行う 5 トイレブース （20.2.5）	種 類		F 以内に取付ける建具		構造形式	構成基材	表面仕上	遮音性	○ パネル式		○ メラミン樹脂又は		○ スタッド式		アクリル樹脂焼付		○ スタッドパネル式		○		パネル操作方法による種類	パネル表面材・仕上	パネル圧接装置の操作方法	遮音性能					表面材 ○ メラミン樹脂系化粧板 ○ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 幅木型 ○ 足金物型 パネル材料のホルムアルデヒド放数量 F ドアエッジの材質 トイレブース製造所の仕様による ○ _____ 6 手すり （20.2.6）	○ SUS304（表面処理 HL程度 ○ _____ ） ○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき（ （表14.2.2）による種別（○ _____ ）種） ○ アルミニウム 表面処理（ （表14.2.1）による種別（○ _____ ）種） 種別（ ）種（ ） 色合等 ○ 標準色（ ） ○ 特注色（ ） 手すりの握り部分 <table><tr><td>材 種</td><td>表面仕上げ</td><td>直径(mm)</td><td>取付場所</td><td>備 考</td></tr><tr><td>○ 集成材（材種： ）</td><td>○ クリアラッカー</td><td>○ 35程度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○ ビニル製</td><td>○</td><td>○ 45程度</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>○ 35程度</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>○ 45程度</td><td></td><td></td></tr></table> 7 階段滑り止め （20.2.7）	材 種	表面仕上げ	直径(mm)	取付場所	備 考	○ 集成材（材種： ）	○ クリアラッカー	○ 35程度			○ ビニル製	○	○ 45程度					○ 35程度					○ 45程度			材種 ○ ステンレス製（SUS304） 幅 約35mm ○ _____ 形状 ○ ビニルタイヤ入り 両端フラット ○ あり（ ○ ビニル ○ SUS304 ） 取付工法 接着工法 ○ 埋込み工法 8 黒板及び ホワイトボード （20.2.9）	<table><tr><td></td><td>区 分</td><td>種 類</td><td>色彩</td><td>備 考</td></tr><tr><td>○ 黒板</td><td>焼付け</td><td>○ 鋼製黒板</td><td>緑</td><td>○ 曲面</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○ ほうろう黒板</td><td>黒</td><td>○ スクリーン付引分け</td></tr><tr><td>○ ホワイトボード</td><td></td><td>○ ほうろう白板</td><td>白</td><td>○ 曲面</td></tr><tr><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○ スクリーン付引分け</td></tr></table> 鋼線金属 ○ アルミ製 （表面処理の種別 ○ B-2 ○ B-1 ） 品質・規格 _____ 9 鏡 （20.2.10）		区 分	種 類	色彩	備 考	○ 黒板	焼付け	○ 鋼製黒板	緑	○ 曲面	○	○	○ ほうろう黒板	黒	○ スクリーン付引分け	○ ホワイトボード		○ ほうろう白板	白	○ 曲面			○		○ スクリーン付引分け	厚さ（mm） 5 ○ _____ 名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事 No. A - 0 9 図名 建築改修工事特記仕様書（9） 縮尺 A2： - A3： -
		種 類		F 以内に取付ける建具																																																																																																		
構造形式	構成基材	表面仕上	遮音性																																																																																																			
○ パネル式		○ メラミン樹脂又は																																																																																																				
○ スタッド式		アクリル樹脂焼付																																																																																																				
○ スタッドパネル式		○																																																																																																				
パネル操作方法による種類	パネル表面材・仕上	パネル圧接装置の操作方法	遮音性能																																																																																																			
材 種	表面仕上げ	直径(mm)	取付場所	備 考																																																																																																		
○ 集成材（材種： ）	○ クリアラッカー	○ 35程度																																																																																																				
○ ビニル製	○	○ 45程度																																																																																																				
		○ 35程度																																																																																																				
		○ 45程度																																																																																																				
	区 分	種 類	色彩	備 考																																																																																																		
○ 黒板	焼付け	○ 鋼製黒板	緑	○ 曲面																																																																																																		
○	○	○ ほうろう黒板	黒	○ スクリーン付引分け																																																																																																		
○ ホワイトボード		○ ほうろう白板	白	○ 曲面																																																																																																		
		○		○ スクリーン付引分け																																																																																																		
8 ： 9	耐震補強工事（耐震スリット）	1 耐震スリット新設 工事（8.25.2）	<table><tr><td>方 向</td><td>タ イ プ</td><td>耐 火 性 能</td><td>防 水 性 能</td></tr><tr><td>○ 垂直方向</td><td>完全（全貫通型）スリット</td><td>○ 耐火型</td><td>○ 有り</td></tr><tr><td>○ 水平方向</td><td>○ せん断型部分スリット</td><td>○ 非耐火型</td><td>○ 無し</td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table> 品質・規格 _____ 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) 耐震スリットの幅及び深さ 図示による ○ _____ 耐震スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 図示による ○ _____ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 図示による ○ _____ 既存部分の撤去の補修 図示による ○ _____ 8 ： 11	方 向	タ イ プ	耐 火 性 能	防 水 性 能	○ 垂直方向	完全（全貫通型）スリット	○ 耐火型	○ 有り	○ 水平方向	○ せん断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し		○			耐震補強工事（制振改修）	1 既存部分の撤去 （8.27.2）	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 図示による ○ _____ 方法 図示による ○ _____ 既存鉄骨の処置方法 _____ 2 既存部分の処理 （8.27.3）	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。 3 減衰材 （8.27.4） （8.27.6）	減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に 縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチ の1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による 4 仕上げ（8.27.8）	図示による ○ _____ 5 検査（8.27.9）	項目 _____ 数量 _____ 9 ： 10	ユニット及びその他の工事	1 既存部分の撤去 （8.26.5）	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-2による。 2 既存部分の処理 （8.26.6）	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による 本特記仕様書8-6-3による。 3 支承材・減衰材 （8.26.7） （8.26.10）	○ 支承材 材質 _____ 諸元 _____ ○ 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40～60mmとする。 ○ 図示による 8 ： 10	耐震補強工事（免震改修）	4 仕上げ（8.27.8）	図示による ○ _____ 5 検査（8.27.9）	項目 _____ 数量 _____ 株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号 板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号 構造設計 一級建築士登録 大臣（ ） 構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣（ ） 構造設計 一級建築士登録 大臣（ ） 構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ） 名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事 No. A - 0 9 図名 建築改修工事特記仕様書（9） 縮尺 A2： - A3： -																																																																			
		方 向	タ イ プ	耐 火 性 能	防 水 性 能																																																																																																	
○ 垂直方向	完全（全貫通型）スリット	○ 耐火型	○ 有り																																																																																																			
○ 水平方向	○ せん断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し																																																																																																			
	○																																																																																																					
Ver_R04(R05_02)																																																																																																						

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																																																																																																																																																																																																																																																																																				
9	ユニット及びその他の工事	10 表示・標識 (20.2.11)	⑨	ユニット及びその他の工事	20 掲示板	衝突防止表示 図示による（市販品 ○ ステンレス製 径 30 mm ○ _____ ） ○ なし 法令に基づく表示 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 <table> <tr> <th>厚さ(mm)</th><th>材</th><th>質</th><th>色</th><th>書</th><th>体</th><th>印刷等の種別</th><th>取付け形式</th></tr> <tr> <td>○ 5</td><td>○ アクリル板</td><td></td><td></td><td>○ 角太ゴシック</td><td></td><td>○ シルク印刷</td><td>○ 平付型</td></tr> <tr> <td>○ 5</td><td>○ アルミ板</td><td></td><td></td><td>○ 丸</td><td></td><td>○</td><td>○ 持出型</td></tr> </table> 外国語表現 ○ 行う （ ○ 英語 ○ _____ ） 寸 法（mm） ○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による ピクトグラフ（便所、車いす、階段等） <table> <tr> <th>厚さ(mm)</th><th>材</th><th>質</th><th>色</th><th>書</th><th>体</th><th>印刷等の種別</th><th>取付け形式</th><th>備</th><th>考</th></tr> <tr> <td>○ 5</td><td>○ アクリル板</td><td></td><td></td><td>○ シルク印刷</td><td></td><td>○ 平付型</td><td>○ 持出型</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>○</td><td>○ アルミ板</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table> 寸 法（mm） ○ 150×150 ○ 図示による 案内板（館内、各階、便所） <table> <tr> <th>厚さ(mm)</th><th>材</th><th>質</th><th>色</th><th>書</th><th>体</th><th>印刷等の種別</th><th>取付け形式</th></tr> <tr> <td>○ 5</td><td>○ アクリル板</td><td></td><td></td><td>○ 角太ゴシック</td><td></td><td>○ シルク印刷</td><td>○ 平付型</td></tr> <tr> <td>○</td><td>○ アルミ板</td><td></td><td></td><td>○ 丸</td><td></td><td>○</td><td>○ 持出型</td></tr> </table> 外国語表現 ○ 行う （ ○ 英語 ○ _____ ） 寸 法（mm） ○ 600×600 ○ 100×600 ○ 200×200 ○ 図示による 館名板等 品質・規格 _____	厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式	○ 5	○ アクリル板			○ 角太ゴシック		○ シルク印刷	○ 平付型	○ 5	○ アルミ板			○ 丸		○	○ 持出型	厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式	備	考	○ 5	○ アクリル板			○ シルク印刷		○ 平付型	○ 持出型			○	○ アルミ板			○		○	○			厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式	○ 5	○ アクリル板			○ 角太ゴシック		○ シルク印刷	○ 平付型	○	○ アルミ板			○ 丸		○	○ 持出型	○ グレーチングふた <table> <tr> <th>種</th><th>類</th><th>材</th><th>質</th><th>受</th><th>枠</th><th>形</th><th>式</th><th>適用荷重</th><th>タイプ</th><th>上面形状</th></tr> <tr> <td>○ 溝ふた用</td><td>○ 鋼製</td><td></td><td></td><td>なし</td><td></td><td>○ 歩行用</td><td></td><td>○ 普通目</td><td>○ 平形</td><td></td></tr> <tr> <td>○ 樹ふた用</td><td>○ スチール製</td><td></td><td></td><td>○ あり</td><td></td><td>○ T- 2用</td><td></td><td>○ 細目</td><td>○ 凹凸形</td><td></td></tr> <tr> <td>○ 高上げ用</td><td>○ 鋳鉄製</td><td></td><td></td><td>○ 図示</td><td></td><td>○ T- 6用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>○ U字溝用</td><td>○ 樹脂製</td><td></td><td></td><td>ボルト固定</td><td>なし</td><td>○ T-14用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ 図示</td><td></td><td>○ T-20用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	種	類	材	質	受	枠	形	式	適用荷重	タイプ	上面形状	○ 溝ふた用	○ 鋼製			なし		○ 歩行用		○ 普通目	○ 平形		○ 樹ふた用	○ スチール製			○ あり		○ T- 2用		○ 細目	○ 凹凸形		○ 高上げ用	○ 鋳鉄製			○ 図示		○ T- 6用					○ U字溝用	○ 樹脂製			ボルト固定	なし	○ T-14用									○ 図示		○ T-20用					⑪	舗装工事	5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)	舗装工事	<table> <tr> <th>種</th><th>類</th><th>部</th><th>位</th><th>配合その他</th></tr> <tr> <td>加熱系アスファルト混合物</td><td>添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石</td><td>○ 車路</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>結合法 ○ アスファルト</td><td>○ 石油樹脂（添加量 _____）</td><td>○ 歩行者用通路</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>アスファルト混合物等の抽出試験</td><td>○ 適用する 適用しない</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 舗装の厚さ _____mm <table> <tr> <td>○ 常温系ニート工法</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>○ 常温系塗布工法</td><td></td><td></td></tr> </table> 着色部の下部 舗装の平坦性 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装 通行の支障となる水たまりを生じない程度	種	類	部	位	配合その他	加熱系アスファルト混合物	添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 車路			結合法 ○ アスファルト	○ 石油樹脂（添加量 _____）	○ 歩行者用通路			アスファルト混合物等の抽出試験	○ 適用する 適用しない				○ 常温系ニート工法			○ 常温系塗布工法			6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)	舗装構成及び厚さ 表層の厚さの試験 行う 行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う 行わない	7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)	<table> <tr> <th>種</th><th>類</th><th>寸 法（mm）</th><th>厚さ（mm）</th><th>目</th><th>地</th></tr> <tr> <td>普通平板(N)</td><td>○ カラー平板(C)</td><td>○ 3 0 0 角</td><td>6 0</td><td>砂</td><td></td></tr> <tr> <td>洗出平板(W)</td><td>○ 擬石(S)</td><td>○</td><td>○</td><td>○ モルタル</td><td></td></tr> </table> 品質・規格 _____ クッション材 砂 ○ 空練りモルタル	種	類	寸 法（mm）	厚さ（mm）	目	地	普通平板(N)	○ カラー平板(C)	○ 3 0 0 角	6 0	砂		洗出平板(W)	○ 擬石(S)	○	○	○ モルタル		⑧ 砂利敷き (22.9.2)	○ インターロッキングブロック舗装 <table> <tr> <th>種</th><th>類</th><th>部位</th><th>形状寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>曲げ強度(N/m²)</th><th>色彩及び表面加工等</th></tr> <tr> <td>普通ブロック</td><td>車路</td><td></td><td></td><td>80</td><td>5.0</td><td>標準品</td></tr> <tr> <td>○ 京ロッキング</td><td>歩行者用通路</td><td></td><td></td><td>60</td><td>3.0</td><td>○</td></tr> <tr> <td>○ 透水性ブロック</td><td></td><td></td><td></td><td>○ 80</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>○ 植生ブロック</td><td>-</td><td></td><td></td><td>○ 60</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>80</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ 100</td><td></td><td></td></tr> </table> 品質・規格 _____ クッション材 砂	種	類	部位	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	曲げ強度(N/m ²)	色彩及び表面加工等	普通ブロック	車路			80	5.0	標準品	○ 京ロッキング	歩行者用通路			60	3.0	○	○ 透水性ブロック				○ 80	○	○	○ 植生ブロック	-			○ 60							80							○ 100			9 白線引き	<table> <tr> <th>種</th><th>類</th><th>厚さ(mm)</th><th>工 法</th><th>基 層</th><th>基層の厚さ(mm)</th></tr> <tr> <td>○ 花崗岩</td><td></td><td>○ 80～100</td><td>○ うろこ張り</td><td>○ コンクリート版</td><td>70</td></tr> <tr> <td>○ _____</td><td></td><td>○ _____</td><td>○ _____</td><td>○ アスファルト混合物</td><td>50</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○ _____</td></tr> </table> 品質・規格 _____ クッション材 砂 ○ 空練りモルタル	種	類	厚さ(mm)	工 法	基 層	基層の厚さ(mm)	○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ コンクリート版	70	○ _____		○ _____	○ _____	○ アスファルト混合物	50						○ _____	12	環境配慮改修工事	1 一般事項 (9.1.1)	環境配慮改修工事	○ 石綿含有吹付け材除去工事 ○ 除去工法 （ ） ○ 封じ込め工法 （ ） ○ 囲い込み工法 （ ） ○ 石綿含有保温材除去工事 ○ 石綿含有成形板等除去工事 ○ 石綿含有仕上塗材除去工事	2 仕上り工事 (9.1.1)	石綿含有建材除去後の仕上り工事 図示による ○ _____	Ver_R04(R05_02)	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 0
厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
○ 5	○ アクリル板			○ 角太ゴシック		○ シルク印刷	○ 平付型																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
○ 5	○ アルミ板			○ 丸		○	○ 持出型																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式	備	考																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 5	○ アクリル板			○ シルク印刷		○ 平付型	○ 持出型																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
○	○ アルミ板			○		○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種別	取付け形式																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
○ 5	○ アクリル板			○ 角太ゴシック		○ シルク印刷	○ 平付型																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
○	○ アルミ板			○ 丸		○	○ 持出型																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
種	類	材	質	受	枠	形	式	適用荷重	タイプ	上面形状																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 溝ふた用	○ 鋼製			なし		○ 歩行用		○ 普通目	○ 平形																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 樹ふた用	○ スチール製			○ あり		○ T- 2用		○ 細目	○ 凹凸形																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 高上げ用	○ 鋳鉄製			○ 図示		○ T- 6用																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○ U字溝用	○ 樹脂製			ボルト固定	なし	○ T-14用																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
				○ 図示		○ T-20用																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
種	類	部	位	配合その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
加熱系アスファルト混合物	添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 車路																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
結合法 ○ アスファルト	○ 石油樹脂（添加量 _____）	○ 歩行者用通路																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アスファルト混合物等の抽出試験	○ 適用する 適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
○ 常温系ニート工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
○ 常温系塗布工法																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
種	類	寸 法（mm）	厚さ（mm）	目	地																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
普通平板(N)	○ カラー平板(C)	○ 3 0 0 角	6 0	砂																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
洗出平板(W)	○ 擬石(S)	○	○	○ モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種	類	部位	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	曲げ強度(N/m ²)	色彩及び表面加工等																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
普通ブロック	車路			80	5.0	標準品																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○ 京ロッキング	歩行者用通路			60	3.0	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○ 透水性ブロック				○ 80	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
○ 植生ブロック	-			○ 60																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
				80																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
				○ 100																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種	類	厚さ(mm)	工 法	基 層	基層の厚さ(mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ コンクリート版	70																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
○ _____		○ _____	○ _____	○ アスファルト混合物	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
					○ _____																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
						構造/設備関係規定への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣（ ）	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号（ ）	図名 建築改修工事特記仕様書（10）	縮尺 A2: - A3: -																																																																																																																																																																																																																																																																																														

建築工事特記仕様書

【1】工事概要

1.工事場所

2.敷地面積

3.建築物概要

4.その他

【2】適用範囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。
上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）をいう。（以下、これを「標仕」という。）
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「標仕」の適用を受けるものとする。

【3】工事区分

設計図書による。

別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】工事仕様

1.設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「標仕」のほか別記の適用基準による。

2.項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

3.特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、○印の付いたものを適用する。
印と●印の付いた場合は、共に適用する。印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

4.項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

7

鉄骨工事

9デッキプレート

材質、形状及び寸法

7.2.7)7.7.8)

図示による

○

デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法

図示による

10工作図

高力ボルト、普通ボルトのナット、ワッシャー、ナキ等

図示による

（図に無い場合は鉄骨設計基準による）

11仮組

○実施する部位（

○実施しない

12溶接作業における技能資格者

溶接作業者の技量付加試験

行わない

○行う試験の要領

○図示による（

○

13溶接接合

開先の形状

○図示による

○

鋼製エンドタブの切断

○有

○無

適用箇所

図示による

○

切断面の仕上げ

グラインダーにより、粗さ100μmR2程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下

○

スカラップの形状

○図示による

14溶接部の試験

完全溶込溶接部の超音波探傷試験

行う

○行わない

○工場溶接

AQCL

○4.0%

○2.5%

検査水準

○第6水準（節全て）

●工事現場溶接

H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等

○「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強（7.7.7）（独立行政法人建築研究所）」3.5.2による受入検査

○抜き取り検査

抜き取り検査

JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付則3「溶接」に関する試験方法等

○JASS 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。

外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

15耐火被覆

種別

種別

材料・工法

適用箇所（部位・部分）

○耐火材吹付け

○乾式吹付ロックウール

○半乾式吹付ロックウール

○湿式ロックウール

○

○耐火板張り

○繊維混入ケイ酸カルシウム板

○

○耐火材巻付け

○高断熱ロックウール

○

○2張り珪藻土塗り

-

○耐火塗料

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能

適用箇所（部位・部分）

○30分耐火

○1時間耐火

○2時間耐火

○3時間耐火

16アンカーボルト

適用

○構造用アンカーボルト

種類

○SNR400B

○

アンカーフレームの形状及び寸法

○図示による

○

○建方用アンカーボルト

種類

○SS400

アンカーボルトの保持及び埋め込み工法

(表7.10.1)

種別

○A種

○B種

柱底均しモルタルの厚さ

○50mm

○30mm

17柱底均しモルタル

モルタルの種別

無収縮モルタル

○

材料・調合等

標示

7.2.9 (2) (7) から (1) による

○

厚さ

図示による

○

工法

A種

○B種

7

鉄骨工事

19錆止め塗料

塗料の種別

7.8.4)

(18.3.2)

●鉄鋼面の錆止め塗料

●表18.3.1による

A種

○B種

○

○亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料

○表18.3.2による

A種

○B種

○C種

○

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）

○表18.3.1による

A種

○B種

○

耐火被覆材の接着する面への塗装

○行わない

○行う（範囲

○図示による

○

耐火被覆材の接着する面以外への塗装

○行わない

○行う（範囲

○図示による

○

章

項目

特記事項

7

鉄骨工事

1鉄骨の製作工場

建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場

((○ S ○ H ○ M ○ R ○ J) グレード以上)

○監督職員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

2施工管理技術者

適用する

3鋼材

種類 形状及び寸法

図示による

○

4高力ボルト

ボルトの区分

○トルシア形高力ボルト

○溶融亜鉛めっき高力ボルト

○JIS形高力ボルト

○

ねじの呼び

○

すべり係数試験

○行わない

○行う試験方法等

○図示による

○

5溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類

○1種（F8T）相当

摩擦面の処理

○ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）

○リン酸塩処理

すべり耐力等の確認方法

すべり耐力試験

試験方法等

○図示による

○

6普通ボルト

ねじの呼び

●12、16

母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ボルトの孔径

○

呼び径+1.0mm

7溶接材料

溶接材料

標準仕様書7.2.5(1)(2)による

○図示による

○

8ターンバックル

胴の種類

割枠式

○パイプ式

ボルトの種類

羽子板ボルト

○両ねじボルト

○アイボルト

ねじの呼び

○

章

項目

特記事項

7

鉄骨工事

1鉄骨の製作工場

建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場

((○ S ○ H ○ M ○ R ○ J) グレード以上)

○監督職員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

2施工管理技術者

適用する

3鋼材

種類 形状及び寸法

図示による

○

4高力ボルト

ボルトの区分

○トルシア形高力ボルト

○溶融亜鉛めっき高力ボルト

○JIS形高力ボルト

○

ねじの呼び

○

すべり係数試験

○行わない

○行う試験方法等

○図示による

○

5溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類

○1種（F8T）相当

摩擦面の処理

○ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）

○リン酸塩処理

すべり耐力等の確認方法

すべり耐力試験

試験方法等

○図示による

○

6普通ボルト

ねじの呼び

●12、16

母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ボルトの孔径

○

呼び径+1.0mm

7溶接材料

溶接材料

標準仕様書7.2.5(1)(2)による

○図示による

○

8ターンバックル

胴の種類

割枠式

○パイプ式

ボルトの種類

羽子板ボルト

○両ねじボルト

○アイボルト

ねじの呼び

○

株式会社丸山建築事務所

一級建築士事務所登録第139号

板橋 晶一

一級建築士登録 第213806号

構造設計

一級建築士登録 大臣 ()

構造設計

一級建築士登録 交付番号 ()

名称

笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事

No.

A - 1 1

構造/設備関係規定への法適合を確認した

一級建築士登録 大臣 ()

構造設計/設備設計

一級建築士登録 交付番号 ()

図名

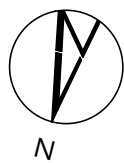
建築工事特記仕様書

縮尺

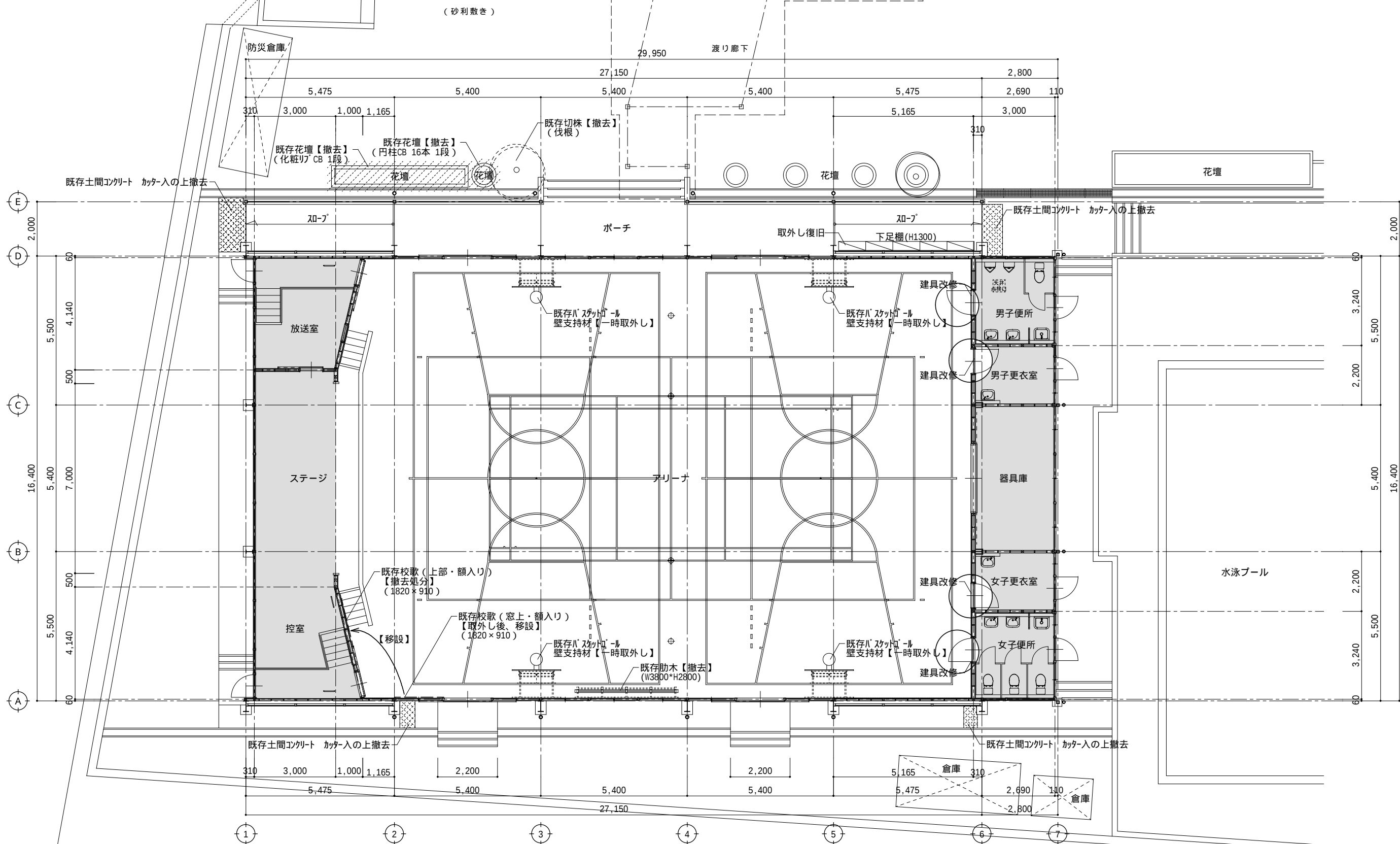
A2: -

A3: -

Ver_R04(R05.02)

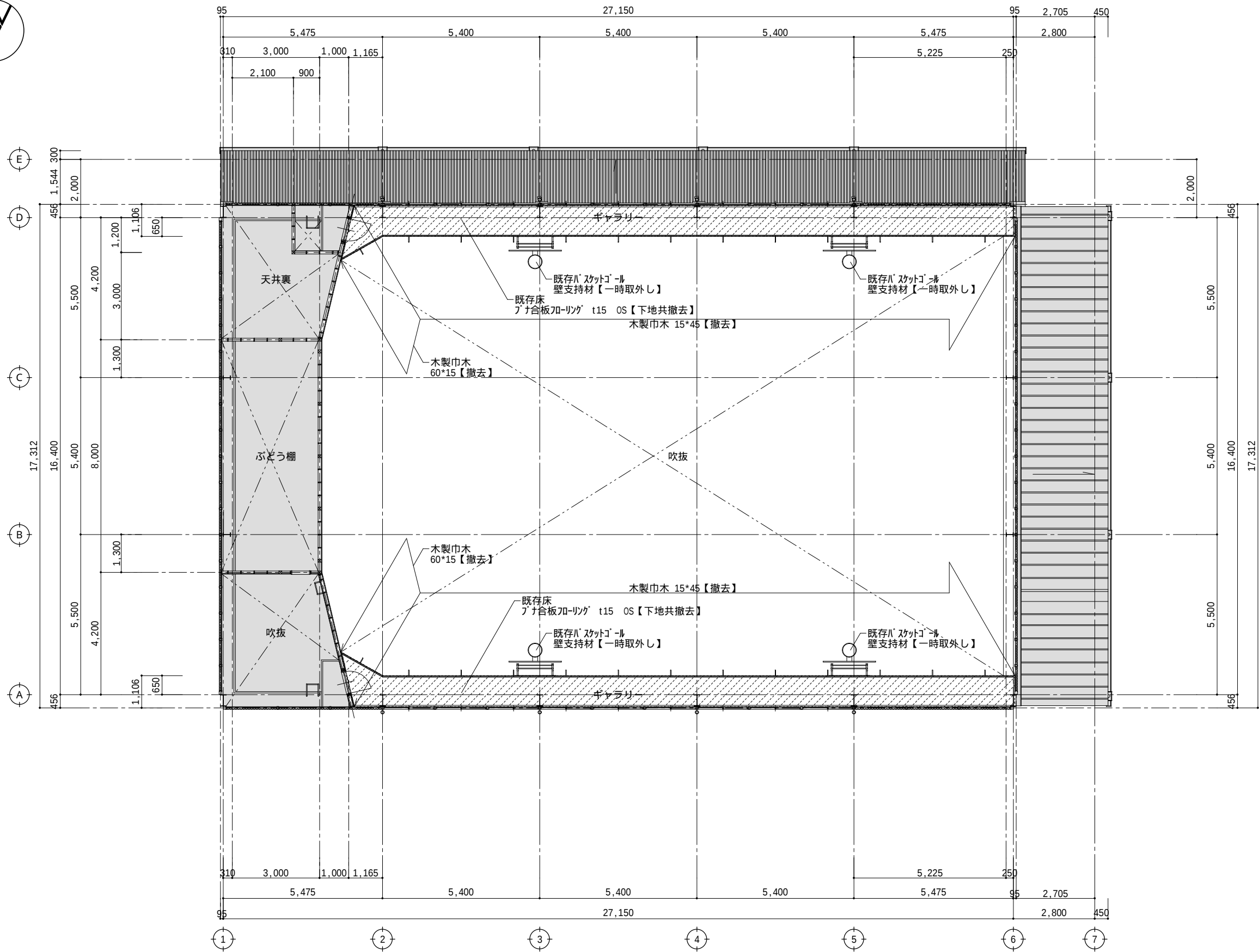


特 記	鉄骨柱脚 珞珞塗根巻部分（12カ所）： 既存珞珞塗撤去、鉄骨柱の錆落とし、防錆処理の上、珞珞塗
	塗装は、つやなし仕上げを選定のこと
	ボーチ柱塗装：FL+1000にて塗分け



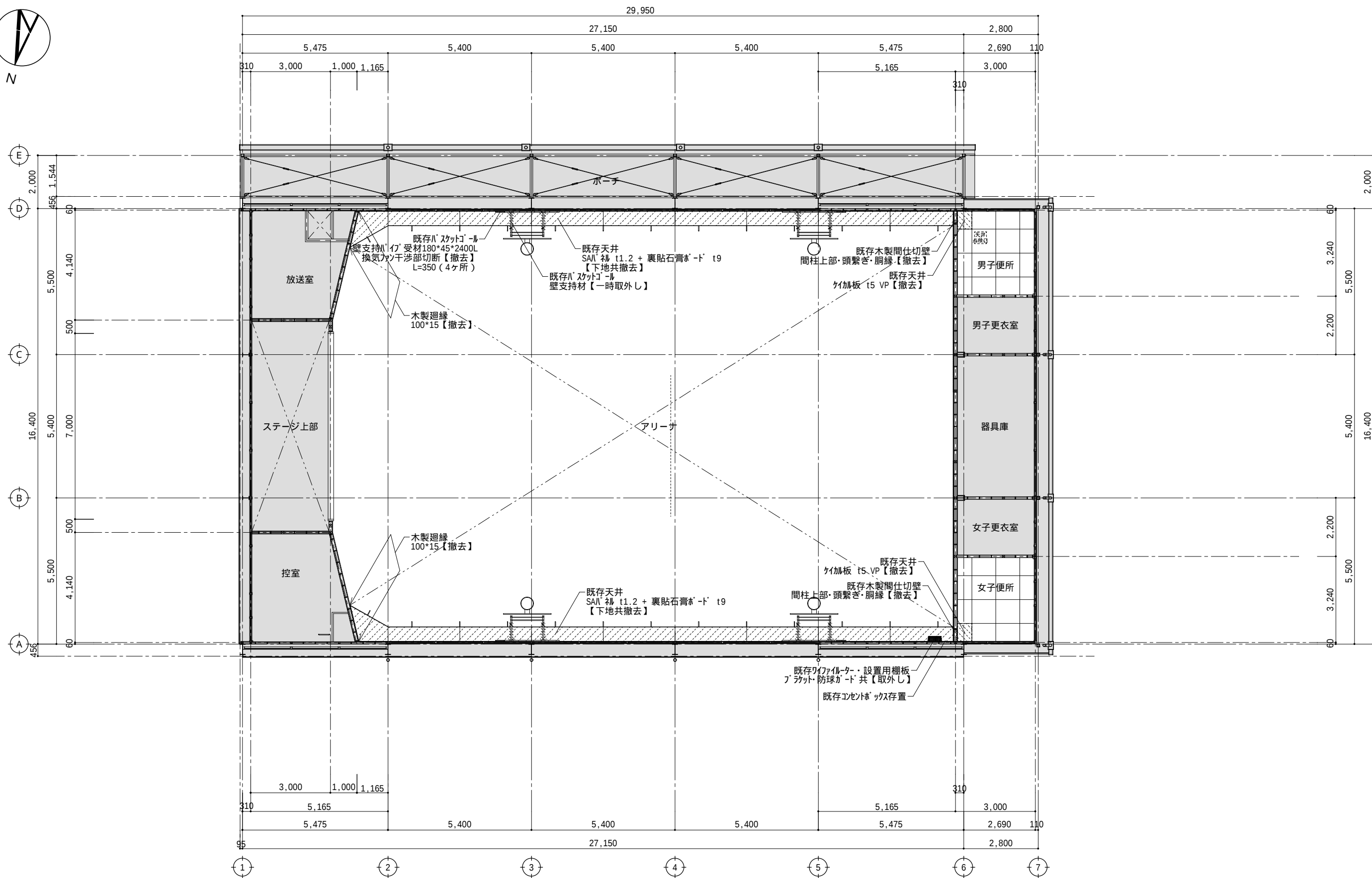
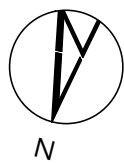
現況 1 階平面図 1/100

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第39号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()		名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 2
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()		図名 現況 1階平面図	縮尺 A2: 1/100 A3: -



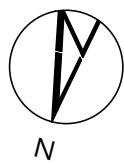
現況	2 階平面図	1/100
----	--------	-------

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第レ39号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 13
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 現況 2 階平面図	縮尺 A2: 1/100 A3: -

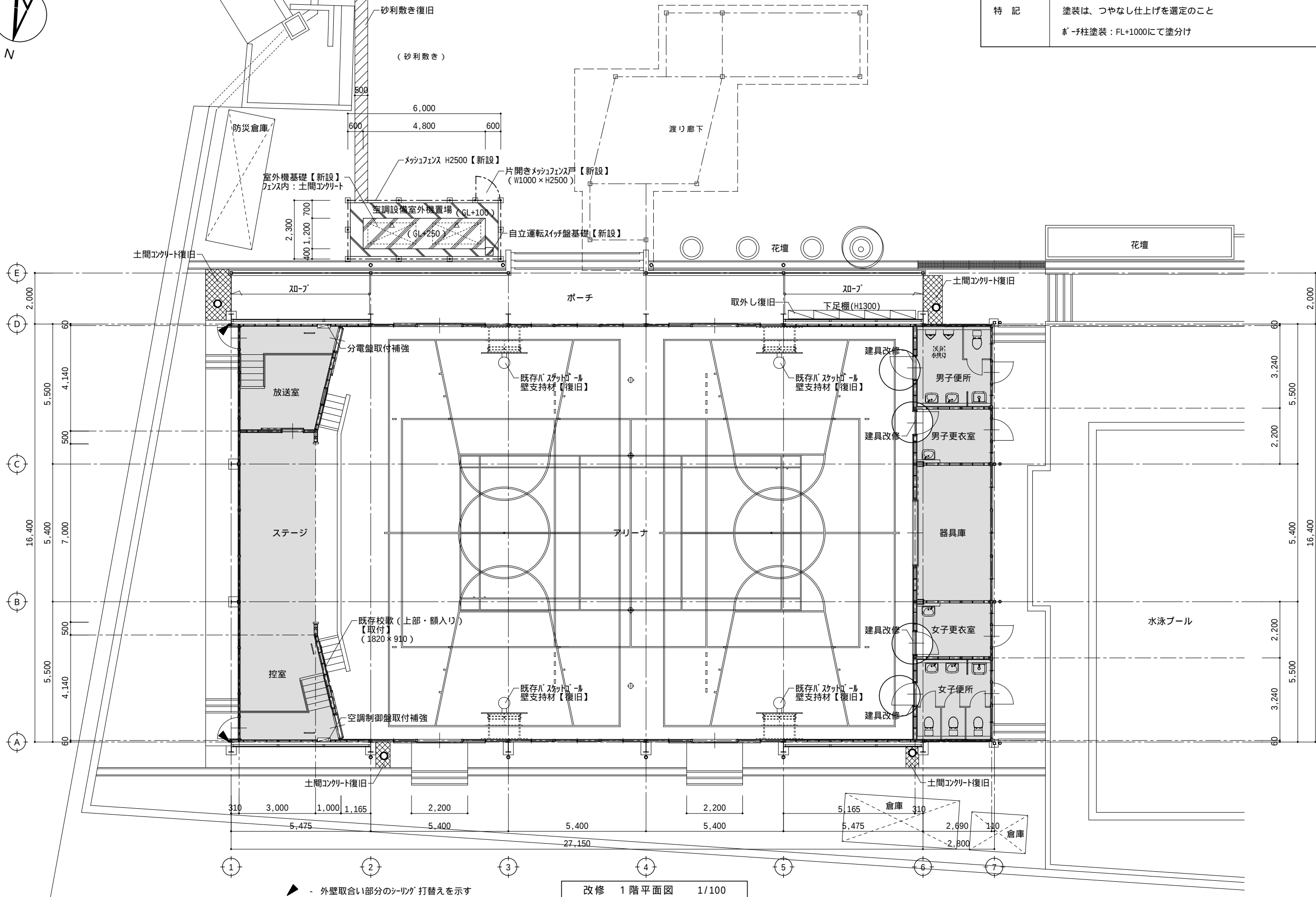


現況 1 階天井伏図(内部) 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 4
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名	現況 1 階天井伏図(内部)	



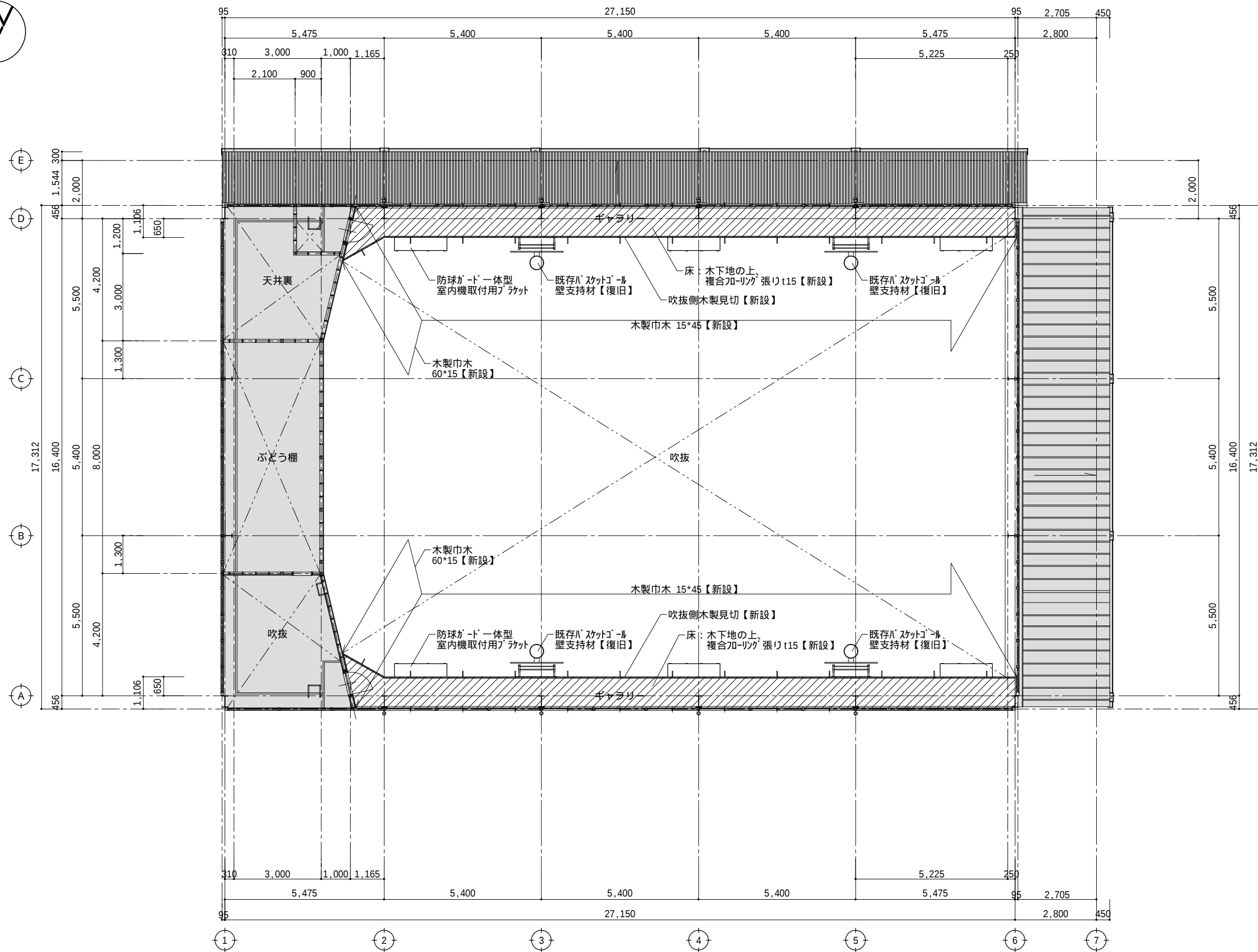
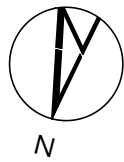
特 記	鉄骨柱脚 モルタル塗根巻部分（12か所）： 既存モルタル塗撤去、鉄骨柱の錆落とし、防錆処理の上、モルタル塗
	塗装は、つやなし仕上げを選定のこと
	ポーチ柱塗装：FL+1000にて塗分け



▲ - 外壁取合い部分のシーリング 打替えを示す

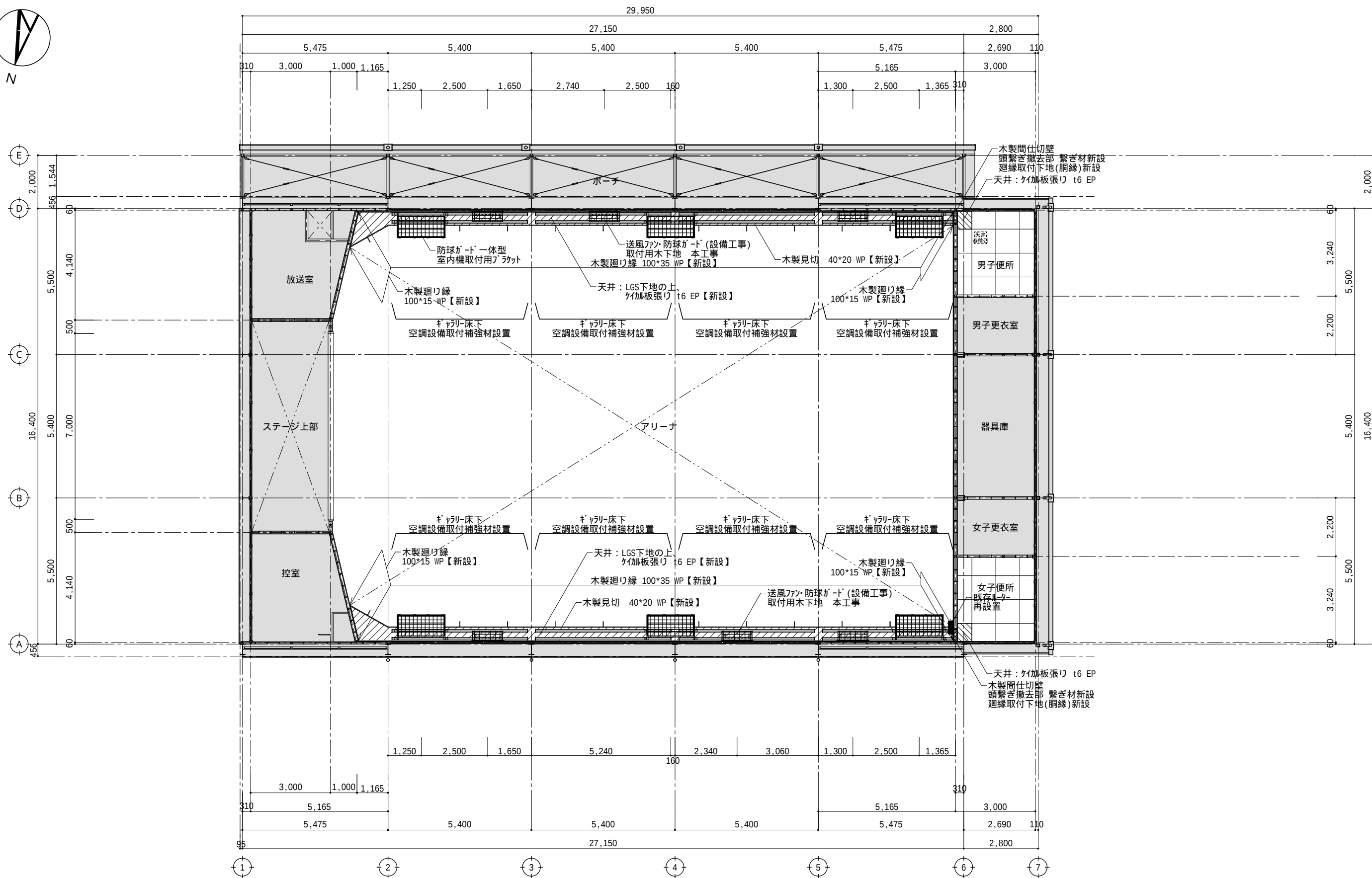
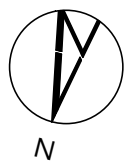
改修 1 階平面図 1/100

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 5	
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()			図名 改修 1 階平面図



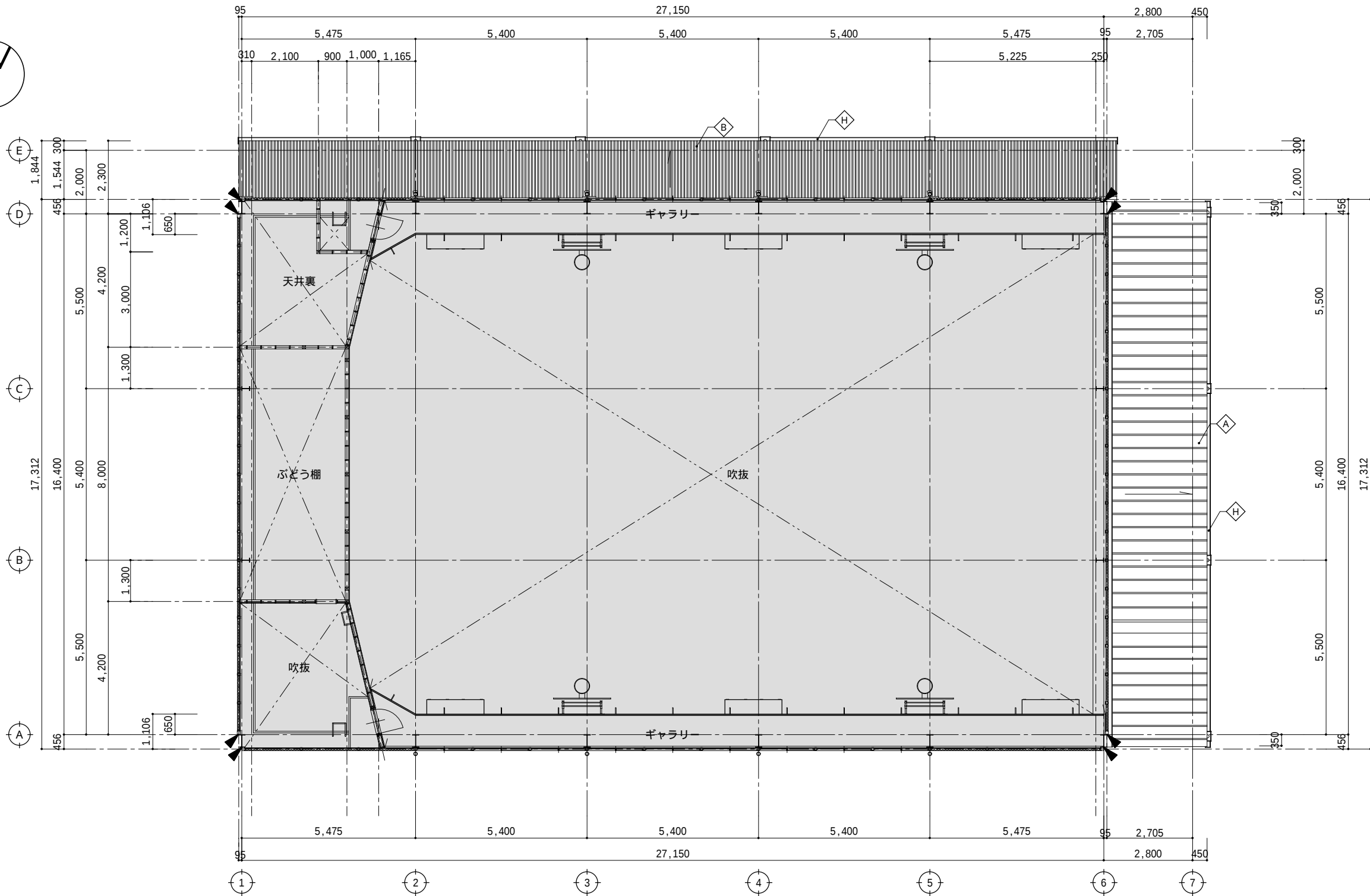
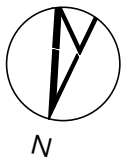
改修 2 階平面図（内部） 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No.	A - 1 6
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名	改修 2階平面図(内部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -	



改修 1 階天井伏図(内部) 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 17
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 ()	図名 改修 1 階天井伏図(内部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -

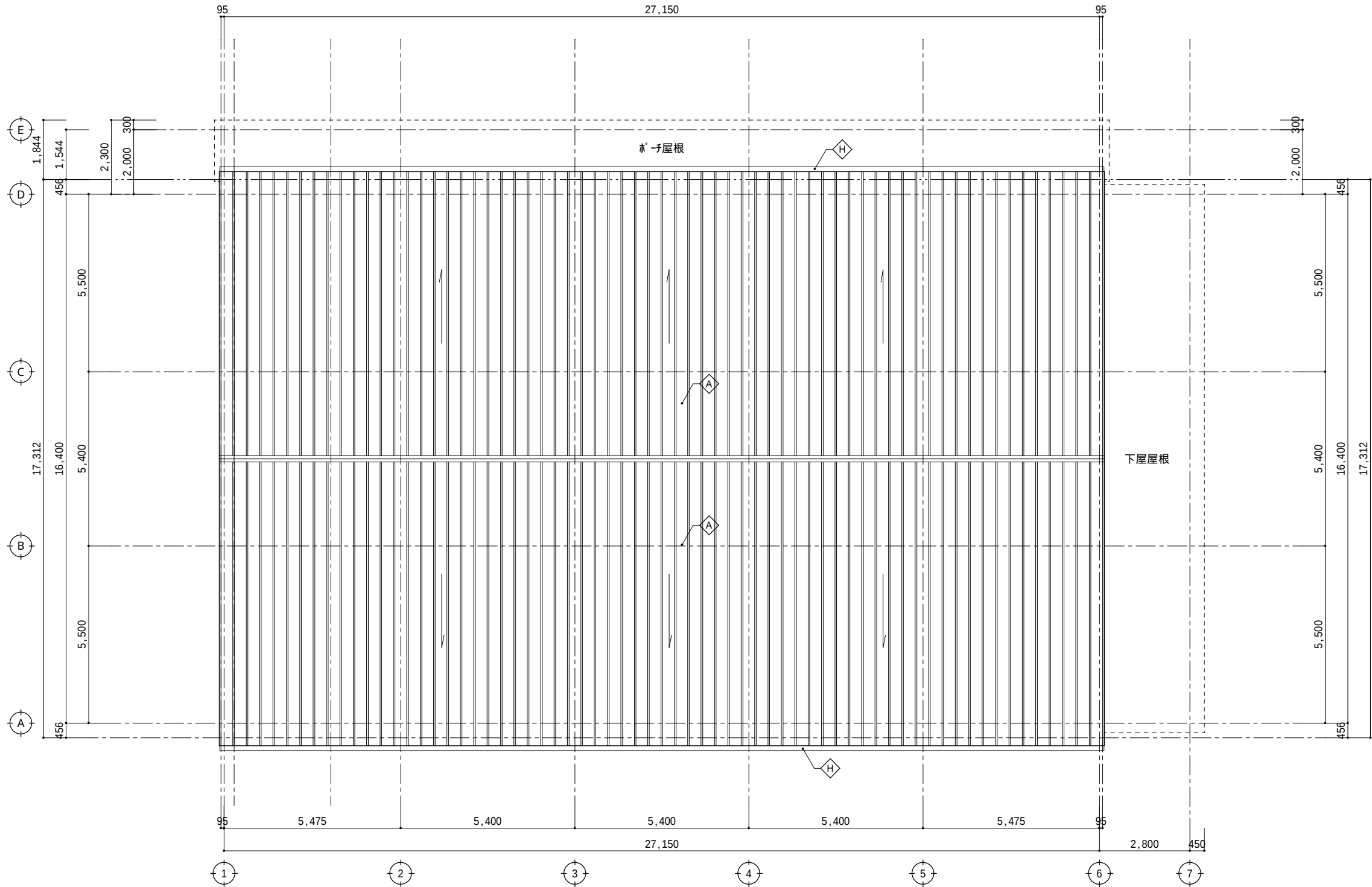
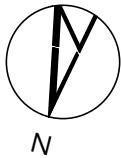


▲ - 外壁取合い部分のシーリング 打替えを示す

改修 2 階平面図（外部） 1/100

外部仕上 凡 例	屋根・下屋屋根 （棟包、水切共） （鼻隠し、破風共）	既存：木毛セメント板t20、アスファルト・フタング 22kg敷込の上、長尺片面が-鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風] が-鉄板t0.4 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) （棟包、水切、鼻隠し、破風共）	鉄骨柱・鉄骨ブレース	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イント塗 桁行側柱(12本)：H-396*199*7*11 妻側柱(2本)：H-250*125*6*9 改修：下地調整RB種の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)
	ボ-チ屋根	既存：片面が-鉄板t0.5M-フタング [裏面] OP塗 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) （水切共） ボ-チキャップ 取付 [裏面] 既存のまま	鉄骨柱・鉄骨ブレース ボ-チ手摺	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イント塗 下屋柱・ボ-チ柱(10本)：□-100*100*3.2 ボ-チ屋根水平ブレース：丸鋼φ13 塗装 ボ-チ梁B6：□-150*100*4.5 ボ-チ梁B7：[-125*65*6 ボ-チ梁B8：□-100*100*3.2 ボ-チ手摺：φ48.6 OP塗 支柱・横横：φ34.0@900 OP塗 手摺子：φ16 @300 OP塗 改修：下地調整RB種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)
	屋根軒裏	既存：シハ-アロイ鋼板B 裨t1.2 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)	軒樋・縦樋	既存：【本体】 [軒樋] 塩ビ角樋150 [縦樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【下屋】 [軒樋] 塩ビ角樋120 [縦樋] VU75φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【ボ-チ】 [軒樋] 折板用角樋W120 [縦樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 改修：【共通】 [軒樋] 既存のまま [縦樋] 研磨紙すり、プライマー塗の上、フッ樹脂塗装 [養生管・掴み金物] 下地調整RB種の上、DP塗装(1級)
	下屋軒裏 ギャラリー下軒裏	既存：LGS下地、石綿ケイ酸板t5、VP塗装 改修：下地調整の上、EP塗装		既存：スチール 焼付塗装 改修：外シ・下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (内外共)
	外壁 （B 裨部共）	既存：[上部] キースト鋼板t0.6 ポリスチレン粉体焼付塗装 [下部] シハ-アロイ鋼板B 裨t1.2 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) （B 裨・B 裨枠・水切共）	鋼製建具	
	巾木	既存：木刷毛引き 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地補修(クラック、浮き処理)、下地調整(C-2)の上、超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗	特 記	塗装は、つやなし仕上げを選定のこと

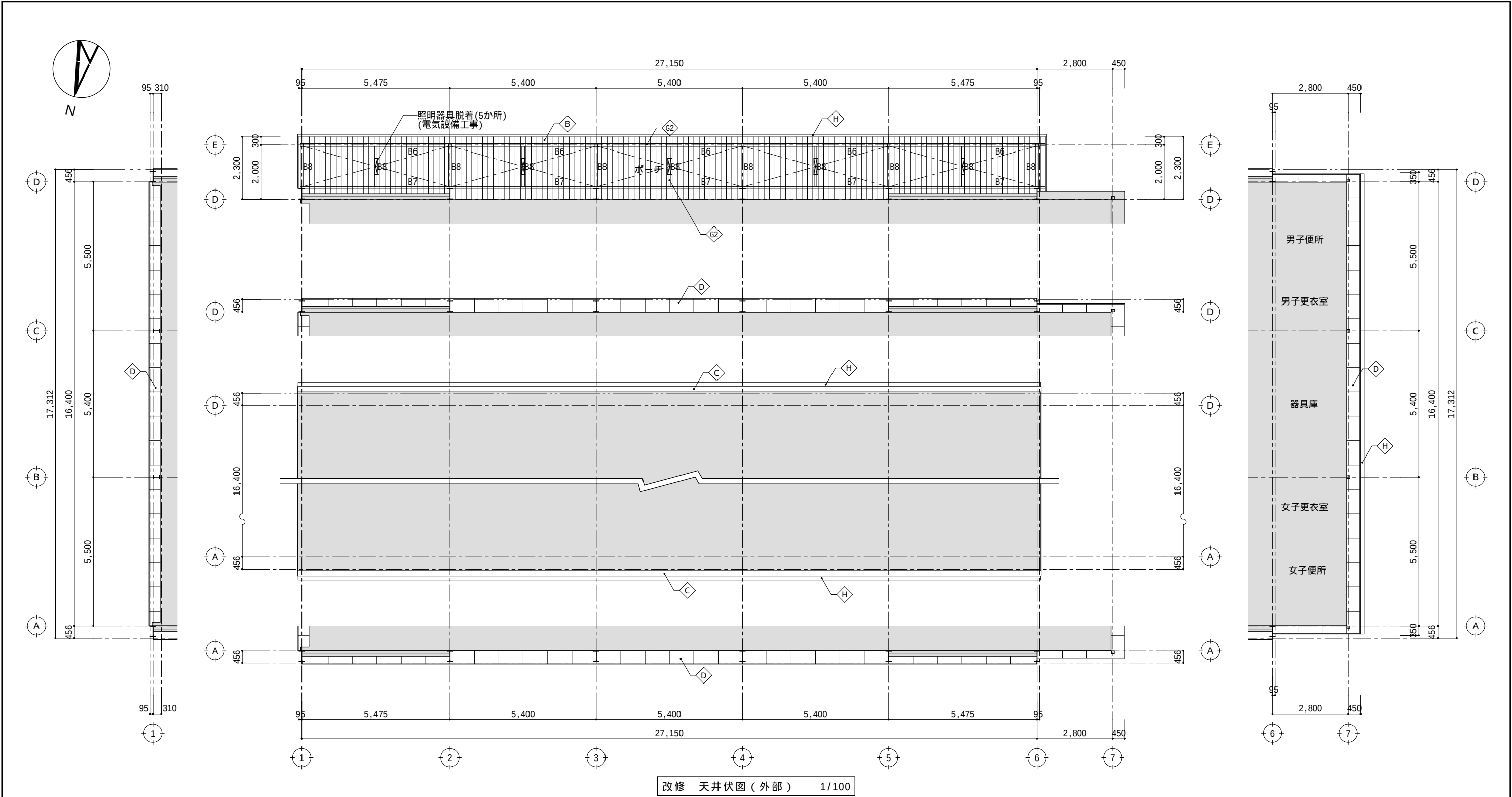
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号			板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 8
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 改修 2 階平面図 (外部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -



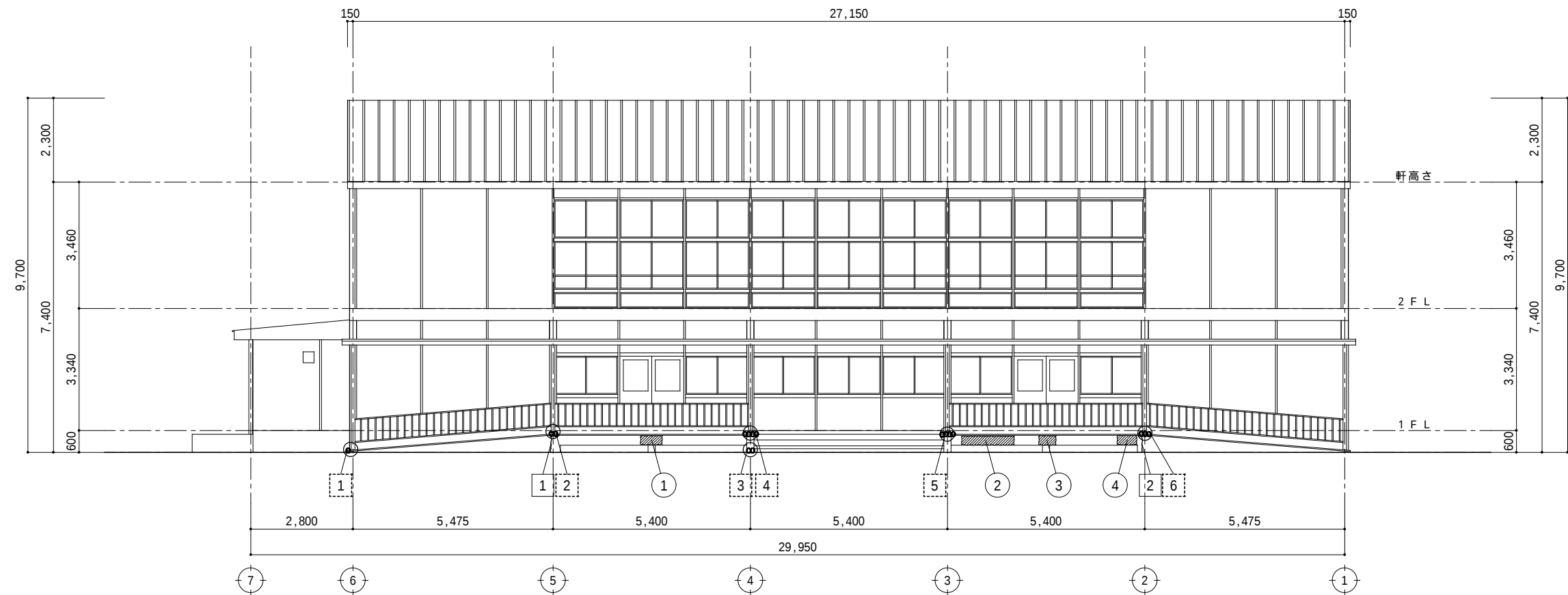
屋根伏図 1/100

外部仕上 凡 例	屋根・下屋根 (棟包、水切共) (鼻隠し、破風共)	A	既存：木毛セメント板t20、アスファルト・フィング 22kg敷込の上、長尺片面が-鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風] が-鉄板t0.4 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (棟包、水切、鼻隠し、破風共)	鉄骨柱・鉄骨ブレース	G1	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イト塗 桁行側柱(12本)：H-396*199*7*11 妻側柱(2本)：H-250*125*6*9 改修：下地調整RB種の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)
	木杣屋根	B	既存：片面が-鉄板t0.5瓦棒葺 [裏面] OP塗 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (水切共) 木杣キャップ 取付 [裏面] 既存のまま	鉄骨柱・鉄骨ブレース 木杣手摺	G2	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イト塗 下屋根・木杣柱(10本)：□-100*100*3.2 木杣屋根水平ブレース：丸鋼φ13 塗装 木杣梁B6：□-150*100*4.5 木杣梁B7：[-125*65*6 木杣梁B8：□-100*100*3.2 木杣手摺：φ48.6 OP塗 支柱・横桟：φ34.0@900 OP塗 手摺子：φ16 @300 OP塗 改修：下地調整RB種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)
	屋根軒裏	C	既存：シリカ・アロイ鋼板R 裨t1.2 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)	軒樋・竖樋	H	既存：【本体】[軒樋]塩ビ角樋150 [竖樋] VU100 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【下屋】[軒樋]塩ビ角樋120 [竖樋] VU75 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【木杣】[軒樋]折板用角樋W120 [竖樋] VU100 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 改修：【共通】[軒樋] 既存のまま [竖樋] 研磨紙すり、プライマー塗の上、フッ素樹脂塗装 [養生管・握み金物] 下地調整RB種の上、DP塗装(1級)
	下屋軒裏 ギャリ-下軒裏	D	既存：LGS下地、石綿ケイ酸板t5、VP塗装 改修：下地調整の上、EP塗装			既存：スチール 焼付塗装 改修：外シ・下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (内外共)
	外壁 (R 裨部共)	E	既存：[上部] キースト鋼板t0.6 ポリイソシアネート粉体焼付塗装 [下部] シリカ・アロイ鋼板R 裨t1.2 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (R 裨・R 裨枠・水切共)	鋼製建具	I	
	巾木	F	既存：外刷毛引き 改修：外シ・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地補修(クラック、浮き処理)、下地調整(C-2)の上、超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗	特 記		塗装は、つやなし仕上げを選定のこと

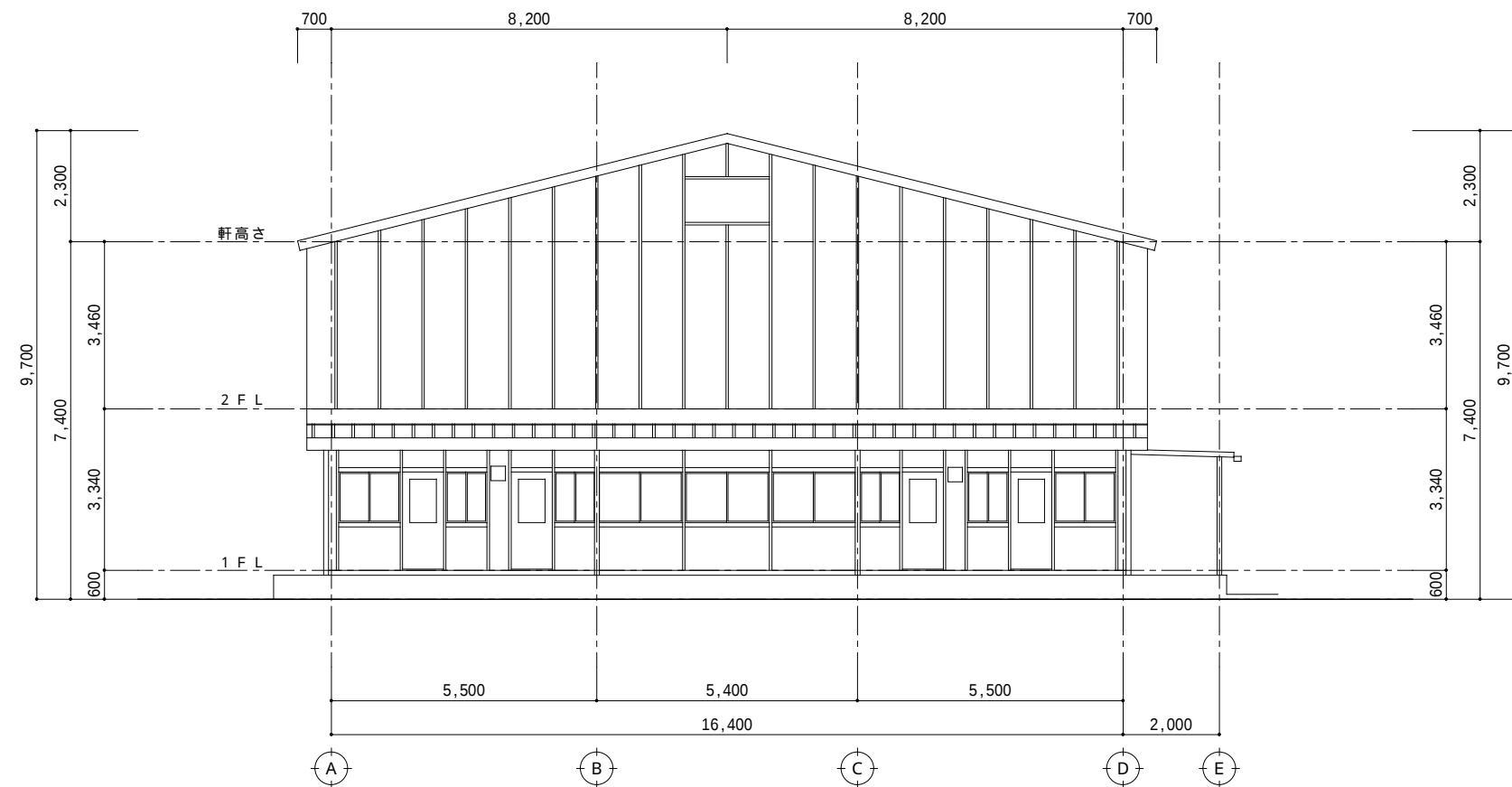
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 1 9
			構造/設備関係規定 への適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 屋根伏図	縮尺 A2: 1/100 A3: -



外部仕上 凡 例	屋根・下屋根 (棟包、水切共) (鼻隠し、破風共)	既存：木毛セメント板t20、アスファルト・フィング 22kg敷込の上、長尺片面が-鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風] が-鉄板t0.4 改修：外ン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (棟包、水切、鼻隠し、破風共)	鉄骨柱・鉄骨ブレース	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イント塗 桁行側柱(12本)：H-396*199*7*11 妻側柱(2本)：H-250*125*6*9 改修：下地調整RB種の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)				
	ボ-チ屋根	既存：片面が-鉄板t0.5W-フデ ッキ [裏面] OP塗 改修：外ン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (水切共) ボ-チキャップ 取付 [裏面] 既存のまま	鉄骨柱・鉄骨ブレース ボ-チ手摺	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イント塗 下屋柱・ボ-チ柱(10本)：□-100*100*3.2 ボ-チ屋根水平ブレース：丸鋼φ13 塗装 ボ-チ梁B6：□-150*100*4.5 ボ-チ梁B7：[-125*65*6 ボ-チ梁B8：□-100*100*3.2 ボ-チ手摺：φ48.6 OP塗 支柱・横横：φ34.0@900 OP塗 手摺子：φ16 @300 OP塗 改修：下地調整RB種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)				
	屋根軒裏	既存：シリ-アロイ鋼板B 裯t1.2 改修：外ン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)	軒樋・竖樋	既存：【本体】[軒樋]塩ビ角樋150 [竖樋] VU100 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【下屋】[軒樋]塩ビ角樋120 [竖樋] VU75 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【ボ-チ】[軒樋]折板用角樋W120 [竖樋] VU100 φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 改修：【共通】[軒樋]既存のまま [竖樋]研磨紙ずり、プライマー塗の上、フッ樹脂塗装 [養生管・掴み金物]下地調整RB種の上、DP塗装(1級)				
	下屋軒裏 ギ-ャリ-下軒裏	既存：LGS下地、石綿ケイカル板t5、VP塗装 改修：下地調整の上、EP塗装	鋼製建具	既存：スチール 焼付塗装 改修：外ン・下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)(内外共)				
	外壁 (B 裯部共)	既存：[上部]キ-ストーン鋼板t0.6 ポリスチ-ル粉体焼付塗装 [下部]シリ-アロイ鋼板B 裯t1.2 改修：外ン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (B 裯・B 裯枠・水切共)	特 記	塗装は、つやなし仕上げを選定のこと				
	巾木	既存：木外刷毛引き 改修：外ン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地補修(クラック、浮き処理)、下地調整(C-2)の上、超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗						
			株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 0
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 改修 天井伏図(外部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -



現況 南側立面図 1/100



現況 西側立面図 1/100

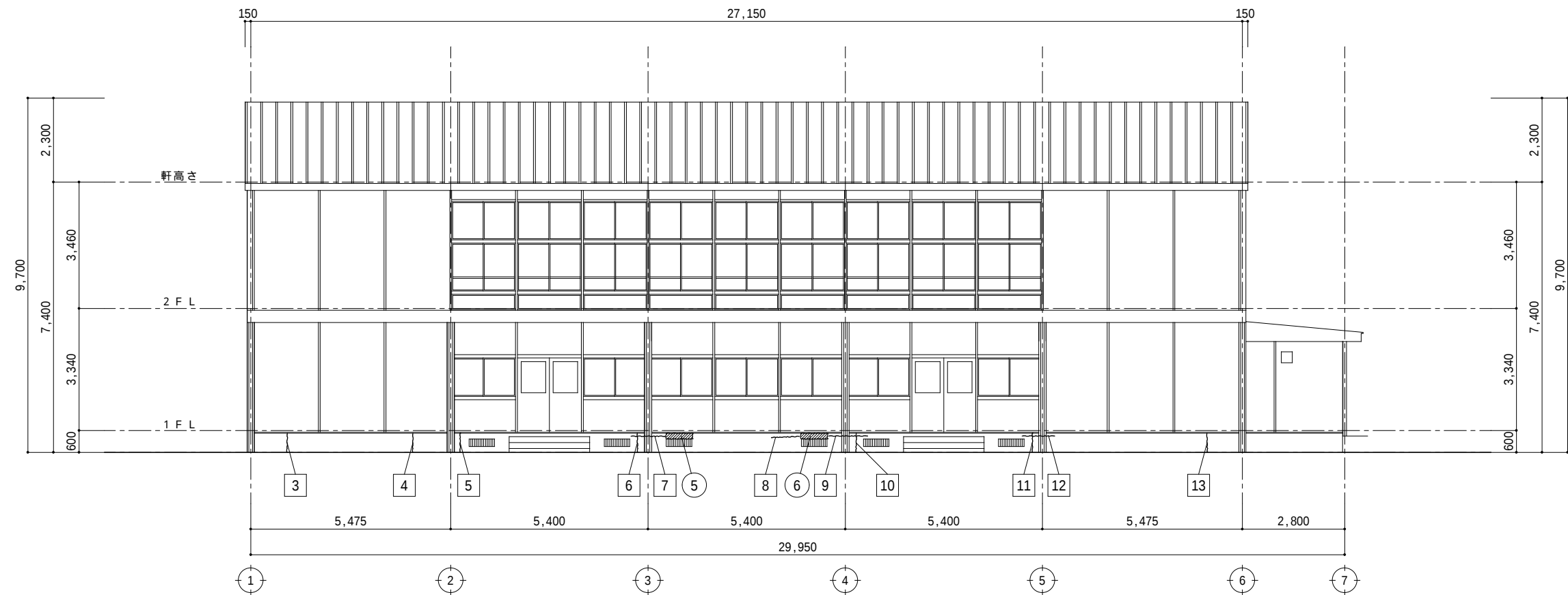
モルタル塗部 ひび割れ幅測定値 (mm) ([] 内 : 補修方法を示す)			
[1]	0.4	(0.5m) [B]	[2] 0.4 (0.5m) [B]

モルタル塗部 欠け面積 (□100程度) ([] 内 : 補修方法を示す)			
[1]	欠け (□100) [D]	[4]	欠け (□100*4) [D]
[2]	欠け (□100*2) [D]	[5]	欠け (□100*4) [D]
[3]	欠け (□100*2) [D]	[6]	欠け (□100*3) [D]

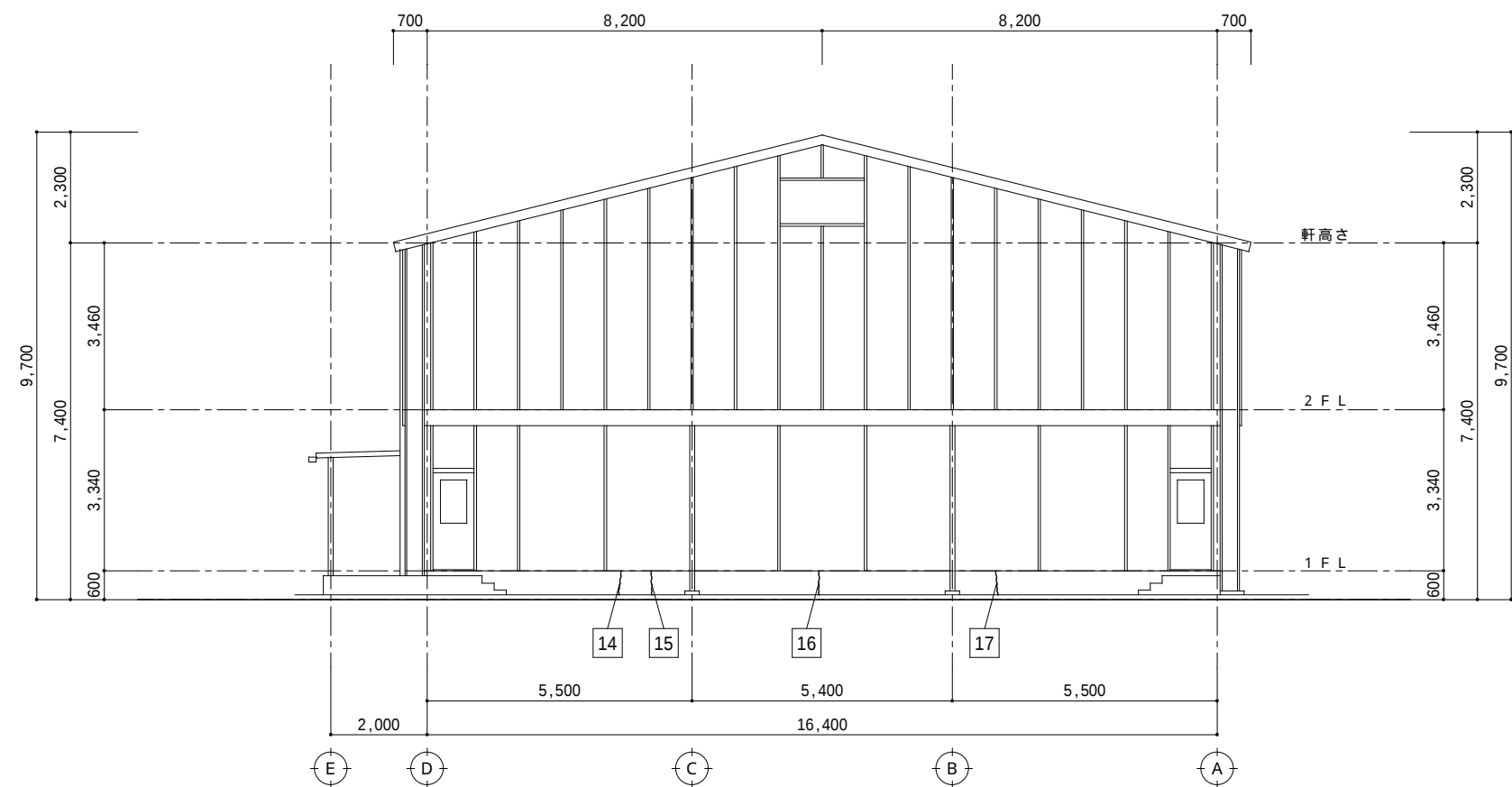
モルタル塗部 浮き面積 (m ²) ([] 内 : 補修方法を示す)			
[1]	モルタル浮き	0.14m ² [F]	[3] モルタル浮き 0.12m ² [F]
[2]	モルタル浮き	0.34m ² [F]	[4] モルタル浮き 0.14m ² [F]

補修種類		工 法	調査数量	計画数量 (× 1.5)
モルタル塗部	A	クラック処理 (0.2mm未満)	シーリング工法	- m
	B	クラック処理 (0.2mm以上)	自動式低圧樹脂注入工法	9.9 m
	C	クラック処理 (1.0mm以上)	ウレタン樹脂材充填工法	- m
	D	欠け・傷 (□100程度)	ポ リマーセメントモルタル充填工法	16 ケ所
	E	露筋 (□100程度)	防錆処理の上ポ リマーセメントモルタル充填工法	- ケ所
	F	浮き	アンカボネンク 部分ポ リマー樹脂注入工法	0.96 m ²
	G			1.44 m ²
	H			
備考		施工に先立ち施工数量調査 (マーキング調査) を行い、図面・調書等を以って監督員に報告し、施工箇所を協議の上、その指示を受けること。		

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 1
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 現況 立面図 (1)	縮尺 A2: 1/100 A3: -



現況 北側立面図 1/100

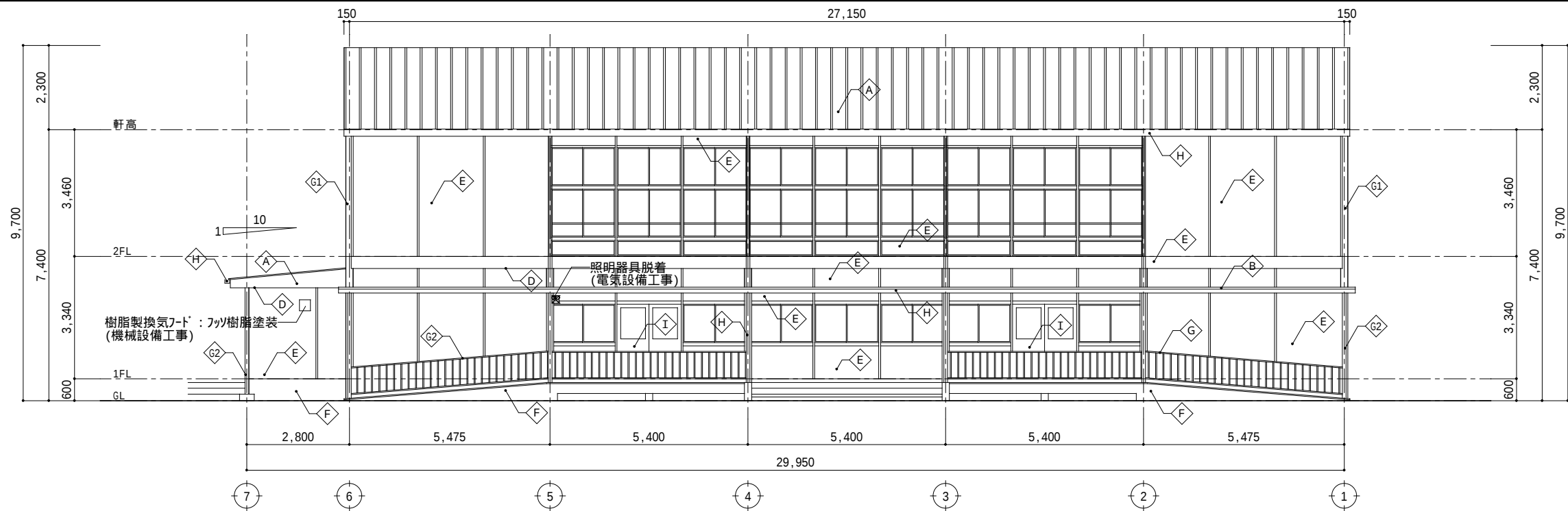


現況 東側立面図 1/100

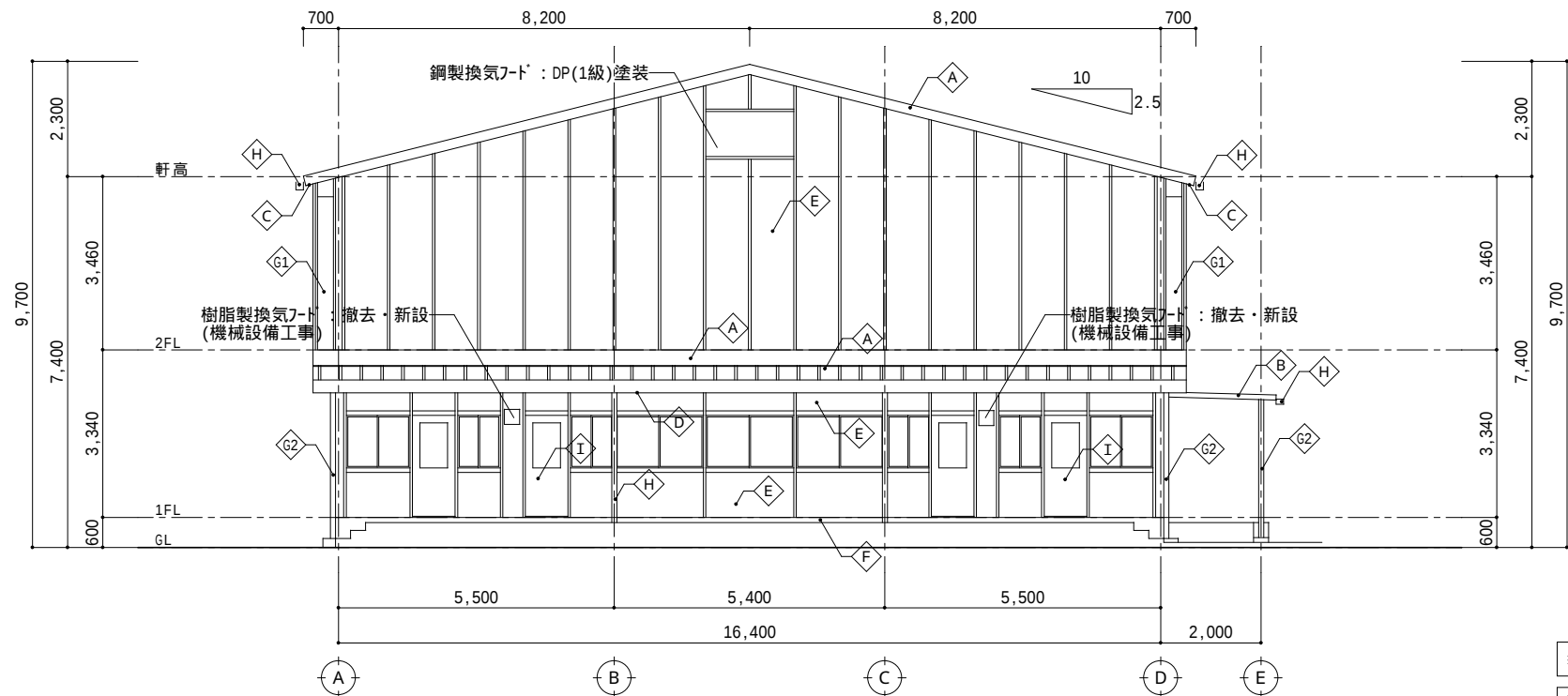
モルタル塗外壁 ひび割れ幅測定値 (mm)			
([]内: 補修方法を示す)			
3	0.2 (0.5m) [B]	11	0.2 (0.5m) [B]
4	0.2 (0.5m) [B]	12	0.2 (0.8m) [B]
5	0.2 (0.5m) [B]	13	0.2 (0.5m) [B]
6	0.2 (0.5m) [B]	14	0.2 (0.5m) [B]
7	0.2 (0.9m) [B]	15	0.2 (0.5m) [B]
8	0.2 (0.7m) [B]	16	0.2 (0.5m) [B]
9	0.4 (1.0m) [B]	17	0.2 (0.5m) [B]
10	0.2 (0.5m) [B]		

モルタル塗部 浮き面積 (m ²)	
([]内: 補修方法を示す)	
5	モルタル浮き 0.11m ² [F]
6	モルタル浮き 0.11m ² [F]

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 2
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名	現況 立面図 (2)	



改修 南側立面図 1/100



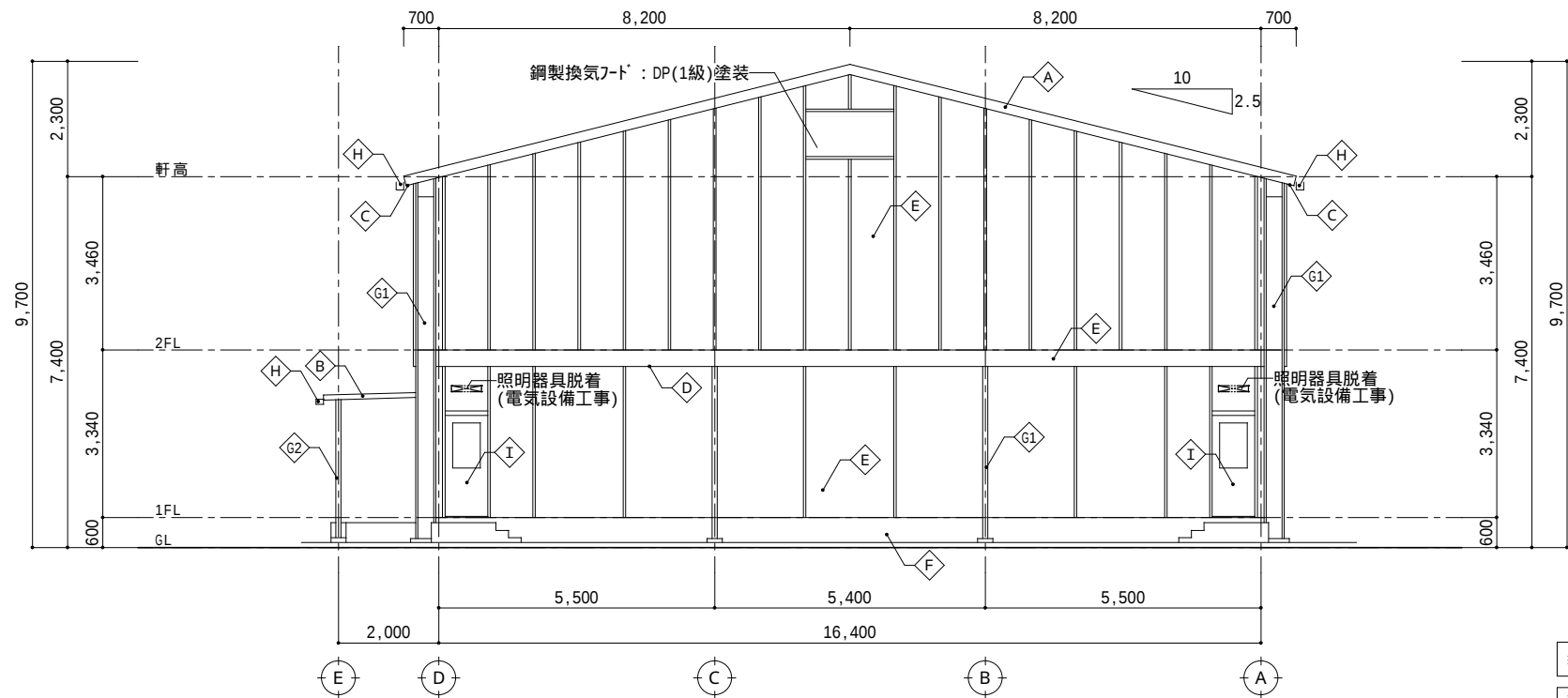
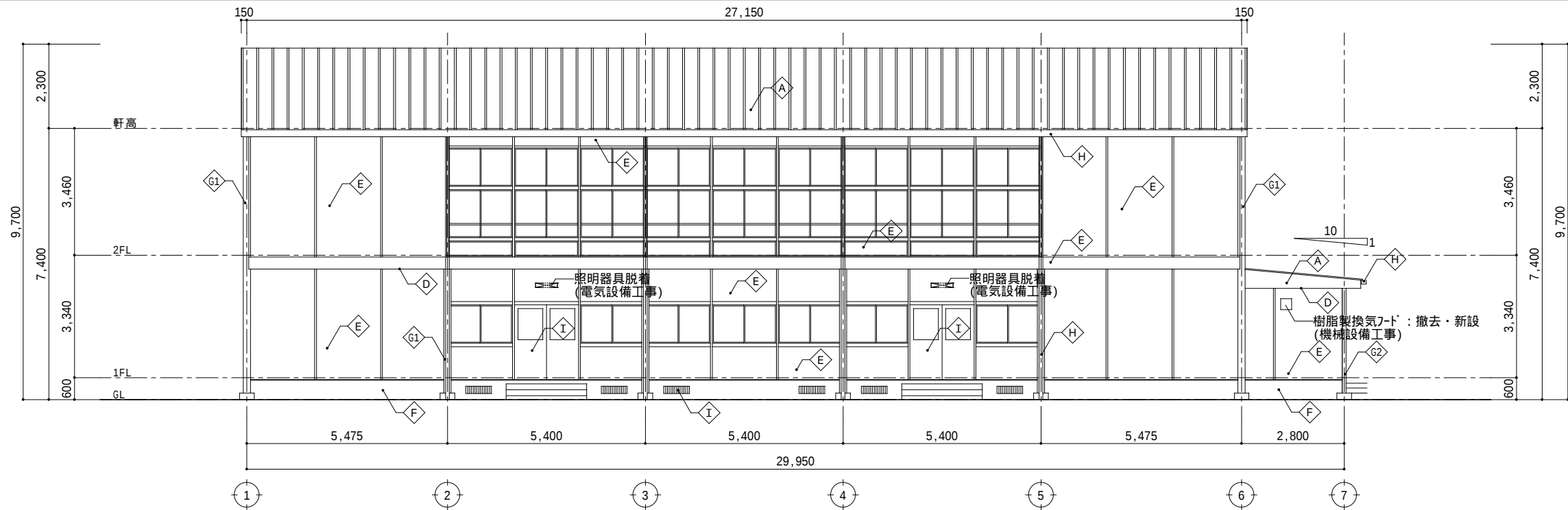
改修 西側立面図 1/100

換気機器VAT (撤去・新設)

機器名称	機器仕様	台数	据付位置	備考 (参考メーカー品番)
樹脂製換気フード (樹脂製)	25cm用	4	更衣室 (男・女)、便所 (男・女)	三菱電機 (同等品) P-25CVP3

外部仕上 凡 例	屋根・下屋根 (棟包、水切共) (鼻隠し、破風共)	A	既存: 木毛セメント板t20、アスファルト・フィング 22kg敷込の上、長尺片面が-鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風] が-鉄板t0.4 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (棟包、水切、鼻隠し、破風共)	鉄骨柱・鉄骨ブレース	G1	既存: 下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イト塗 桁行側柱(12本): H-396*199*7*11 妻側柱(2本): H-250*125*6*9 改修: 下地調整RB種の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回)
	ボ-チ屋根	B	既存: 片面が-鉄板t0.5W-フデ ッキ [裏面] OP塗 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (水切共) ボ-チキャップ 取付 [裏面] 既存のまま	鉄骨柱・鉄骨ブレース ボ-チ手摺	G2	既存: 下地処理、錆止め塗装の上、タイコ・マリパ イト塗 下屋柱・ボ-チ柱(10本): □-100*100*3.2 ボ-チ屋根水平ブレース: 丸鋼φ13 塗装 ボ-チ梁B6: □-150*100*4.5 ボ-チ梁B7: [-125*65*6 ボ-チ梁B8: □-100*100*3.2 ボ-チ手摺: φ48.6 OP塗 支柱・横棧: φ34.0@900 OP塗 手摺子: φ16 @300 OP塗 改修: 下地調整RB種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)
	屋根軒裏	C	既存: シル-アイ鋼板B 裨t1.2 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回)	軒樋・縦樋	H	既存: 【本体】 [軒樋] 塩ビ角樋150 [縦樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【下屋】 [軒樋] 塩ビ角樋120 [縦樋] VU75φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【ボ-チ】 [軒樋] 折板用角樋W120 [縦樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 改修: 【共通】 [軒樋] 既存のまま [縦樋] 研磨紙すり、プライマー塗の上、フッ素樹脂塗装 [養生管・掴み金物] 下地調整RB種の上、DP塗装(1級)
	下屋軒裏 ギャリ-下軒裏	D	既存: LGS下地、石綿ケイ酸板t5、VP塗装 改修: 下地調整の上、EP塗装	鋼製建具	I	既存: スチール 焼付塗装 改修: 外ン・下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (内外共)
	外壁 (B 裨部共)	E	既存: [上部] キースト鋼板t0.6 ポリイソシアネート粉体焼付塗装 [下部] シル-アイ鋼板B 裨t1.2 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (B 裨・B 裨枠・水切共)	特 記		塗装は、つやなし仕上げを選定のこと
	巾木	F	既存: 珪藻土刷毛引き 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地補修(クラック、浮き処理)、下地調整(C-2)の上、超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗			

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号			板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	構造設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 3
				構造/設備関係規定 への適合を確認した	構造設計/設備設計 一級建築士登録 大臣 () 交付番号 ()	図名 改修 立面図 (1)	縮尺 A2: 1/100 A3: -

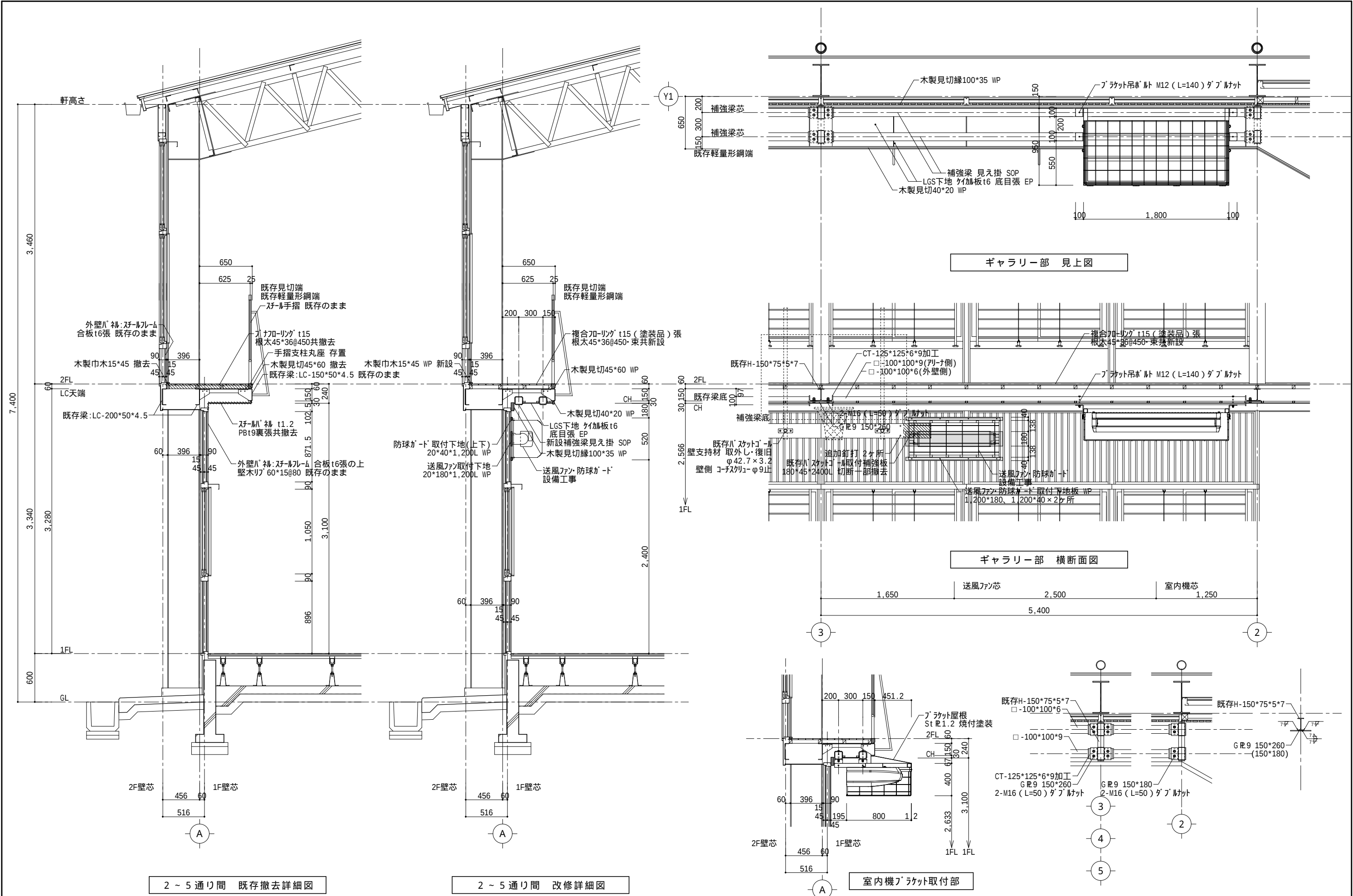


換気機VAT (撤去・新設)

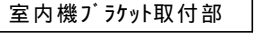
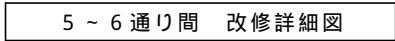
機器名称	機器仕様	台数	据付位置	備考 (参考ノカ品番)
ガザ-ガ- (樹脂製)	25cm用	4	更衣室(男・女)、便所(男・女)	三菱電機 (同等品) P-25CVP3

外部仕上 凡 例	屋根・下屋屋根 (棟包、水切共) (鼻隠し、破風共)	A	既存: 木毛セメント板t20、アスファルト-フィング 22kg敷込の上、長尺片面が-鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風] が-鉄板t0.4 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (棟包、水切、鼻隠し、破風共)	鉄骨柱・鉄骨ブレス	G1	既存: 下地処理、錆止め塗装の上、タイコ-リソバ-イント塗 桁行側柱(12本): H-396*199*7*11 妻側柱(2本): H-250*125*6*9 改修: 下地調整RB種の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回)
	ボ-チ屋根	B	既存: 片面が-鉄板t0.5M-フ-ツキ [裏面] OP塗 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (水切共) ボ-チキャップ 取付 [裏面] 既存のまま	鉄骨柱・鉄骨ブレス ボ-チ手摺	G2	既存: 下地処理、錆止め塗装の上、タイコ-リソバ-イント塗 下屋柱・ボ-チ柱(10本): □-100*100*3.2 ボ-チ屋根水平ブレス: 丸鋼φ13 塗装 ボ-チ梁B6: □-150*100*4.5 ボ-チ梁B7: [-125*65*6 ボ-チ梁B8: □-100*100*3.2 ボ-チ手摺: φ48.6 OP塗 支柱・横桟: φ34.0@900 OP塗 手摺子: φ16 @300 OP塗 改修: 下地調整RB種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)
	屋根軒裏	C	既存: シルバ-アロイ銅板B' 裨t1.2 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回)	軒樋・豎樋	H	既存: 【本体】[軒樋] 塩ビ角樋150 [豎樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【下屋】[軒樋] 塩ビ角樋120 [豎樋] VU75φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 【ボ-チ】[軒樋] 折板用角樋W120 [豎樋] VU100φ [養生管] 鋼管OP塗 H1800 改修: 【共通】[軒樋] 既存のまま [豎樋] 研磨紙すり、プライマー塗の上、フッ樹脂塗装 [養生管・掴み金物] 下地調整RB種の上、DP塗装(1級)
	下屋軒裏 ギャリ-下軒裏	D	既存: LGS下地、石綿ケイカル板t5、VP塗装 改修: 下地調整の上、EP塗装	鋼製建具	I	既存: スチール 焼付塗装 改修: 外ン・下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (内外共)
	外壁 (B' 裨部共)	E	既存: [上部] キースト鋼板t0.6 ポリイソ氰粉体焼付塗装 [下部] シルバ-アロイ銅板B' 裨t1.2 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地調整RB種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り: プライマー1回、上塗り: 2回) (B' 裨・B' 裨部共)	特 記		塗装は、つやなし仕上げを選定のこと
	巾木	F	既存: MFL刷毛引き 改修: 外ン・清掃・水洗い(10~15Mpa)、下地補修(クラック、浮き処理)、下地調整(C-2)の上、超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗			

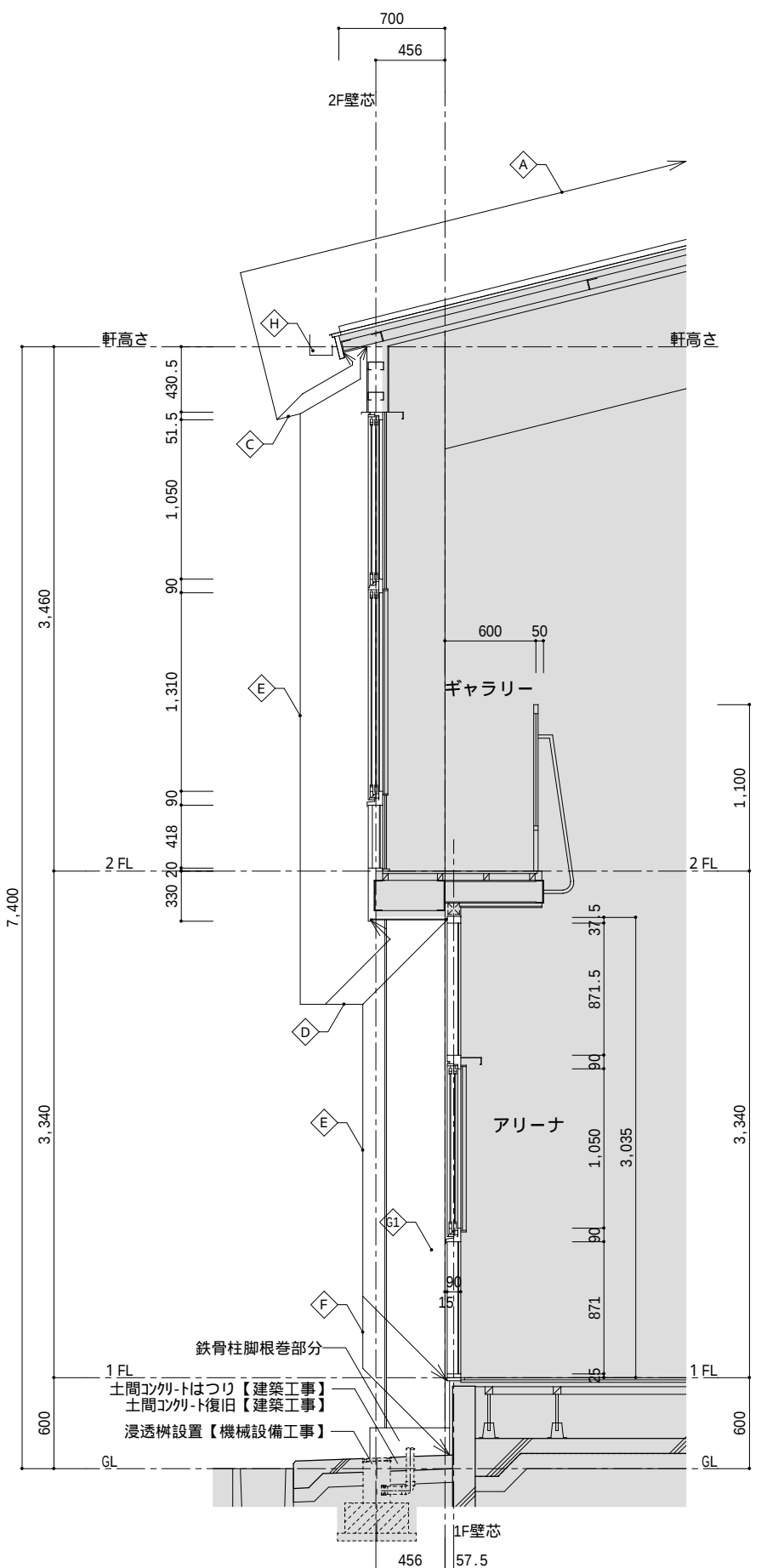
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号			板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 4
					構造/設備関係規定 への適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 改修 立面図 (2)	縮尺 A2: 1/100 A3: -



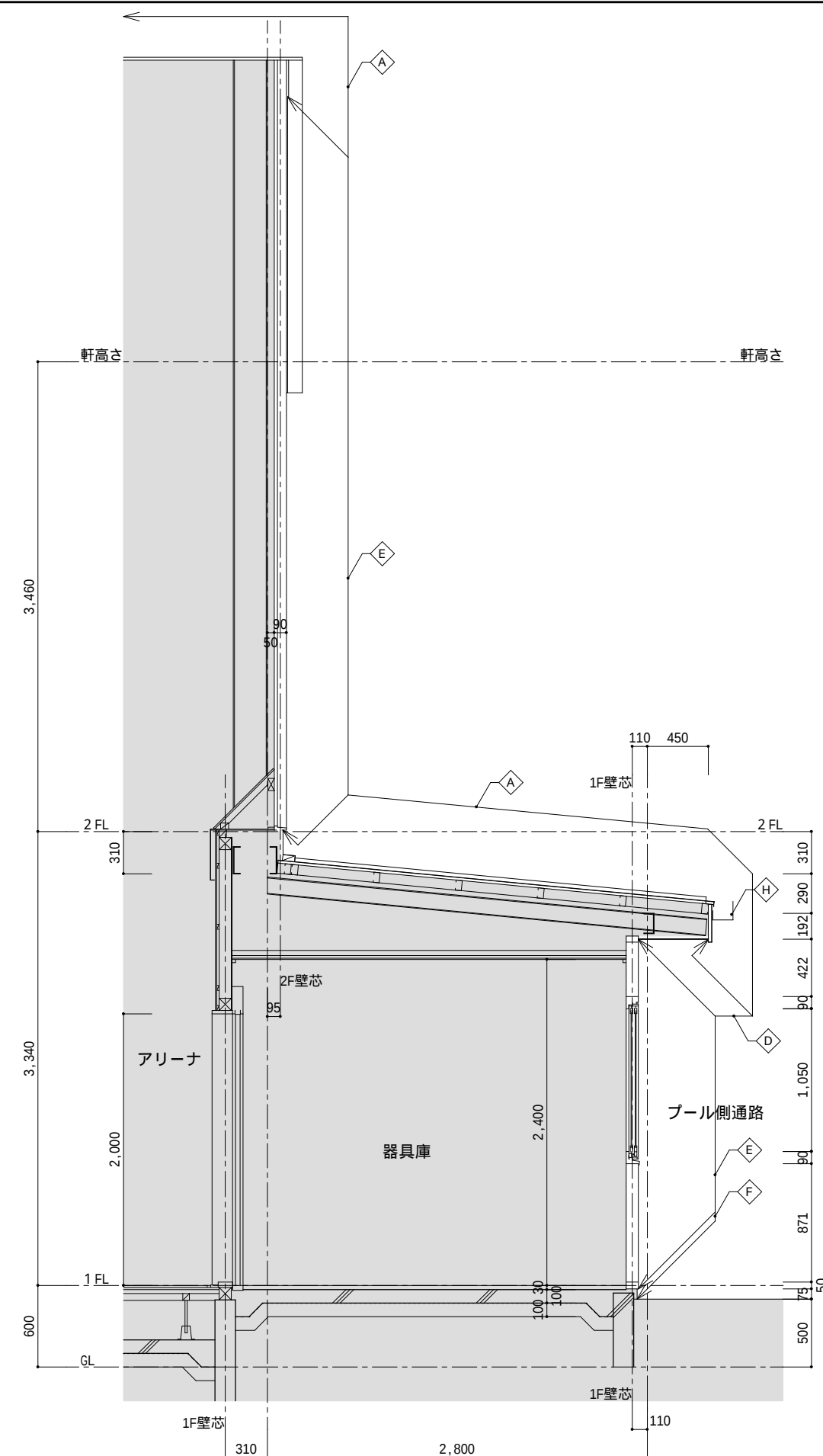
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 5
構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 矩計図 (1 : 内部)	縮尺 A2: 1/30 A3: -	



株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 2 6
		構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 矩計図 (2 : 内部)	縮尺 A2: 1/30 A3: -

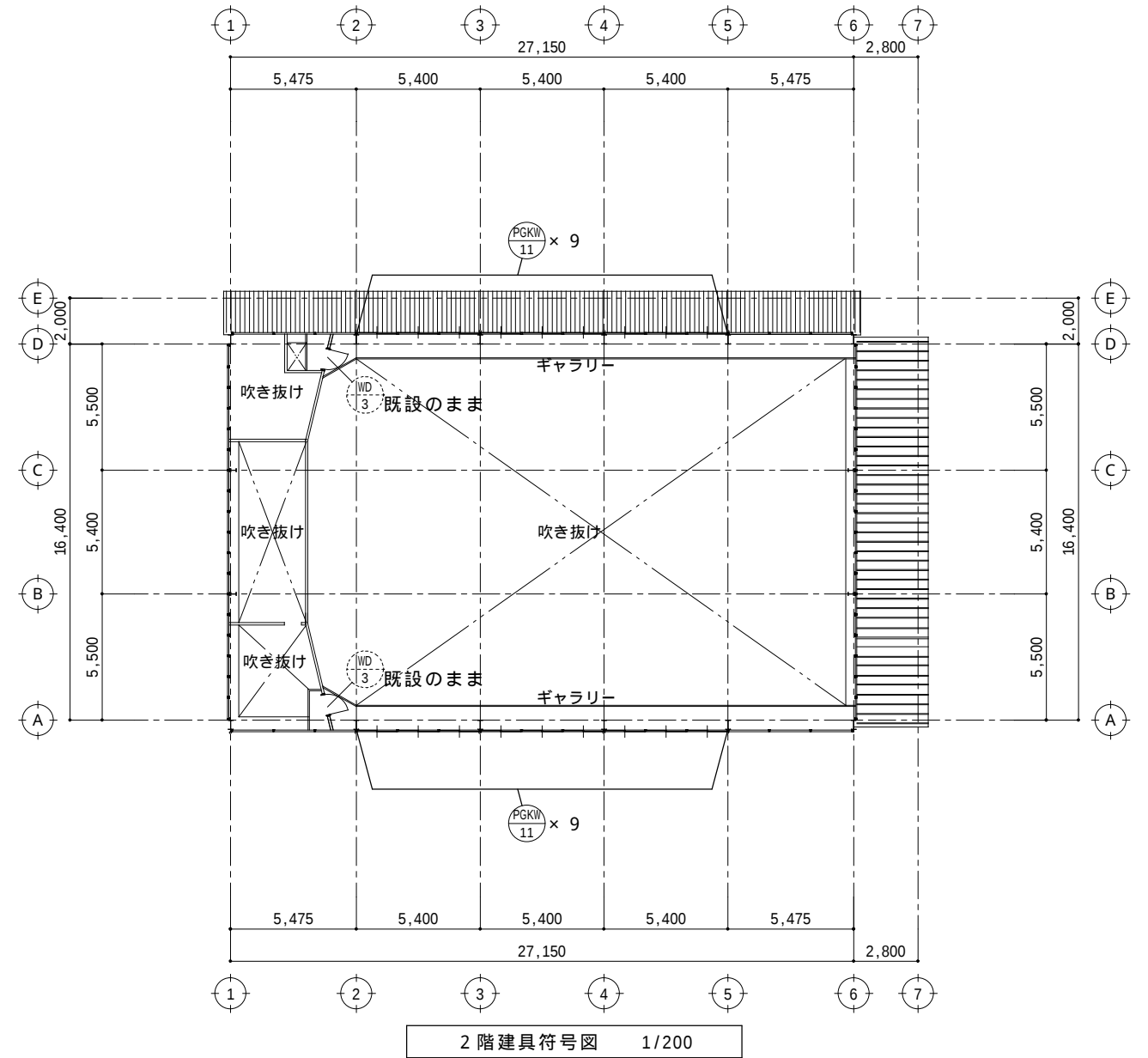
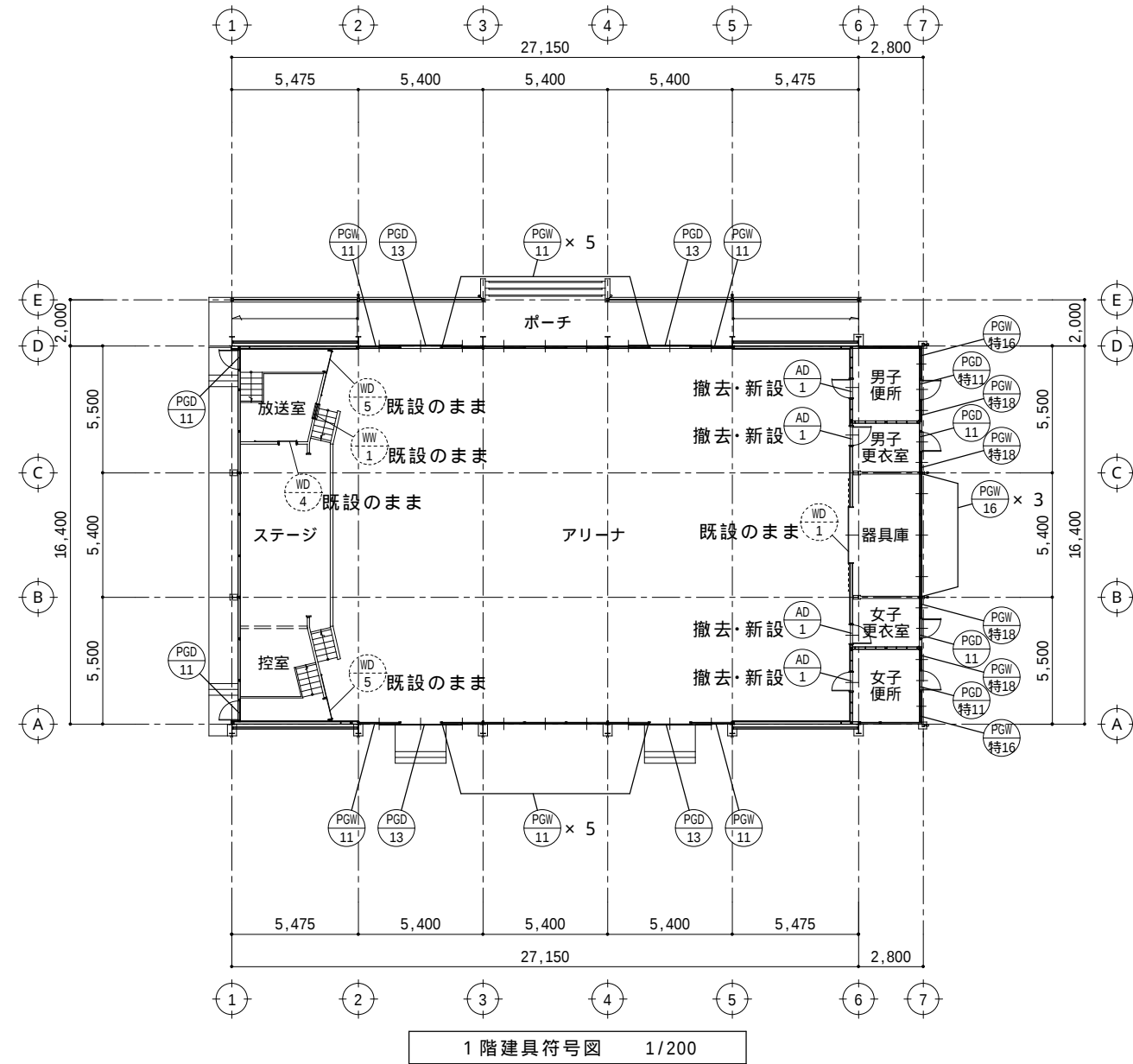
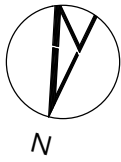


矩計図（外部：北側） 1/30

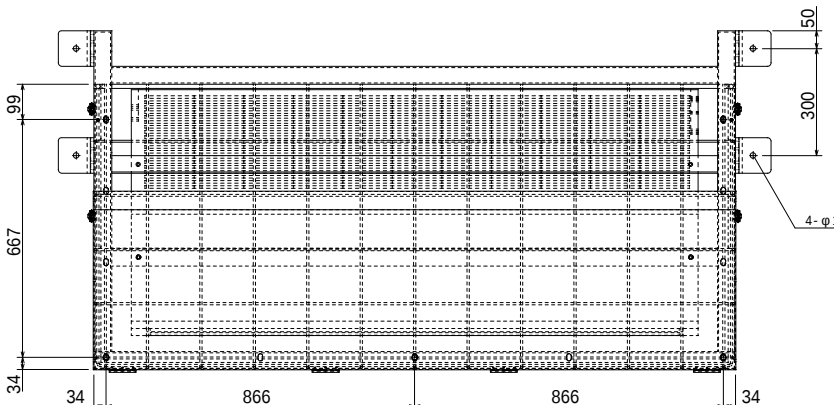
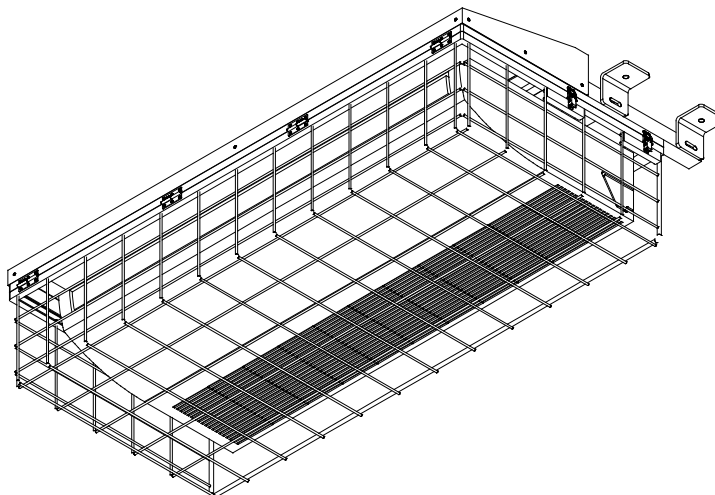
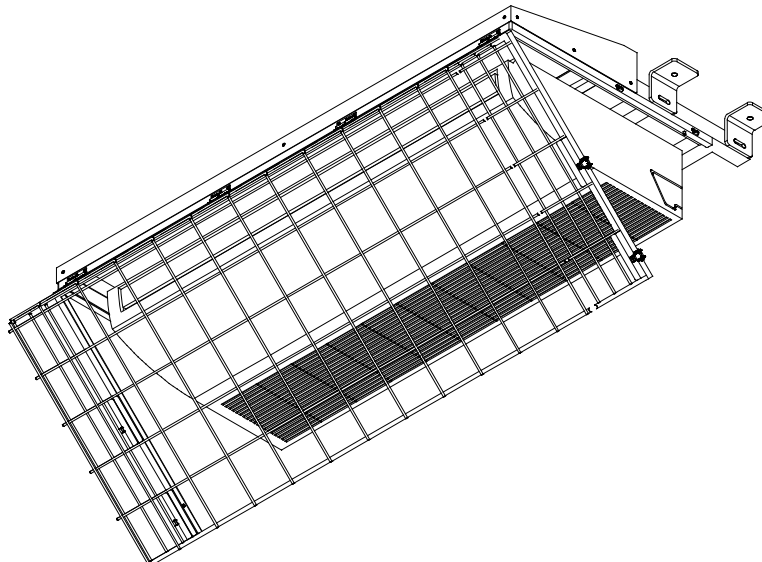
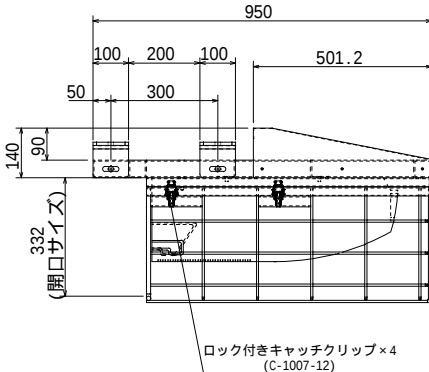
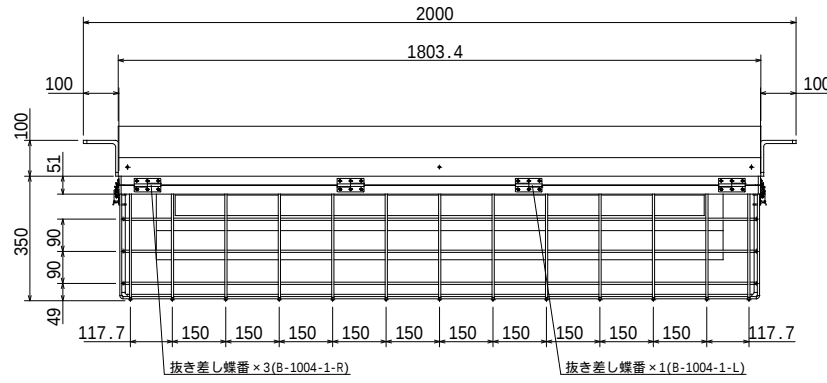
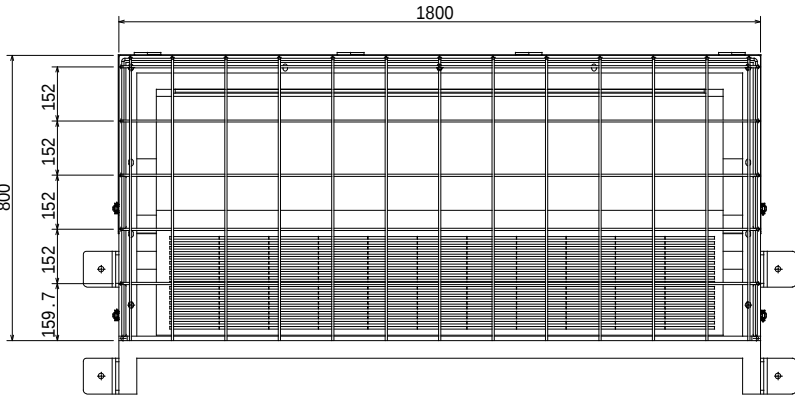
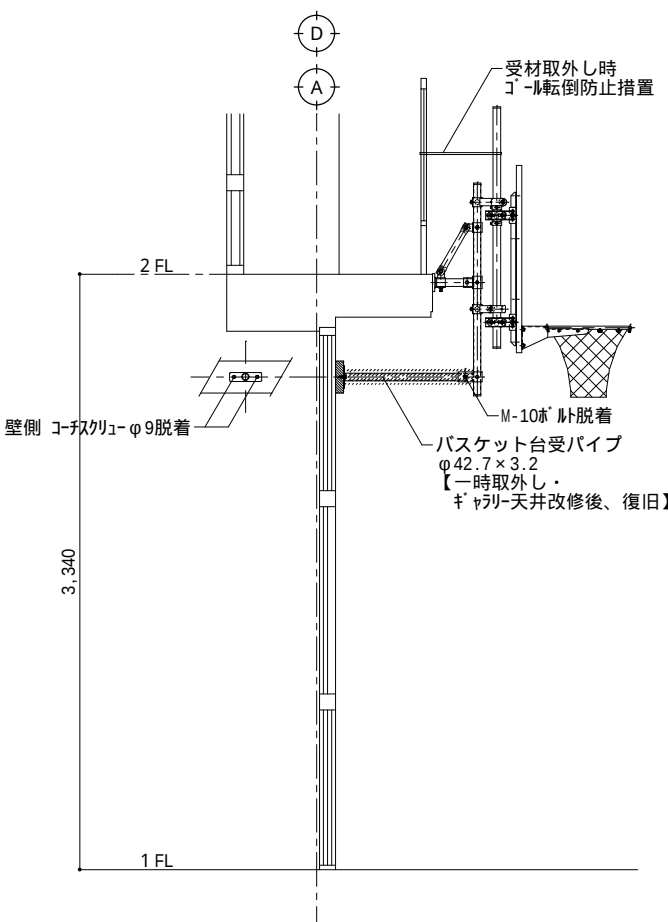
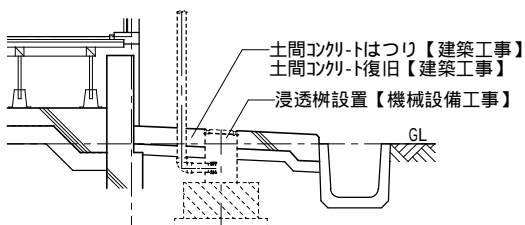
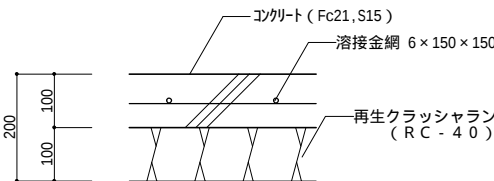
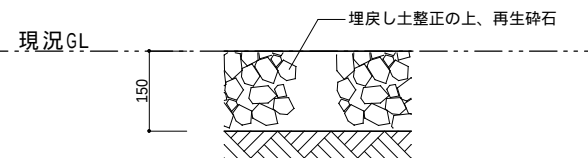


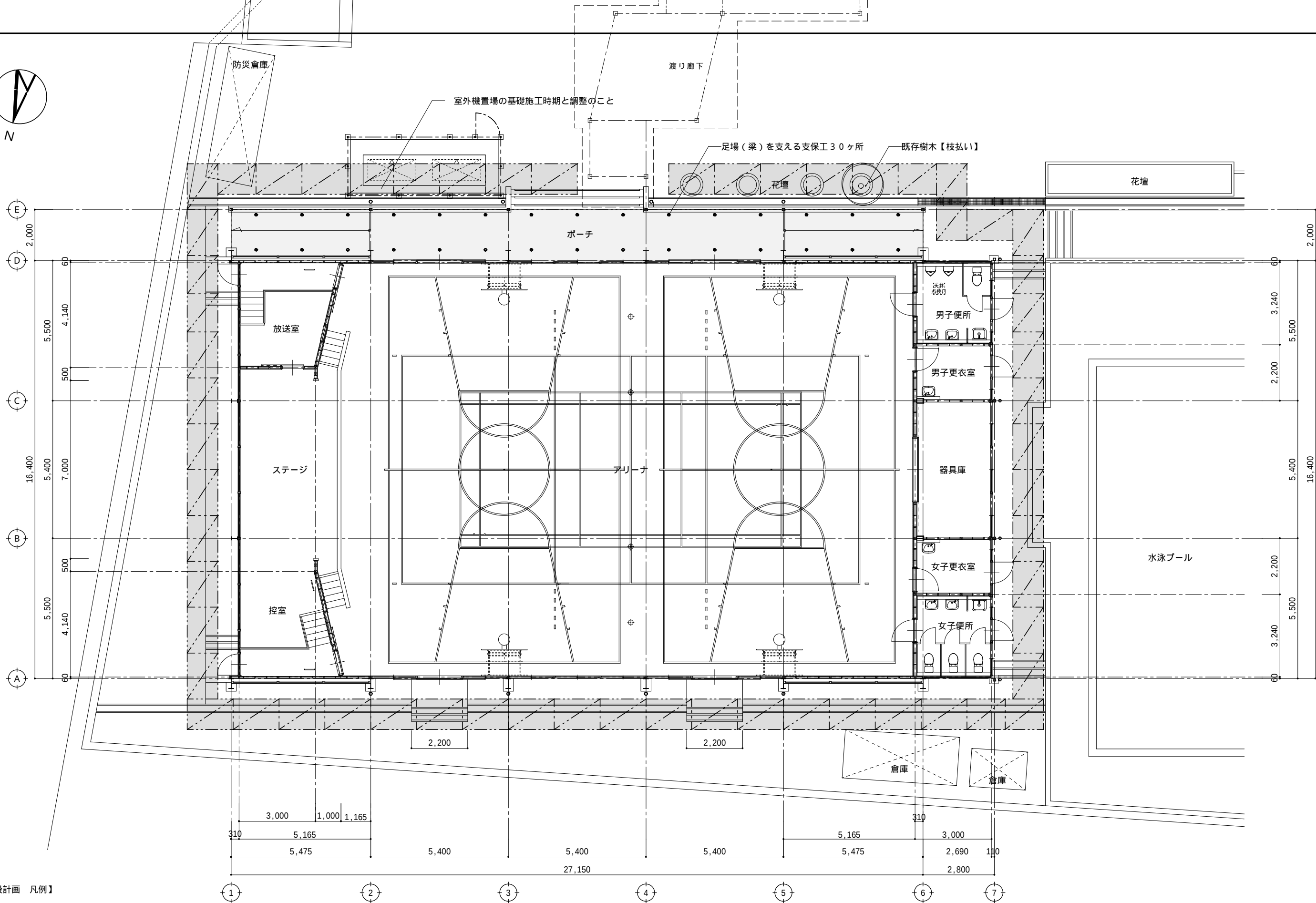
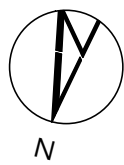
矩計図（外部：東側） 1/30

外部仕上 凡例	
屋根 下屋根根 (棟包、水切共) (鼻隠し共) (破風共)	既存：木毛セメント板t20、アスファルト・フィッシュ 22kg敷込の上、 長尺片面加鉄板t0.4瓦棒葺 [鼻隠し、破風]加鉄板t0.4 改修：洗浄・水洗い(10～15Mpa)、下地調整R8種、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (棟包、水切、鼻隠し、破風共)
ボーチ屋根	既存：片面加鉄板t0.5ルーフ 葺 [裏面] OP塗 改修：洗浄・水洗い(10～15Mpa)、下地調整R8種、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)(水切共) ボーチ取付 [裏面] 既存のまま
屋根軒裏	既存：シルバーアルミ鋼板t1.2 改修：洗浄・水洗い(10～15Mpa)、下地調整R8種、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)
下屋軒裏 ギャラリー下軒裏	既存：LGS下地、石綿ケイ酸板t5、VP塗装 改修：下地調整の上、EP塗装
外壁 (バルコニー部共)	既存：[上部]キャスト鋼板t0.6 ボーリスル粉体焼付塗装 [下部]シルバーアルミ鋼板t1.2 改修：洗浄・水洗い(10～15Mpa)、下地調整R8種、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回) (バルコニー・バルコニー・水切共)
巾木	既存：モルタル刷毛引き 改修：洗浄・水洗い(10～15Mpa)、下地補修(クラック、 浮き処理)、下地調整(C-2)の上、 超低汚染水性アクリルシリコン樹脂塗料塗
鉄骨柱 鉄骨ブレース	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイマリン・イント塗 桁行側柱(12本)：H-396*199*7*11 妻側柱(2本)：H-250*125*6*9 改修：下地調整R8種の上、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)
鉄骨柱 鉄骨ブレース ボーチ手摺	既存：下地処理、錆止め塗装の上、タイマリン・イント塗 下屋柱・ボーチ柱(10本)：□-100*100*3.2 ボーチ屋根水平ブレース：丸鋼φ13 塗装 ボーチ梁B6：□-150*100*4.5 ボーチ梁B7：[-125*65*6 ボーチ梁B8：□-100*100*3.2 ボーチ手摺：φ48.6 OP塗 支柱・横棧：φ34.0@900 OP塗 手摺子：φ16 @300 OP塗 改修：下地調整R8種、錆止め塗装の上、DP塗装(1級)
軒樋・竖樋	既存：【本体】[軒樋]塩ビ角樋150 [竖樋]VU100φ [養生管]鋼管OP塗 H1800 【下屋】[軒樋]塩ビ角樋120 [竖樋]VU75φ [養生管]鋼管OP塗 H1800 【ボーチ】[軒樋]折板用角樋W120 [竖樋]VU100φ [養生管]鋼管OP塗 H1800 改修：【共通】[軒樋]既存のまま [竖樋]研磨紙ざり、プライマー塗の上、 フッ樹脂塗装 [養生管・掴み金物]下地調整R8種の上、 DP塗装(1級)
鋼製建具	既存：スチール 焼付塗装 改修：洗浄・下地調整の上、 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗 (下塗り：プライマー1回、上塗り：2回)(内外共)
特 記	鉄骨柱脚 外塗塗根巻部分(12カ所)：既存外塗塗撤去、 鉄骨柱の錆落とし、防錆処理の上、外塗塗 塗装は、つやなし仕上げを選定のこと ボーチ柱塗装：FL+1000にて塗分け



符 合 ・ 数 量		PGD-11		4ヶ所		PGD-13		4ヶ所		PGD-特11		2ヶ所				AD-1		4ヶ所			
形 式 ・ 使用箇所		片開き戸		1階ステージ裏出入口 男子更衣室、女子更衣室		引分け戸		1階アリーナ出入口		片開き戸		男子便所、女子便所				片開き戸		男子便所、女子便所 男子更衣室、女子更衣室			
姿 図			PGD 11 <塗装改修> 外壁H 裨 600 900 885 871.5 371.5 90 2,011 3,060 50		PGD 13 <塗装改修> 外壁H 裨 720 720 900 1,785 871.5 371.5 90 2,011 3,060 50		PGD 特11 <サッシ・ガラス(外面)クリーニング> 外壁H 裨 885 900 871.5 371.5 90 2,011 2,590 50						AD 1 <既存扉撤去・新設> 既存木製枠にアルミ製フラッシュ建具新設（枠共） アリーナ 男子便所 アリーナ 男子更衣室 アリーナ 女子更衣室 アリーナ 女子便所								
	寸法・見付・見込		9 0		9 0		7 0						3 0								
	材 質 ・ 仕 上		既存:スチール 焼き付け仕上 改修:下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗（下塗り:プライマー1回、上塗り:2回）		既存:スチール 焼き付け仕上 改修:下地調整の上、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗（内外共） （下塗り:プライマー1回、上塗り:2回）		既存:アルミ製 シルバー						既存:桤合板 OP【木製扉撤去】既存木製枠再利用 改修:アルミ製 シルバー（フラッシュドア）								
	ガ ラ ス		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま		既存:透明強化ガラス 5mm 既存のまま		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま						-								
	金 物		既存のまま		既存のまま		既存のまま						丁番、ノドⅡ、シリング・錠ノサムターン、アーレストバー アルミサリ(山型)、他標準取付金物								
備 考		【1階ステージ裏出入口】（内外共） 【男子更衣室、女子更衣室】（外側のみ）										新設枠取付用調整材(木製10×55)四方取付									
符 合 ・ 数 量		PGW-11		14ヶ所		PGW-16		3ヶ所		PGW-特16		2ヶ所		PGW-特18		4ヶ所		PGKW-11		18ヶ所	
形 式 ・ 使用箇所		引き違い窓		1階アリーナ		引き違い窓		器具庫		引き違い窓		男子便所、女子便所		引き違い窓		男子便所、女子便所 男子更衣室、女子更衣室		引き違い窓		2階ギャラリー	
姿 図			PGW 11 <サッシ・ガラス(内外)クリーニング> 外壁H 裨 1,785 871.5 371.5 90 1,050 2,590 50		PGW 16 <サッシ・ガラス(外面)クリーニング> 外壁H 裨 1,785 871.5 371.5 90 1,050 2,590 50		PGW 特16 <サッシ・ガラス(外面)クリーニング> 外壁H 裨 1,330 871.5 371.5 90 1,050 2,590 50		PGW 特18 <サッシ・ガラス(外面)クリーニング> 外壁H 裨 885 871.5 371.5 90 1,050 2,590 50		PGKW 11 <サッシ・ガラス(内外)クリーニング> 外壁H 裨 1,785 418.5 511.5 90 1,310 3,060 50										
	寸法・見付・見込		9 0		9 0		9 0		9 0		9 0		9 0								
	材 質 ・ 仕 上		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま		既存:アルミ製 シルバー 既存のまま								
	ガ ラ ス		既存:透明強化ガラス 5mm 既存のまま		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま		既存:型板強化ガラス 4mm 既存のまま		既存:【上部】型板強化ガラス 4mm 【下部】透明強化ガラス 5mm 既存のまま								
	金 物		既存のまま		既存のまま		既存のまま		既存のまま		既存のまま		既存のまま								
備 考																					
符 合 ・ 数 量		WD-1		1ヶ所		WD-3		2ヶ所		WD-4		1ヶ所		WD-5		2ヶ所		WW-1		1ヶ所	
形 式 ・ 使用箇所		両引分け戸		器具庫		片開き戸		2階ギャラリー		片引き戸		放送室		片引き戸		1階ステージ出入口		FIX窓		放送室	
姿 図			WD 1 <既存のまま> 2,400 2,000		WD 3 <既存のまま> 750 2,000		WD 4 <既存のまま> 800 2,000		WD 5 <既存のまま> 900 2,000 枠回りFB-15X3 格子9@100		WW 1 <既存のまま> 600 1,200										
	寸法・見付・見込		3 6		3 6		3 6		3 6		3 6		3 6								
	材 質 ・ 仕 上		既存:桤合板 OP 既存のまま		既存:両面ミニ化複合板張り 既存のまま		既存:両面ミニ化複合板張り 既存のまま		既存:両面ミニ化複合板張り 既存のまま		既存:両面ミニ化複合板張り 既存のまま		-								
	ガ ラ ス		- -		- -		- -		-		既存:透明強化ガラス 5mm 既存のまま		既存:透明強化ガラス 5mm 既存のまま								
	金 物		既存のまま		既存のまま		既存のまま		既存のまま		既存のまま		-								
備 考										既存:面格子		既存:面格子									
外壁H 裨及びH 裨枠【シルバー・アイ鋼板】：ケレン・清掃・水洗い(10～15Mpa)、下地調整R8種、低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料塗(下塗り:プライマー1回、上塗り:2回) 面格子：【縦枠】FB3×25@495 【横枠】13φ @115						株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号		板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号				構造設計 一級建築士登録 大臣()		構造設計 一級建築士登録 交付番号()		名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事		No. A - 2 9			
										構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣()		構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号()		図名 建具リスト		縮尺 A2: 1/50 A3: -					

天井固定ブラケット + 防球ガード					1/15	バスケットゴール詳細図					1/30
防球ガード仕様 材質：SS400 t = 2.3mm φ6丸棒(一部φ12丸棒) 重量：本体約14.1kg ベース枠約5.4kg 合計約20.6kg(金具含む) 蝶番：B-1004-1-R×3(抜き差し式) B-1004-1-L×1(抜き差し式) キャッチクリップ：C-1007-12×4(ロック付き) 仕上：2.5Y9/1半艶粉体焼付塗装 室内機参考サイズ：1590×690×235(幅×奥行×高さ)(mm) 吊り下げアンカーボルトは、 1/4又はM6ボルト以上のボルト 4本で固定。 注意事項 ・抜き差し蝶番は3個がRタイプ、 1個(右から2番目)が、Lタイプを使用。 そのLタイプの下側のネジ3本を外し、 ガード全体を右側へずらすと、 枠金具とガード部は分離できる。 通常時は外すことの無いように。       天井固定ブラケット仕様 材質：SS400 □-50×50×3.2 t = 9.0mm L-50×50×4 重量：約40.4kg 仕上：2.5Y9/1半艶粉体焼付塗装 アップープレート仕様 材質：SS400 t = 1.2mm 重量：約10.9kg 仕上：2.5Y9/1半艶粉体焼付塗装											
浸透桝設置（土間コンクリートはつり・復旧）		1/30	土間コンクリート		1/10	掘削跡砕石敷き		1/10			
											
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号			板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()		構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 0	
						構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()		構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 部分詳細図 (1)	縮尺 A2: 図示 A3: -	

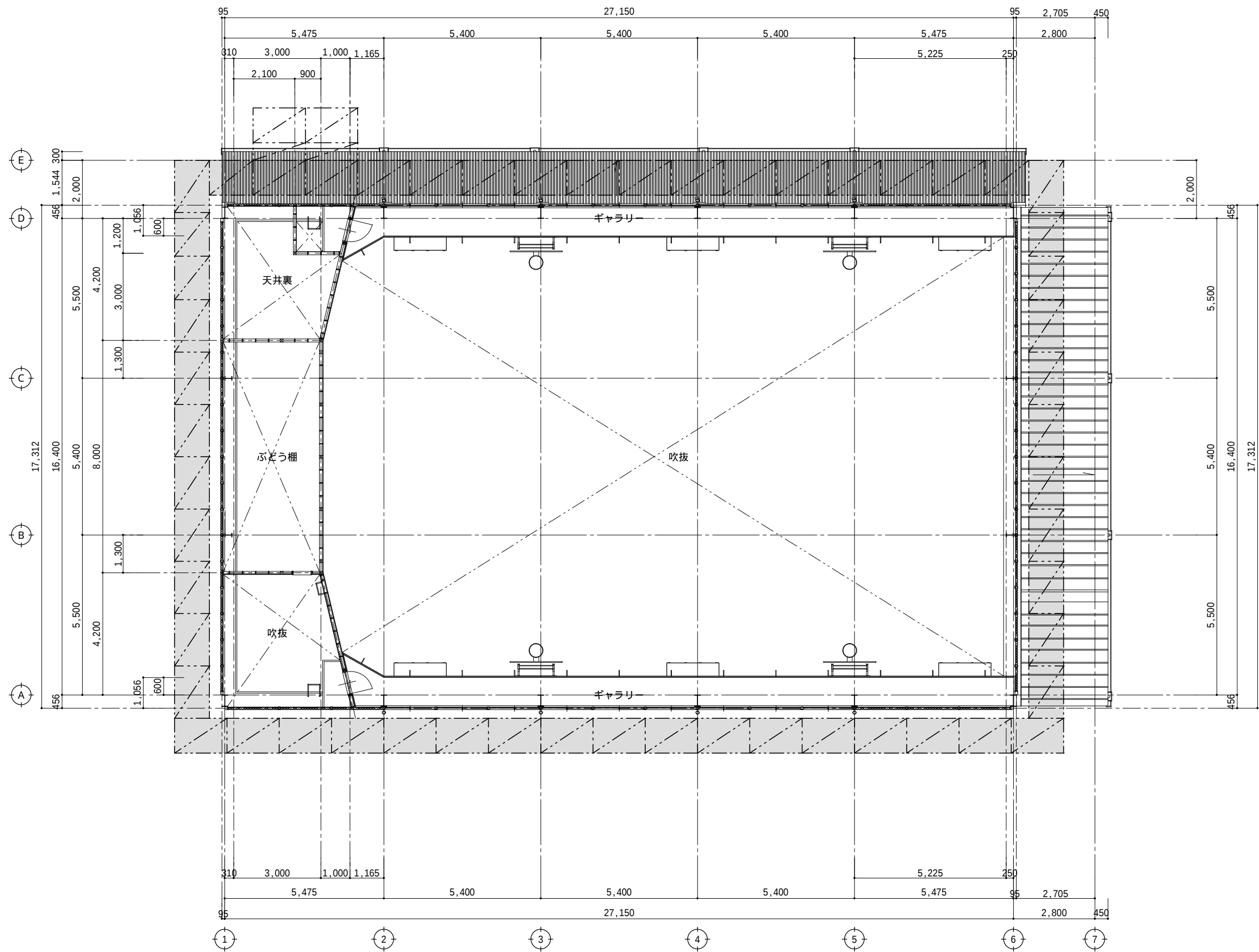
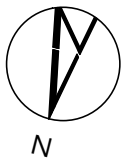


【仮設計画 凡例】

- 枠組足場W1200 外部足場 養生シート張り共(防災 類) を示す
(昇降階段の最下部には開閉式のフェンスバリケード等を設置し、
施錠可能な仕様とすること)
転落防止措置(手すり設置)
脚立足場
足場(梁)を支える支保工

仮設計画 1階平面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 2
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 (参考図) 仮設計画 1階平面図(外部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -

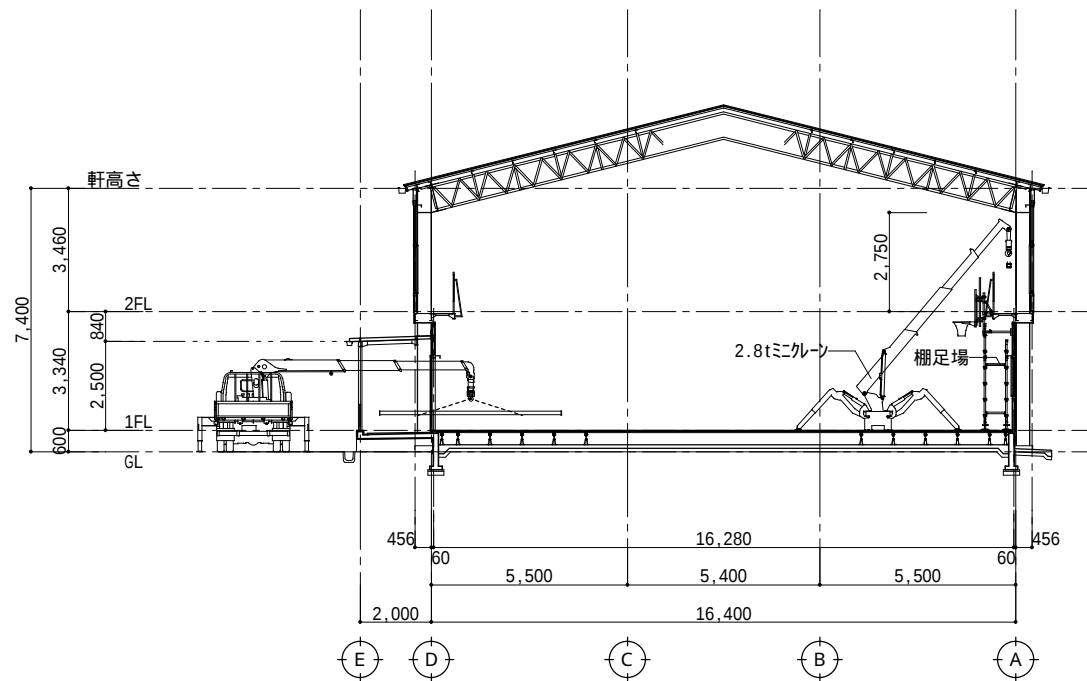
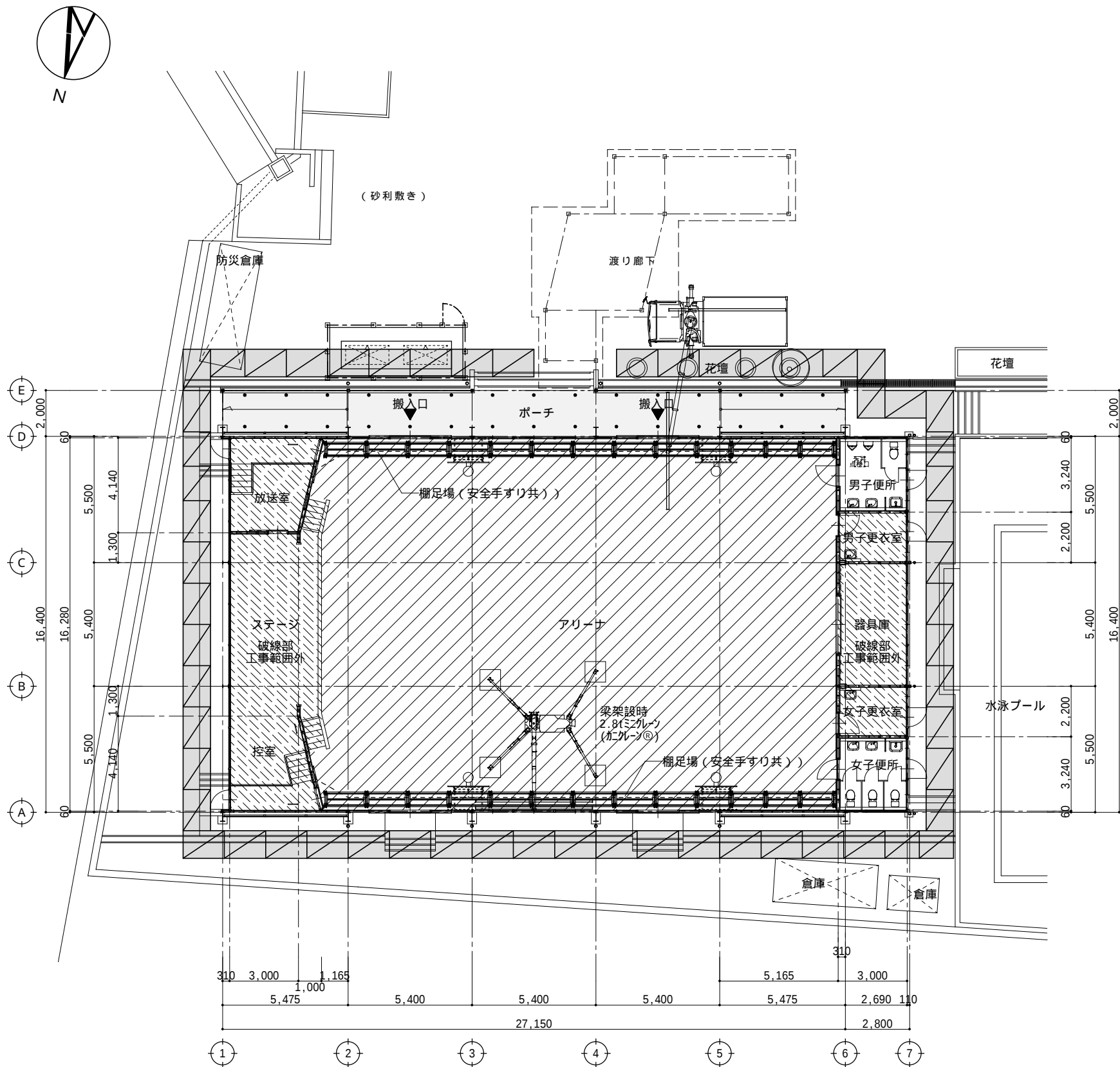


【仮設計画 凡例】

枠組足場W1200 外部足場 養生シート張り共(防災 類) を示す
(昇降階段の最下部には開閉式のフェンスバリケード等を設置し、
施錠可能な仕様とすること)
転落防止措置(手すり設置)

仮設計画 2階平面図 1/100

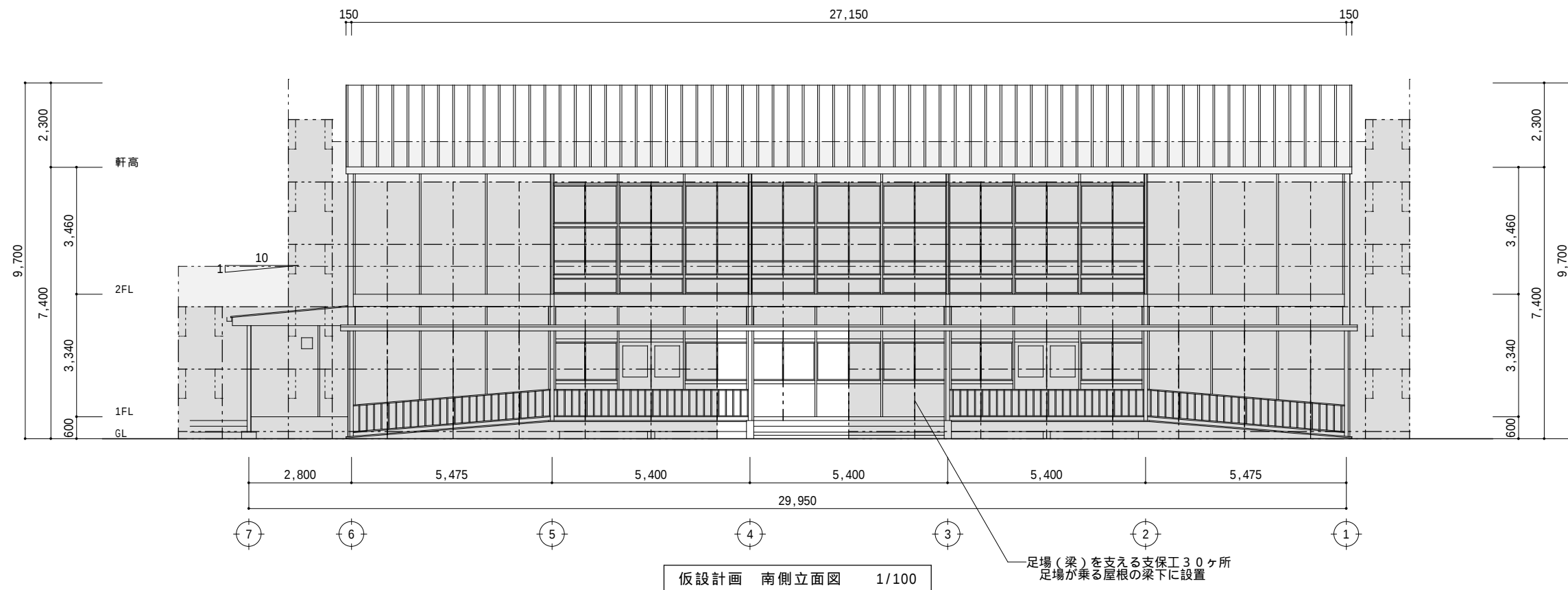
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 3
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 (参考図) 仮設計画 2階平面図 (外部)	縮尺 A2: 1/100 A3: -	



【仮設計画 凡例】

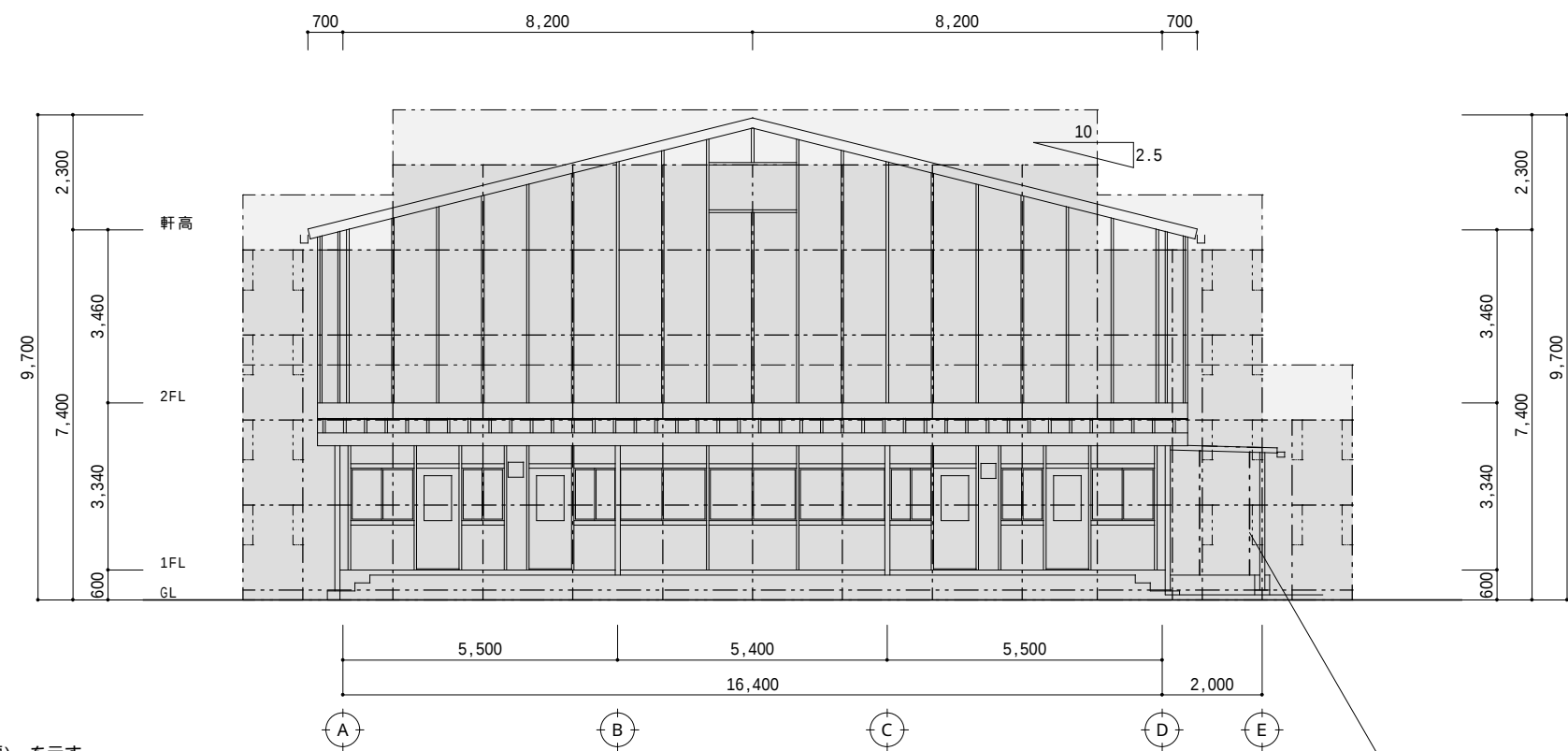
- 枠組足場W1200 外部足場 養生シート張り共(防災 類) を示す
- 脚立足場
- 上部足場荷重受用支保工
- アリ-ナ床養生 構造用合板 t12敷の上養生シート張
揚重機アリ-ナ部、溶接作業範囲等は合板等により適宜追加養生のこと

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号		構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 4
			構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 (参考図) 仮設計画 1 階平面図 (内部)	縮尺 A2: 1/150 A3: -



仮設計画 南側立面図 1/100

足場（梁）を支える支保工 30ヶ所
足場が乗る屋根の梁下に設置



仮設計画 西側立面図 1/100

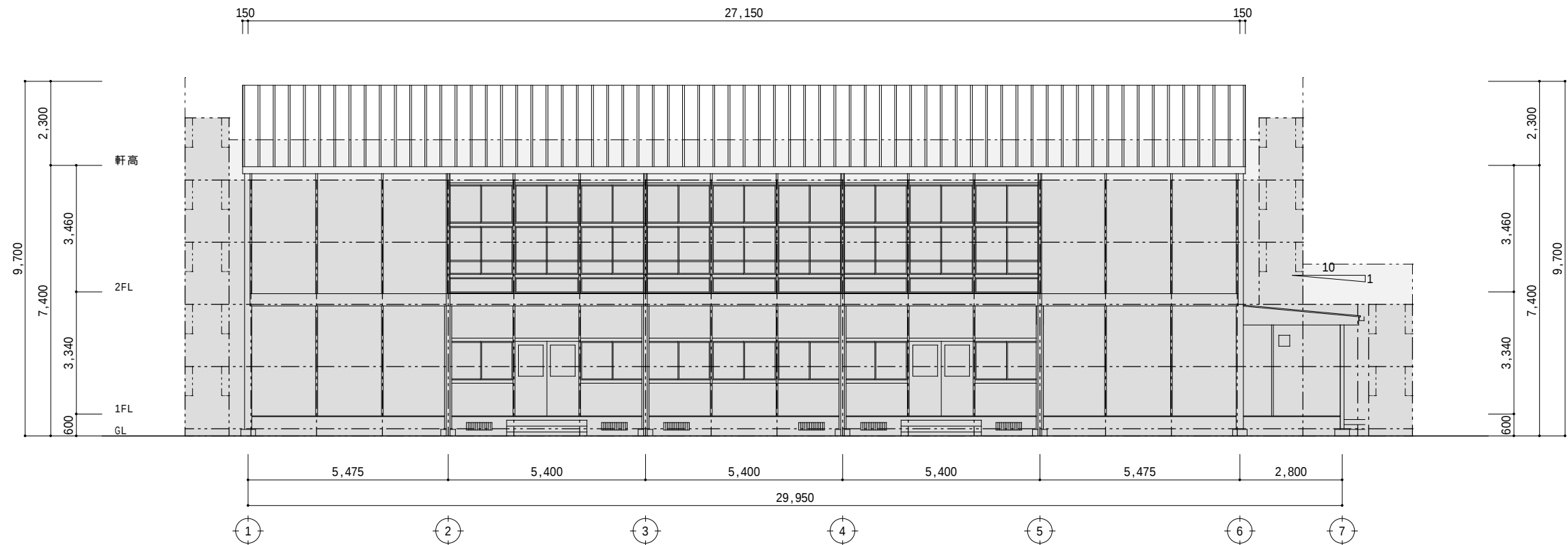
足場（梁）を支える支保工 30ヶ所
足場が乗る屋根の梁下に設置

【仮設計画 凡例】

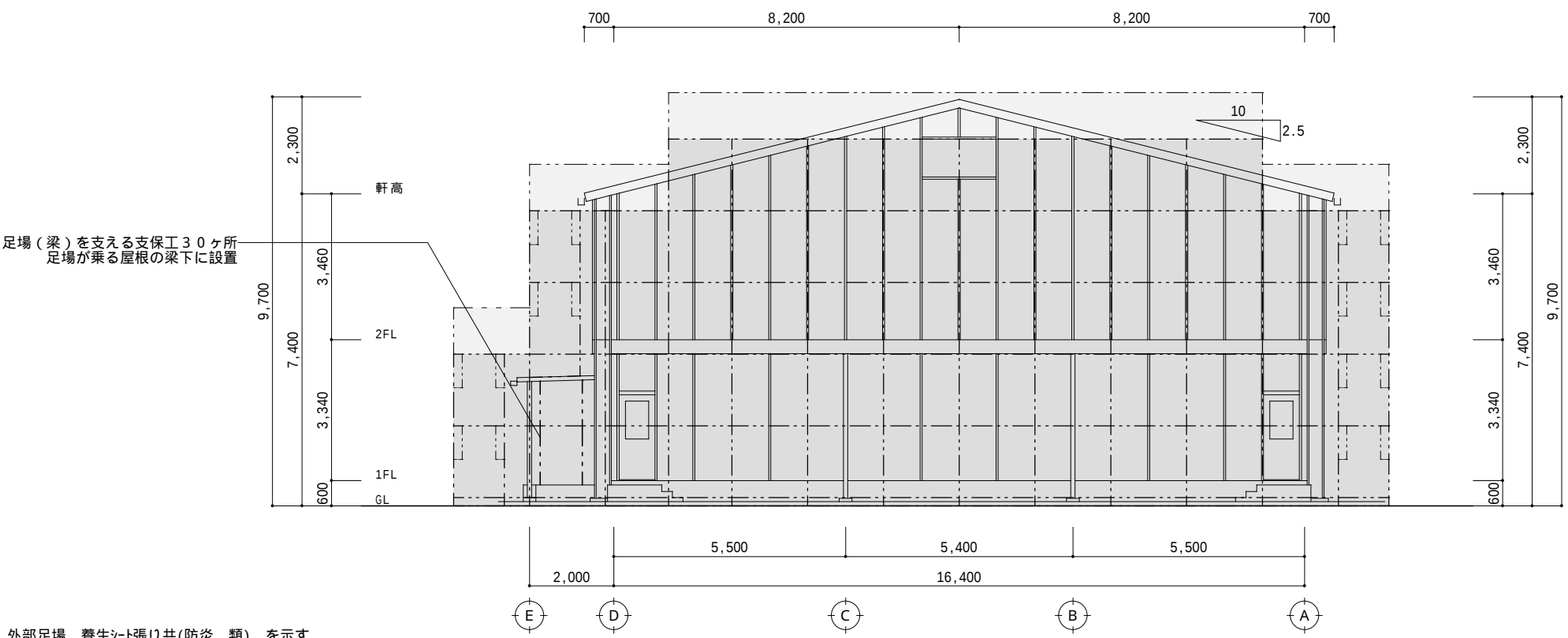
- 枠組足場W1200 外部足場 養生シート張り共(防災 類) を示す
(昇降階段の最下部には開閉式のフェンスバリケード等を設置し、
施錠可能な仕様とすること)
転落防止措置(手すり設置)

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称	笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 5
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名		

(参考図) 仮設計画立面図 (1)



仮設計画 北側立面図 1/100



仮設計画 東側立面図 1/100

【仮設計画 凡例】

- 枠組足場W1200 外部足場 養生シート張り共(防災 類) を示す
(昇降階段の最下部には開閉式のフェンスバリケード等を設置し、
施錠可能な仕様とすること)
転落防止措置(手すり設置)

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置ほか改修工事	No. A - 3 6
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()		
				図名 (参考図) 仮設計画立面図 (2)				

【工事概要】
1 工事場所：宇治市炭山直谷 3 1
2 建物概要

工事科目	建物名称	体育館棟			
電灯設備		●	○	○	○
動力設備		○	○	○	○
雷保護設備		○	○	○	○
受変電設備		○	○	○	○
電力貯蔵設備		○	○	○	○
発電設備		○	○	○	○
構内情報通信網設備		○	○	○	○
構内交換設備		○	○	○	○
情報表示設備		○	○	○	○
映像・音響設備		○	○	○	○
拡声設備		○	○	○	○
誘導支援設備		○	○	○	○
テレビ共同受信設備		○	○	○	○
監視カメラ設備		○	○	○	○
駐車場管制設備		○	○	○	○
防犯・入退室管理設備		○	○	○	○
火災報知設備		○	○	○	○
中央監視制御設備		○	○	○	○
医療関係設備		○	○	○	○
構内配電線路		○	○	○	○
構内通信線路		○	○	○	○
電波障害調査				○	○
撤去工事		●	○		

一般事項

特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁標準図の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）、 「公共建築設備工事標準図（電気設備工）令和４年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築物修繕工事標準仕様書（電気設備工）令和４年版」による。

２．工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は該図面及び標準仕様書による。

特記事項

項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、○印を適用する。

	項 目	特 記 事 項
一	設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員に承諾を受ける。
	機材の品質・性能証明	使用する機材が、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿(最新版)」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	電気工事士	契約電力500kW以上の場合も、第1種電気工事士による施工を行う。
	工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時までに受注者の負担とする。
般	官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	工事用仮設物	構内につくることが できる できない
	足場・作業橋台	別契約の関係者・受注者が設置したものは、無償で使用できる。
	監督職員事務所	設置しない 設置する (○本工事 ○別途)
	監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) ・公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) ・電気設備工事標準指針 ・電気設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)
	建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 】 ○再生資源利用を図るもの【 】 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○SF6ガス使用機器 ○建設発生土処分 右記のほか、 現場説明書による。 ○構外指定地に搬出処理 (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ ○構内指示場所に敷き均し
	再生資源利用(促進)計画・実施書の提出	詳細は現場説明書による。
	1)「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2)関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。	
	○アスベスト成形板の処理等(以下のほか、現場説明書による)	
	施工調査	アスベスト成形板の搬去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認
項	確認範囲	成形板の製造年等の確認 ○X線解析法
	処理方法	非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項 目		特 記 事 項	
	工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類集第5 一覧表により提出。 宇治市ホームページ参照/www.city.uji.kyoto.jp		
一	履行報告	月報 2部 ○3部 毎月末に、翌月の5日までに提出する。		
	工事写真	1) 国土交通省大臣官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領(最新版)」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) 小黒板情報電子化については、現場説明書による。		
般	完成図書	名 称	内 容	大きさ
		○完成図	金文字製本	A4版
事	項	○完成図	○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め	1部
		○施工図	○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め	2部
		○機器完成図等	機器製作図 ファイル止め 保守指導案内書(機器取説書を含む) 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書	A4版 2部
		○諸官庁提出書類	副 本	1式
		○原因	完成図	1部
		○完成写真	アルバム綴り	2部
	著作権等	電子納品については、現場説明書による。 当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。		
		付属品及び予備品		
	●耐震施工	標準仕様書によるほか、別表による。 1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」により計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2) 下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。		
		設 置 場 所	●特定の施設 ○一般の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器	
		上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) 1.5 (2.0) 1.5 (2.0) 1.0 (1.5)	
		中 間 階	1.5 (1.5) 1.0 (1.5) 1.0 (1.5) 0.6 (1.0)	
		1 階 及 び 地 下 階	1.0 (1.0) 0.6 (1.0) 0.6 (1.0) 0.4 (0.6)	
		設 置 場 所	●特定の施設 ○一般の施設 水 槽 水 槽	
		上層階、屋上及び塔屋	2.0 1.5	
		中 間 階	1.5 1.0	
		1 階 及 び 地 下 階	1.5 1.0	
		注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般の施設を適用する。 注2 屋上に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注3 ()内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。 注4 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注5 上層階の定義は、6階建以下の場合是最上階、7～9階建の場合は上階2階。 注6 重要機器(水槽類含む)は、下記による。(水槽類にはオイルタンク等を含む。) ●配電盤 ○直流電源装置 ○自家発電装置 ○交換機 ○電算用電源 ○中央監視装置 ○UPS装置 ○自動火災報知装置 注7 操作卓は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、卓上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。		
	通	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地面相度区分 V ₀ (○3.0 ○3.2 ○3.4) 地面相度区分(○ ○ ○ ○)	
		○風圧力(耐風力)	建築基準法施行令第87条に定めるところによる風圧力(耐風力)検討(計算)書を監督職員に提出する。なお、検討(計算)範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受留部システム及び引下導線システム ○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置 ○テレビ共同受信アンテナ及びアンテナmast	
	事	●電線類	1) 特記なきものは、EM・IEとする。 2) EM電線、EMケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。	
		EM・アクセスフロア	JCS4502(600Vアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンスケーブル)による600Vアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンスケーブル(EM・IE)及び600Vアクセスフロア用架構ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンスケーブル(EM・CE)を示す。	
		EM・MEES	JCS4271に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの	
		●電線管	3) 長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線(樹脂被覆鉄線等)を挿入する。 電 線 管 ○PF管 ただし、露出部分はメタルモールとする。 分電盤等の2次側で第1ボックスまたは(鋼製電線管 ○PF管)とする。 ●ぬじり電線管 1) 雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2) スラブ厚の1/4を超える外径の配管及び(PF22)又は(E25)相当を超えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管 最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。	
	項	●電線本数、管路等	下記の露出配管は塗装(指定色塗装)を行う。 ●屋外(○屋上を除く) ●屋内居室 ○屋内P・S・EPS ○屋内機械室・電気室 ○廊下 分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。	
		●ボックス	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。	
		○予備配管	分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内で立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に(51)を1本以上立上げる。	
		●フラッシュプレート	和 室 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製) その他 ○樹脂製 ○金属製(○新金属製 ○ステンレス製)	
		○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。(図面特記のあるものを除く。) 二重床 インナー形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 二重床以外 飛び出し形 ○引出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 (フロアベースは水平高低調整式(空転防止リング付) 砲金製 ○アルミ製とする。)	
		●機器	寸 法 盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接 続 電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等 (○溶融亜鉛メッキ ●SUS) その他 (○一般品 ●SUS ○)	

章	項 目	特 記 事 項																																			
共通事項	○あと施工アンカー	施工後確認試験 ○行う ○行わない 試験方法 引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官庁官庁管轄部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年度版）「8.12.7 施工確認試験」による。 確認強度 監督職員との協議による。																																			
	●機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、E M電線及びE Mケーブルを使用する。 ただし、高圧主回路配線はこの限りでない。 ●分電盤 ○OA盤 ○実験盤 ○開閉器箱 ○制御盤 ○キュービクル式配電盤 ○直流電源装置 ○交流無停電電源装置（UPS）（簡易型を除く）																																			
	●はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。																																			
	●再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。																																			
	●その他	屋外の盤類・開閉器箱 ●SUS ○銅板製 屋内外のプルボックス ●SUS ○銅板製																																			
電	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付																																			
	●電気方式	幹線 ○単相3線式 100V/200V ○直流2線式 100V 分岐 ○単相2線式 ●100V ●200V ○直流2線式 100V																																			
灯	○照明制御による効果の評価	一般社団法人日本照明器具工業会技術資料130「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。																																			
	○照明制御装置	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を附属させる。																																			
灯	○多重伝送制御システム	多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を附属させる。																																			
	○LED制御装置の種類	図面特記があるものを除き、LED照明器具の制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあてはるLX又はLZ、それ以外はLN又はLSとする。																																			
設	○RP又はMP形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、SUSを含む複数の材料が適用されている場合は、SUSを適用する。																																			
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形 ○電池別置形																																			
備	○フロアコンセント	○引出し形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 ○OAFloor用																																			
	●分電盤等	1）本工事の分電盤、OA盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、JISC8201-2-2-1「回路遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、JISC8201-2-2-2「漏電遮断器」、同付属書JC「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」、による1極サイズのものとする。 2）SPD分離器（配線用遮断機）は（○警報接点付 ○警報接点無）とする。 3）SPD分離器は、監督職員の承諾を受けて、SPD内蔵とすることができる。 OA盤の端子盤部に ○通気口 ○冷却ファン を設ける																																			
備	○照明用ポール	○開閉器を設ける(○配線用遮断器・カットアウトスイッチ) ○開閉器を設けない																																			
	○一般照明の照度測定	実施 ○する ○しない																																			
動力	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付																																			
	○電気方式	幹線 ○三相3線式 200V ○ 分岐 ○三相3線式 200V																																			
動力	○制御盤	1）制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 2）インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開庫時に冷却装置を休止させる。 3）インバータ発熱対策用冷却装置の故障を 盤面に表示（○させる ○させない）																																			
	○監視方法	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視																																			
設備	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、運動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、制御盤で空調機を停止させる。																																			
	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。 <table><tr><td>電動機出力（kW）</td><td>0.4</td><td>0.75</td><td>1.5</td><td>2.2</td><td>3.7</td><td>5.5</td><td>7.5</td><td>11</td></tr><tr><td>インバ-効率（％）</td><td>86.0</td><td>88.5</td><td>92.0</td><td>93.0</td><td>94.0</td><td>94.0</td><td>94.5</td><td>94.5</td></tr><tr><td>電動機出力（kW）</td><td>15</td><td>18.5</td><td>22</td><td>30</td><td>37</td><td>45</td><td>55</td><td>75</td></tr><tr><td>インバ-効率（％）</td><td>95.0</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td></tr></table> 備考）1）電動機の供給電圧は100V又は200Vとする。 2）インバ-効率は、100％負荷時の値とする。	電動機出力（kW）	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	インバ-効率（％）	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	電動機出力（kW）	15	18.5	22	30	37	45	55	75	インバ-効率（％）	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5
電動機出力（kW）	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11																													
インバ-効率（％）	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5																													
電動機出力（kW）	15	18.5	22	30	37	45	55	75																													
インバ-効率（％）	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5																													
雷保護設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ●機器取付																																			
	○保護レベル	○ ○ ○																																			
雷保護設備	○受雷部システム	突針支持管 ○鋼製 ○ステンレス製																																			
	○接地システム	○A型接地地極（○板式接地地極 ○垂直接地地極 ○放射状接地地極） ○B型接地地極（○環状接地地極 ○網状接地地極） ○構造体利用接地地極（構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地地極を○設ける ○設けない）																																			
受変電	○工事範囲	○配管 ○配線 ●機器取付																																			
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式200V ○単相3線式100V/200V ○三相3線式 V ○三相4線式 V/V/V																																			
電	○配電盤形式	○屋内キュービクル式配電盤 ○屋外キュービクル式配電盤 ○開放形配電盤 ○変圧器盤 ○コンデンサ盤 ○系統連系保護制御盤 ○高圧スイッチギア（○C形 ○C形 ○C形 ○PW形 ○FW形） ○低圧スイッチギア（○C形 ○C形 ○C形 ○C形 ○FW形）																																			
	○変圧器の規格（グ）	1）変圧器（スコット結線変圧器、モーター変圧器でH級絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低下または特別高圧のものを除く。）は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2）ダイヤル温度計は、最高温度指針付とする。																																			
設備	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視制御装置による監視																																			
	○基礎	○本工事 ○別途工事 ○既設																																			
備	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する。																																			
	○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。（幅600mm以上・高さ1,800mm以上） ○盤内照明器具はLEDとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサ付とする。（盤面警報ランプ共）																																			

	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第レ39号	板橋 晶一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E - 0 1
					構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()		

電気設備工事特記仕様書ー2

章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、90Vとする。
	○交流無停電電源装置（UPS）	用途（ 方式 ○一般形 ○簡易形
発電設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間	○10時間（乙） ○72時間（甲） ○
	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション kW（PS）以上
		定格出力 ○電気式 ○空気式 始動方式 ○ラジェーター式 ○水循環模式 冷却方式 ○行う ○行わない 現地負荷試験
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ○燃料小出槽 注 ○主燃料槽 注
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 kW以上 設置可能建築面積 m52以下（長辺 m×短辺 m） 系統連系 ○受動 ○能動 パワーコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆流 有 *無 交流出力電圧 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
	○外部移報	○有 ○無
通信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○既設品取外し・再取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○親時計及び付属装置	○CR -P M ○CW -P M ○プログラムタイマ（○カード式 ○キー式 ○）
設備音響	○子時計	特記なきものは ○SWA\$3\$3-G\$PB\$2 ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
拡声設備	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○既設品取外し・再取付
誘導支援設備	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送） ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	○スピーカ	特記なきものは ○SC6H1-1V3-M ○撤去品再取付
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○既設品取外し・再取付
誘導設備	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式（○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○ ○トイレ等呼出し装置 ○1窓 ○3窓 ○5窓 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン（プルスイッチの長さは0.2m程度とする） ○壁付握りボタン（握りボタンの長さは1.2m程度とする） ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	○工事範囲	○配去 ○配線 ○機器取付
	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼鋼管 ○一般構造用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び面積は、最上階が仕上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項目	特記事項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式 ○
管制設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
管理設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○緊急通報設備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
火災報知設備	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○既設品取外し・再取付 ○受信機 ○形 級 回路 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○光警報装置 ○ ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。） ○機器収容箱 ○単独形 ○消火栓一体形 ○単独形 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○連動制御器 回路 【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○自動閉鎖装置 ○防火戸用（DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式） ○防塵ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構（電動式）DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 DC24V 0.6A以下 【別途工事 DC24V 0.6A以下】 ○非常警報装置 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源（蓄電池） ○自動火災報知設備と兼用 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス（13A） ○液化石油ガス
	○警報表示	受信機に諸警報表示窓（窓）を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿 ○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 6kV 低圧 ○三相3線式 200V ○ ○三相3線式 100/200V ○単相3線式 ○100V ○200V ○単2線式 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○ 埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装下面）から300mm以上とする。 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール
構内配線	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○ 埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装下面）から300mm以上とする。 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○架空線 電柱 ○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き（SOG形） ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはEM-高圧架構ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6600V 架構ポリエチレンケーブル（3層押出型）」に（※よる ○よらない） 高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。
	○端子、高圧ケーブル端末処理	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形 ○一般用 ○耐塩形
	○装柱材	基礎 ○本工事 ○別途工事
	○外灯	○外灯ホルの材質が鋼製（SPC）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
構内通信線路	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○ 埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装（表層）下面）から300mm以上とする。 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

章	項目	特記事項
調査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

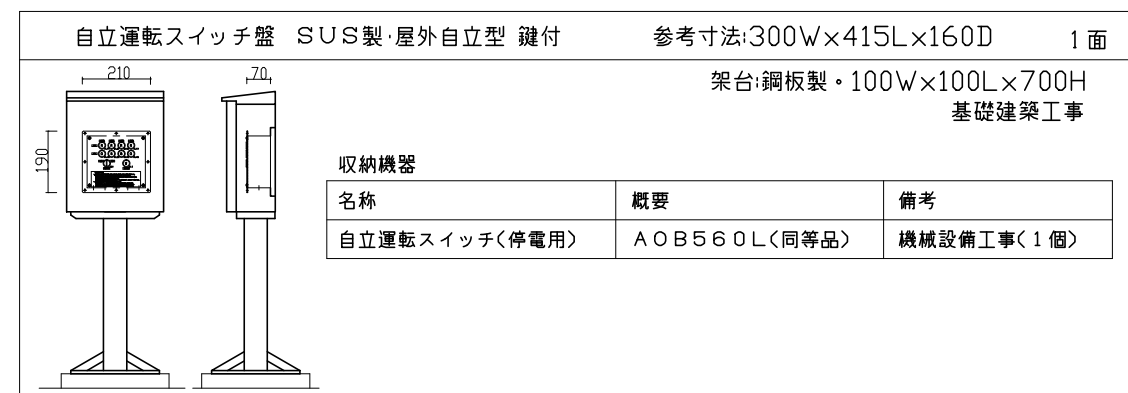
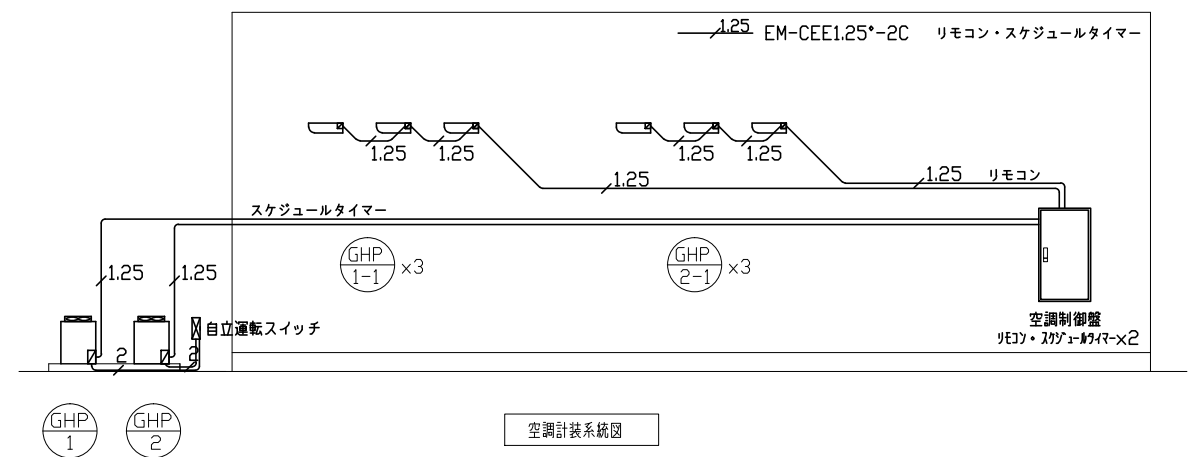
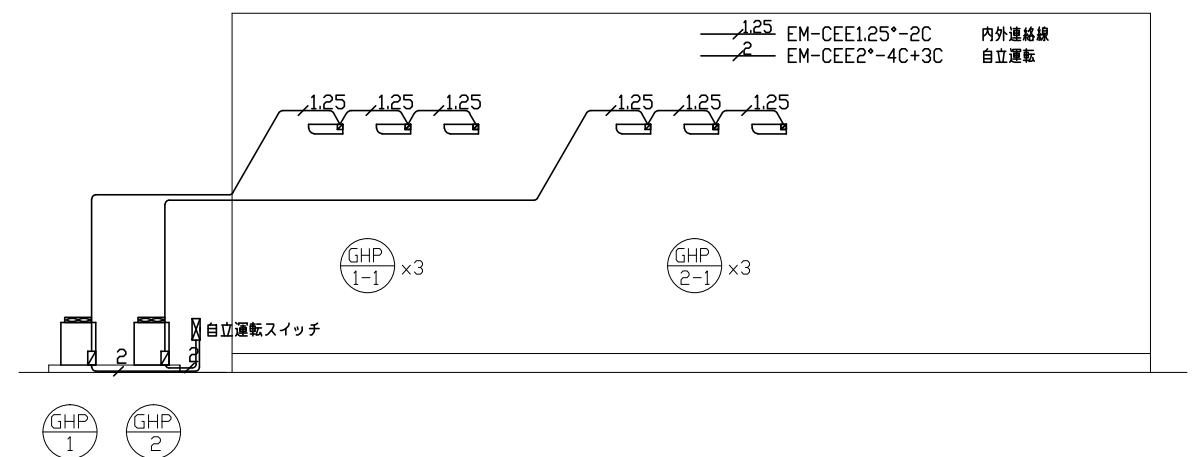
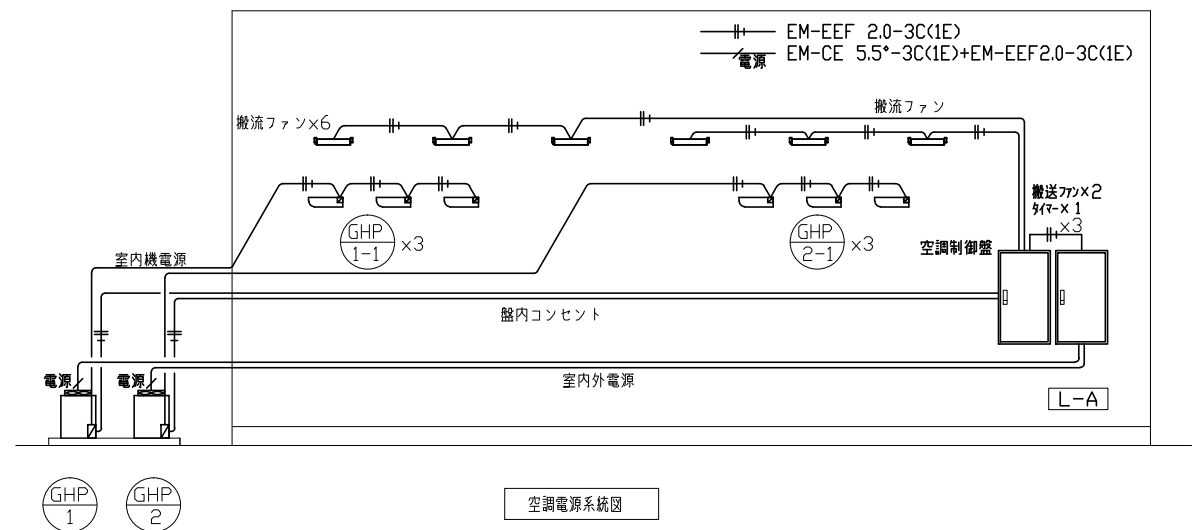
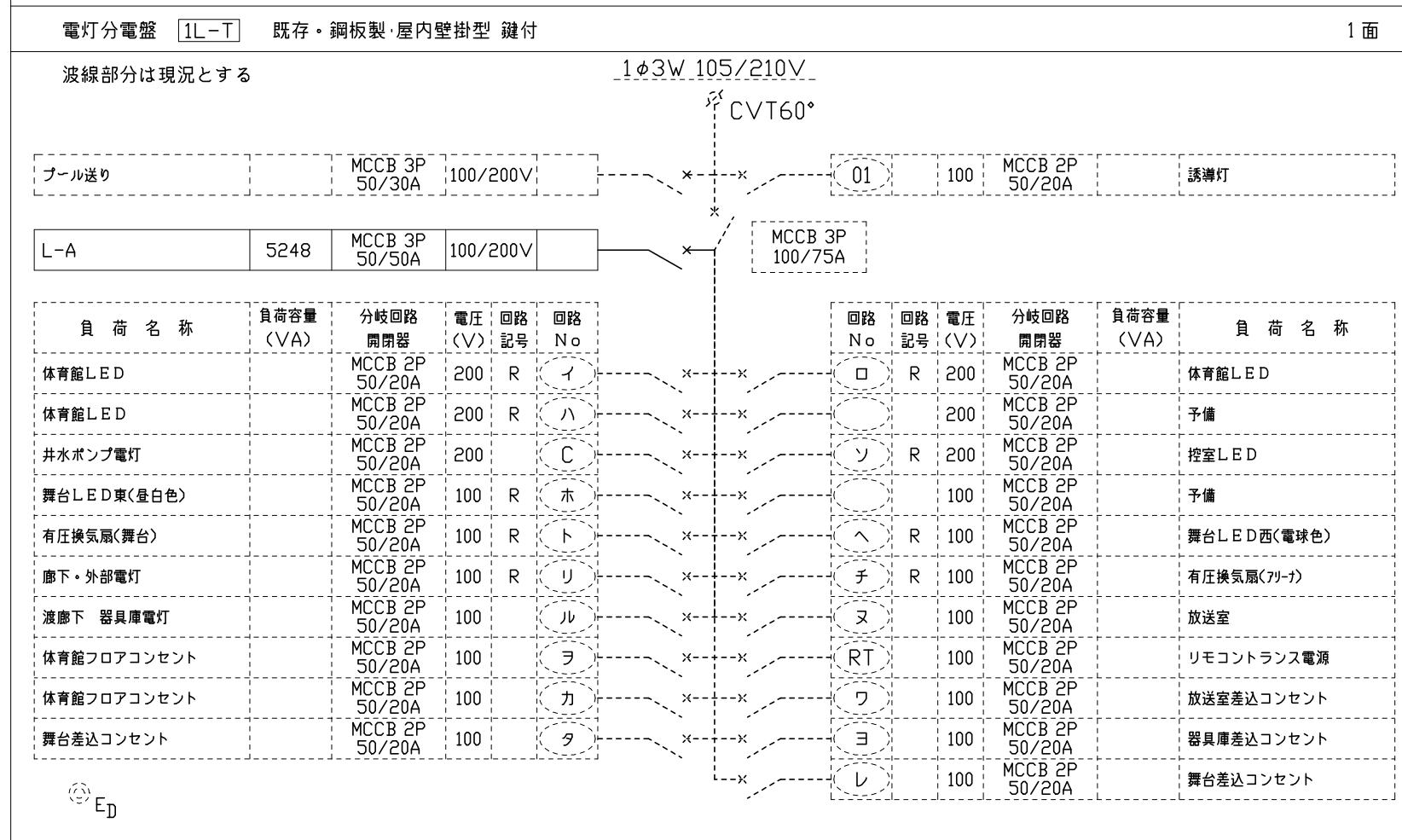
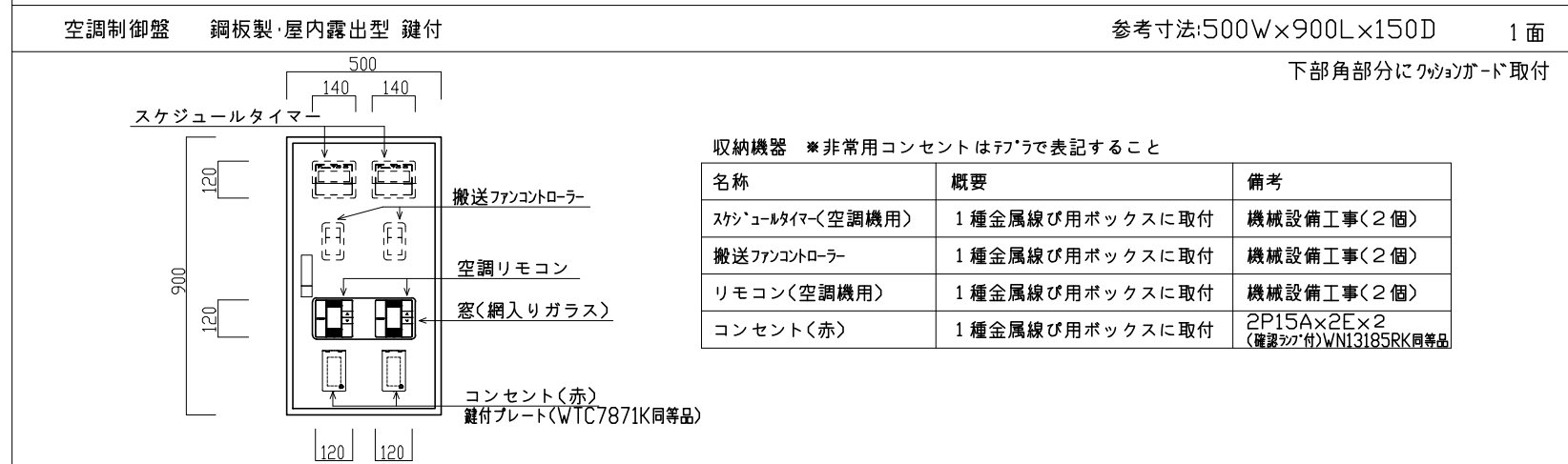
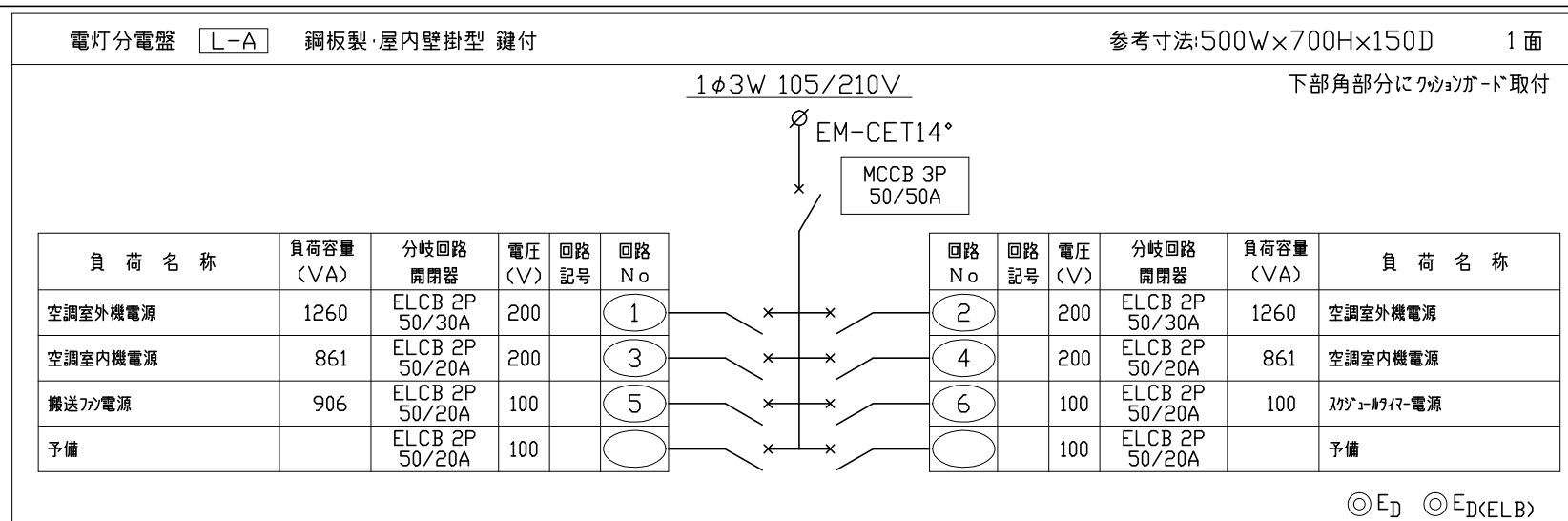
別表	付属品・予備品
○イーザーキャビネット	箱 ○キーボックス ○テスター ○マンホールフック
○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スバナー、ハンマー）	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。

試験・検査一覧
工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
○受変電機器●動力盤及び電灯盤○耐圧試験●絶縁抵抗測定○接地抵抗測定●機器機能試験●その他監督職員の指示するもの
○工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。）
●工事完成後、空調室外機の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○後施工アンカーの施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、1日の施工本数の3%以上かつ3本以上とする。
例 盤・ケーブルラック・ケーブルダクト等

その他
●試験機器類の校正記録を提出する。
●停電工事の必要な時は、当該高圧受変設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和元年度版）の資料5（P1127）に基づき施工する。
○鉄筋コンクリートをダイヤドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
●交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を2名以上配置する。
○カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ（参考寸法の高、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。）							
電力 共通	名称	測点	取付高（mm）	電 話	名称	測点	取付高（mm）
	取引用計器	地上～上端	2,000		端子盤	床上～上端	1,900
	引込開閉器	〃	1,800		保安器箱	天井下～上端	200
					壁付位置ボックス	床上～中心	300
	壁掛型制御盤	床上～上端	1,900		〃（和室）	〃	150
	手元開閉器	床上～中心	1,500				
	操作スイッチ	〃	1,300		壁掛スピーカー	天井下～上端	200
					アッテネーター	床上～中心	1,300
					壁掛型親時計	床上～上端	1,900
					子時計	天井下～上端	200
動力	分電盤	床上～上端	1,900	拡声、 時計			
	スイッチ（一般）	床上～中心	1,300		壁掛インターホン	床上～中心	1,500
	〃（身障者便所）	〃	900		〃（身障者）	〃	1,100
	コンセント（一般）	〃	300		壁付位置ボックス	〃	300
	〃（和室）	〃	150		〃（和室）	〃	150
	〃（台上）	台上～中心	300				
	〃（土間）	床上～中心	1,300		機器収納箱	天井下～上端	200
	ブラケット（一般）	〃	2,100		直列ユニット	床上～中心	300
	〃（踊場）	〃	2,500		〃（和室）	〃	150
	〃（鏡上）	鏡上端～中心	150				
電 灯				イン ター ホ ン			
テ レ ビ 共 聴				テ レ ビ 共 聴			

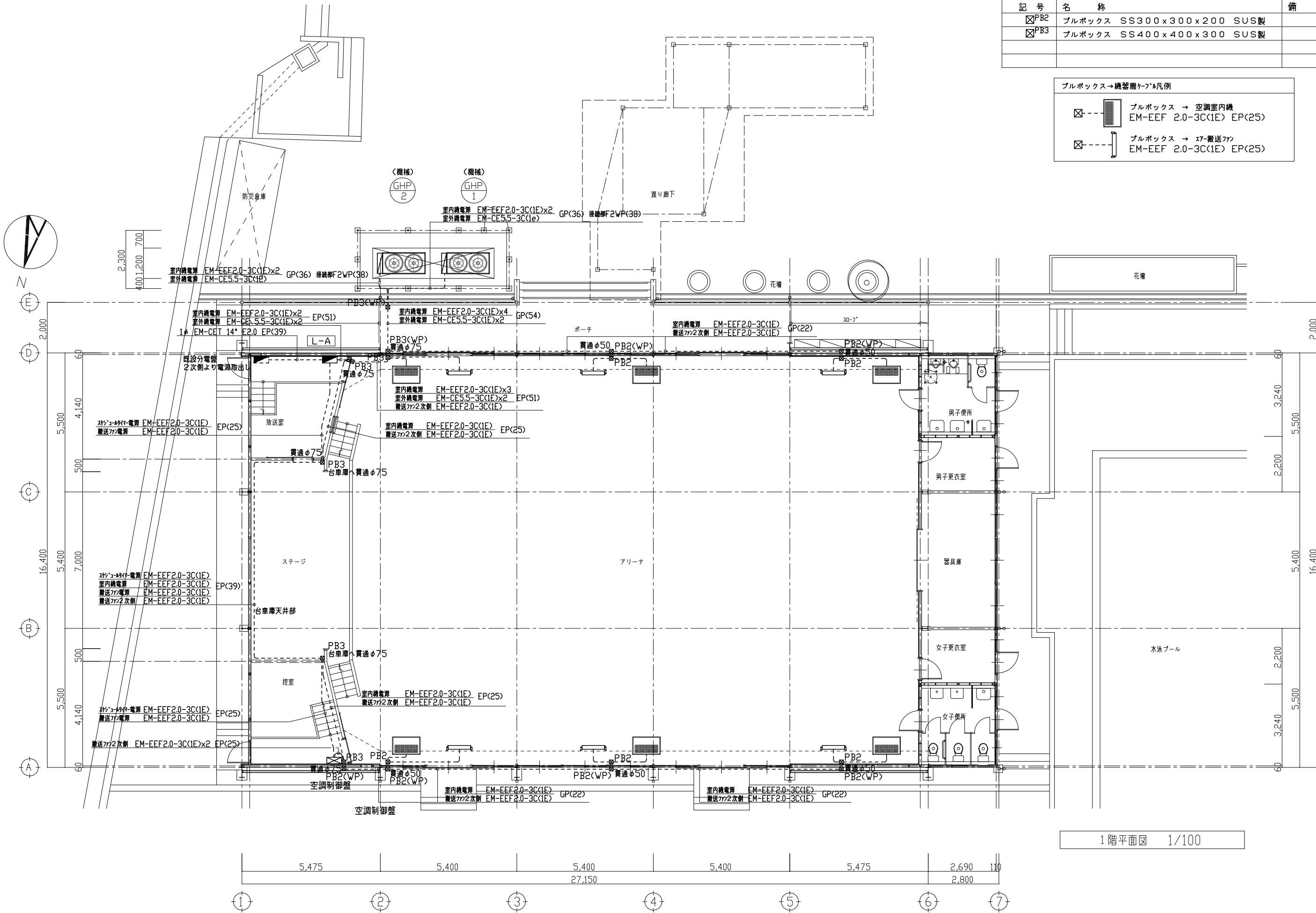
	株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	坂橋 品一 一級建築士登録 第213806号			構造設計 一級建築士登録 大臣（ ） 構造設計/設備関係規定への法適合を確認した 大臣（ ）	一級建築士登録 大臣（ ） 一級建築士登録 交付番号（ ） 一級建築士登録 大臣（ ） 一級建築士登録 交付番号（ ）	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	N ^o . E-02
					図名 電気設備工事特記仕様書2			図R A2: - A3: -



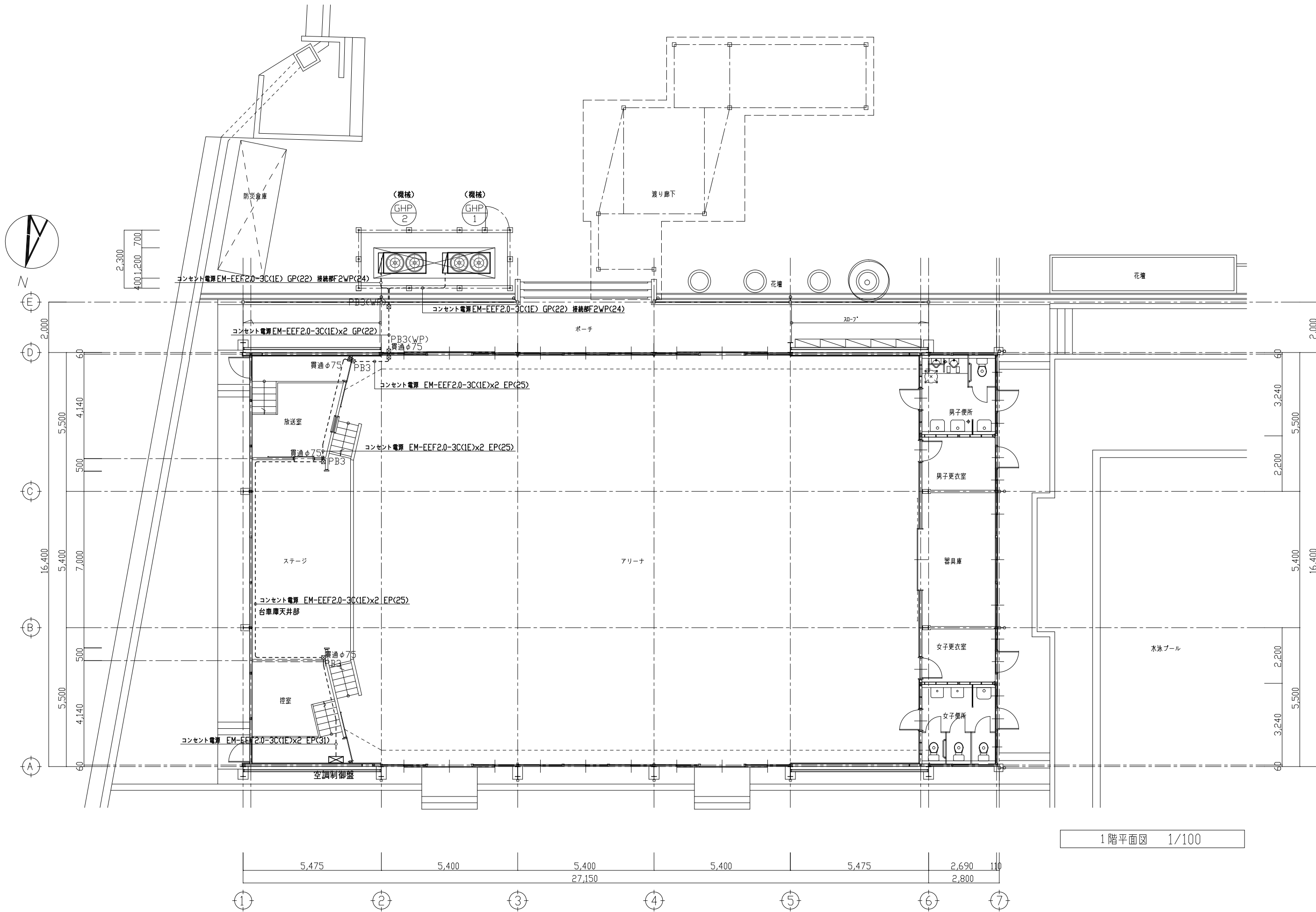
株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	飯橋 晶一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E-03
		構造/設備関係規定 への法適合を確認した 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 分電盤結線図・機器リスト	扉A2:- A3:-

ブルボックス凡例 (WP)は防水型とする			
記 号	名 称		備 考
☒PB2	ブルボックス SS300×300×200 SUS製		
☒PB3	ブルボックス SS400×400×300 SUS製		

ブルボックス→機器図例凡例	
☒ 	ブルボックス → 空調室内機 EM-EEF 2.0-3C(1E) EP(25)
☒ 	ブルボックス → 17-搬送ファン EM-EEF 2.0-3C(1E) EP(25)



株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第レ39号	坂橋 品一 一級建築士登録 第213806号	構造設計 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E - 0 4
		構造/設備関係規定 への法適合を確認した 一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 電源設備 1階平面図1	縮尺 A2: 1/100 A3: -



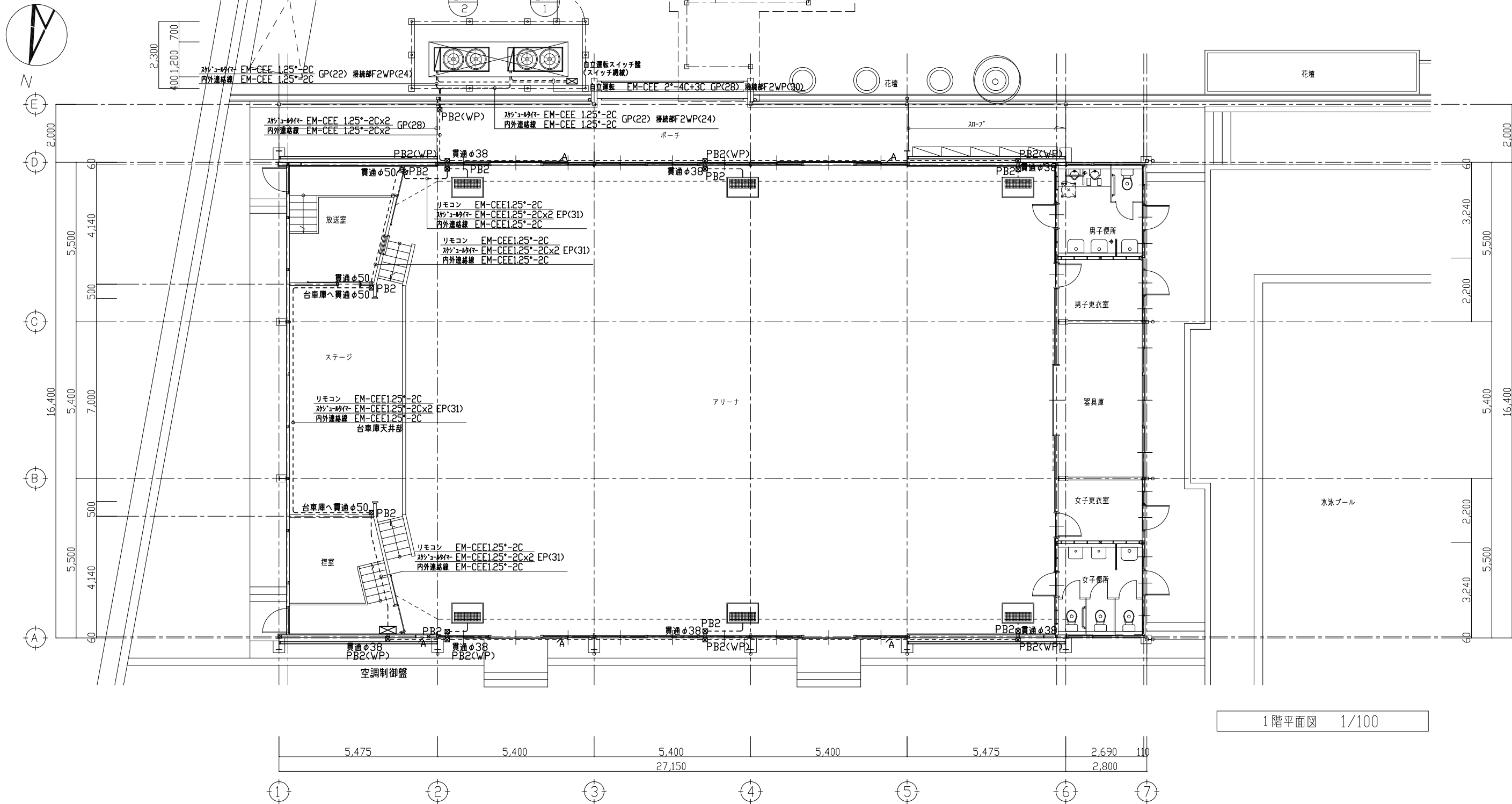
1階平面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第139号	版権 品一 一級建築士登録 第213806号		構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E-05
			構造/設備関係規定 への適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 電源設備 1階平面図2	

ブルボックス凡例 (WP)は防水型とする		
記 号	名 称	備 考
☒PB2	ブルボックス SS300×300×200 SUS製	

記入無き配線は下記による。			
		屋内露出	屋外露出
---A---	EM-CEE1.25°-2C EM-CEE1.25°-2C	内外連絡線 リモコン	EP<25> GP<22>

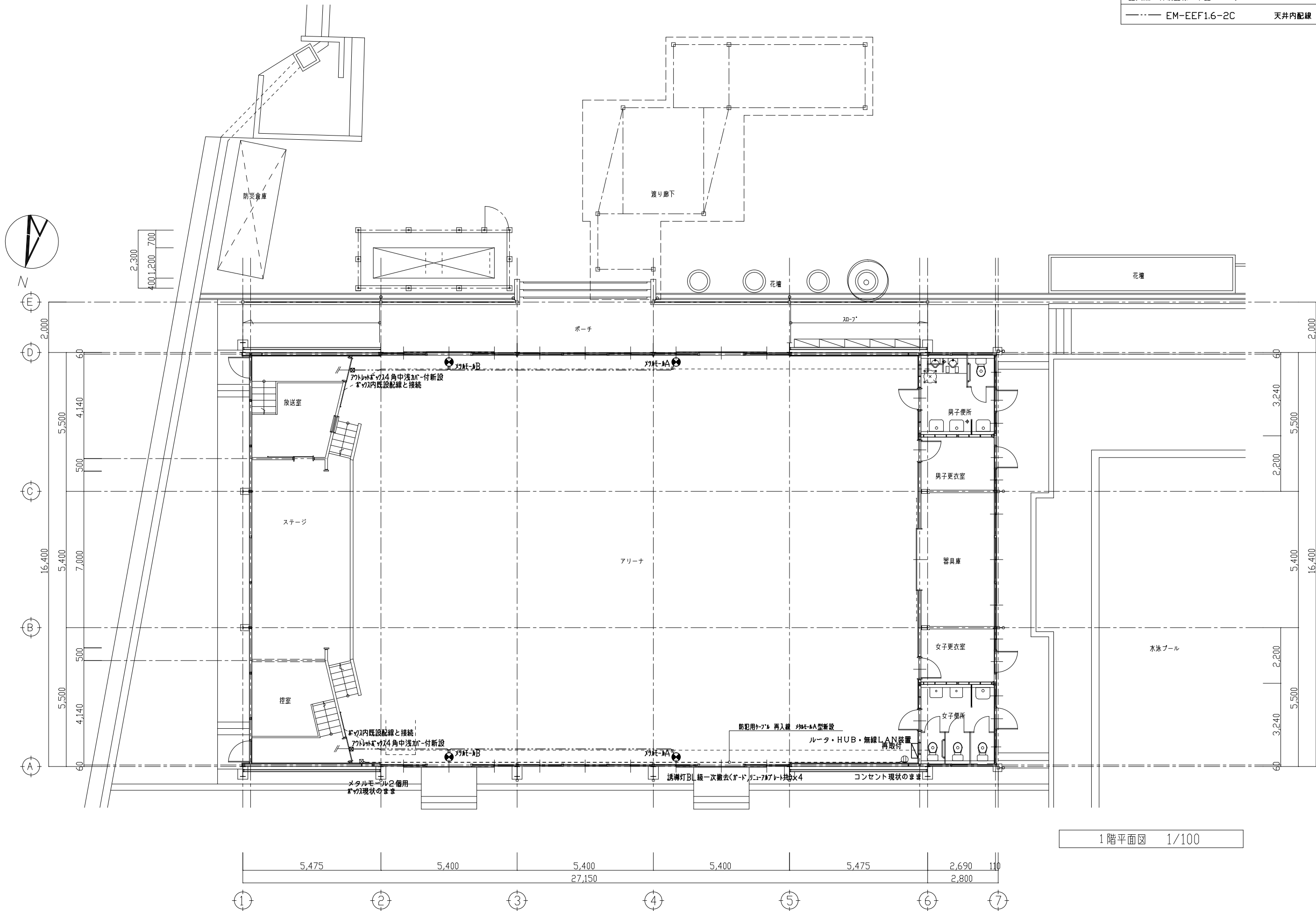
ブルボックス→機器間ケーブル凡例			
☒---	ブルボックス → 空調室内機 EM-CEE 1.25°-2C EM-CEE 1.25°-2C	内外連絡線 リモコン	EP<25>



1 階平面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第レ39号	坂橋 品一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E-06
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()		
				図名 空調計装設備 1階平面図				

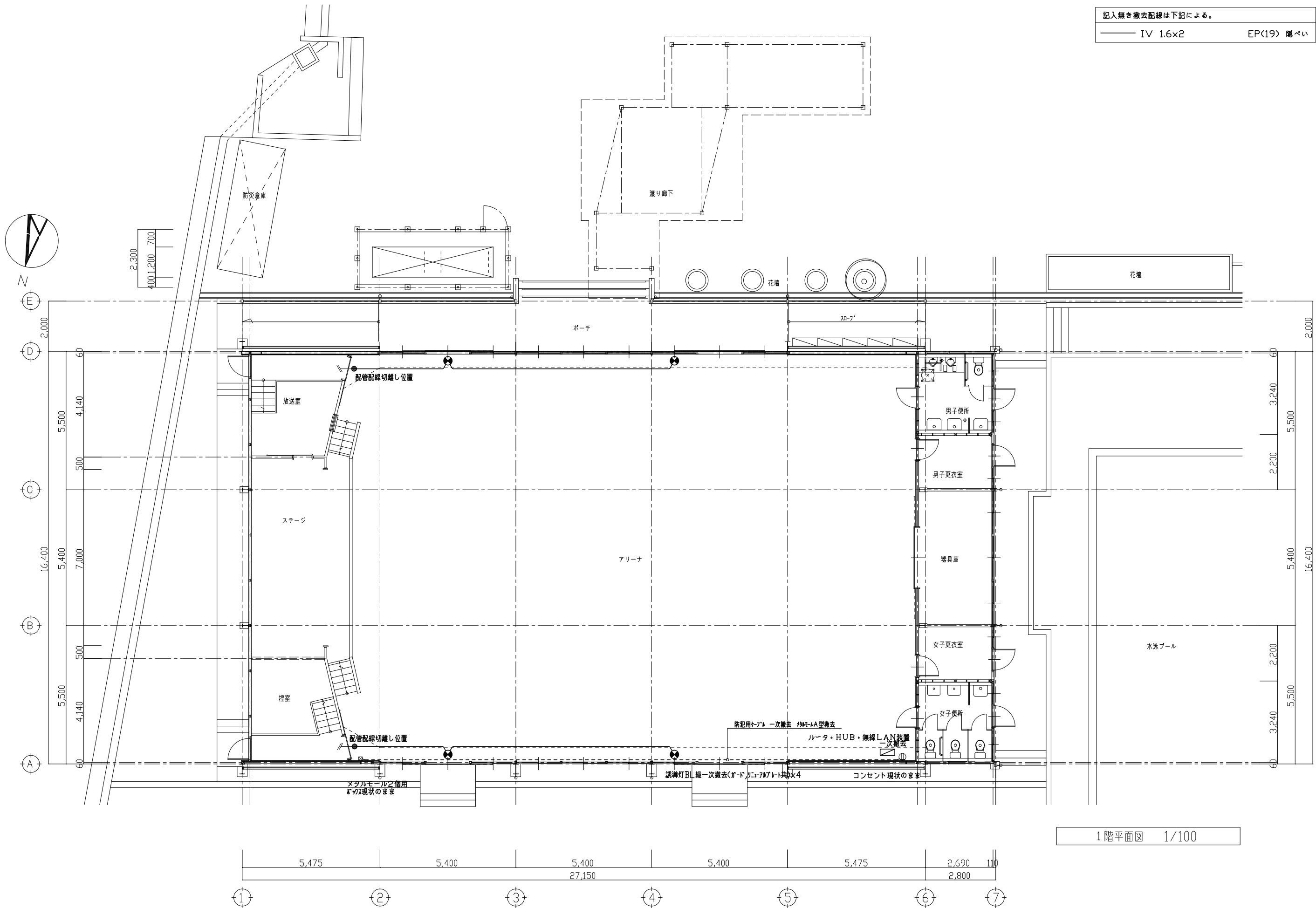
記入無き新設配線は下記による。	
——— EM-EEF1.6-2C	天井内配線



1 階平面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第39号	坂橋 品一 一級建築士登録 第213806号		構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E-07
			構造/設備関係規定 への適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 電灯設備 改修1階平面図	

記入無き撤去配線は下記による。
IV 1.6×2 EP(19) 隠ぺい



1 階平面図 1/100

株式会社 丸山建築事務所 一級建築士事務所登録第39号	坂橋 品一 一級建築士登録 第213806号			構造設計	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計 一級建築士登録 交付番号 ()	名称 笠取第二小学校体育館空調設置 ほか改修工事	No. E-08
				構造/設備関係規定 への法適合を確認した	一級建築士登録 大臣 ()	構造設計/設備設計 一級建築士登録 交付番号 ()	図名 電灯設備 撤去1階平面図	